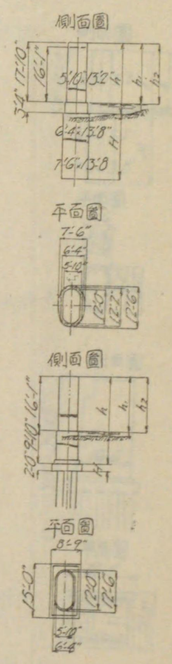
表（上り線）

橋及び橋脚番號臺	況	龜裂狀況	備考
東京方		バラス止破壞川上側面部切斷，川下側面部大縛裂	
1		第一號は床石目筋切れ井筒上部以下2呎の間に數	
2		箇所の縛裂を生ぜり第一第二第三號共第一切斷面	
3		上下各1呎間は無數の縛裂を生ず	
4		橋脚被害第一號に略々同じ井筒縛裂上面以下7呎の間に無數の縛裂あり	
5	れに向て約 10°	第二切斷の上部井筒に數個の縛裂を生ず	
6	移動す	同　上	
7		切斷の下部に數個の縛裂を生ず	
8		第二切斷の上部井筒に數個の縛裂を生ず	
9	動し尙約 3° 東	第二切斷の上部井筒並に軀體に數個の縛裂あり	
10		切斷の下部に數個の縛裂を生ず	
11		同　上	
12	動し尙東及び川	第二切斷の上部井筒に數個の縛裂あり	
13	に約3吋移動す	同　上	
14		切斷の下部に數個の縛裂を生ぜり	
15		同　上	
16		同　上	
17		同　上	
18		同　上	
19	移動す	第二切斷の上部に數個の縛裂を生ず	
20		基礎工上面切斷に近き縛裂を生じ軀體は數個の縛裂を生ぜり	
21	に各 4° 傾斜す	第二切斷上部井筒に數個の縛裂を生ぜり	
22	下方に約 4° 傾	第二切斷上部井筒に大縛裂2個を生ぜり	
23	に各約 4° 傾斜	第二切斷上部井筒に數個の縛裂を生ぜり	
24	方に 5° 傾斜す	第二切斷上部井筒に大縛裂2個を生ぜり	
25	に各2吋移動す	第二切斷上部井筒に數個の縛裂を生ぜり	
26	方に 12 吋移動斜す	第二切斷上部井筒に大縛裂2個を生ぜり	
27	斜す	第二切斷上部井筒に數箇所の龜裂を生ぜり	
沼津方	達す		

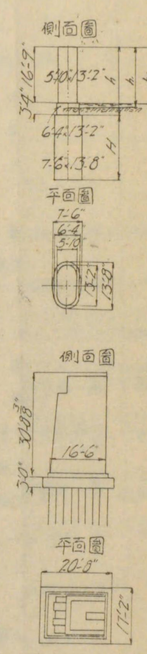


第二十表　其一　東海道本線馬入川橋梁橋臺橋脚被害表（上り線）

橋脚及び橋臺番號	軀體高約 (h)	基礎高約 (H)	基礎種別	桁座より地盤面迄の高約 (h_1)	桁座より水面迄の高約 (h_2)	桁座より切斷面迄の高 第一切斷面	桁座より切斷面迄の高 第二切斷面	顚倒位置	移動狀況	龜裂狀況	備考
東京方	29′-11″	2′-0″	杭長 15 呎 杭打混凝土	15′-0″					前方に傾斜し移動 6 吋に及ぶ	パラス止破壞川上側面部切斷，川下側面部大罅裂	
1	21′-2″	36′-8″	井筒	14′-0″		16′-6″			切斷面上部 4 吋東に移動す	第一號は床石目筋切れ井筒上部以下 2 呎の間に數箇所の罅裂を生ぜり第一第二第三號共第一切斷面上下各 1 呎間は無數の罅裂を生ず	
2	〃	〃	同	14′-0″		16′-6″			同　上		
3	〃	〃	同	13′-0″		16′-0″			同　上		
4	〃	〃	同	12′-0″		16′-0″			同　上		
5	〃	〃	同	16′-0″		15′-0″	27′-0″	第一切斷上部は南東の川下に顚倒す (S 9°E)	沼津方橋臺に向て 6 吋移動し尙これに向て約 10° 傾斜す	橋脚被害第一號に略々同じ井筒罅裂上面以下 7 呎の間に無數の罅裂あり	
6	〃	〃	同	21′-0″	17′-0″	17′-6″	31′-0″	同　上 (S 9°E)	第二切斷面にて約 3 吋東京方に移動す	第二切斷の上部井筒に數個の罅裂を生ず	
7	〃	〃	同	24′-0″	〃	22′-0″		同　上 (S 9°E)		同　上	
8	〃	35′-7″	同	21′-0″	〃	15′-0″	29′-0″	同　上 (S 9°E)		切斷の下部に數個の罅裂を生ず	
9	〃	〃	同	〃	〃	12′-0″	24′-0″	同　上 S 60°E)		第二切斷の上部井筒に數個の罅裂を生ず	
10	〃	〃	同	〃	〃	21′-0″		同　上 (S 57°E)	第二切斷面にて約 6 吋沼津方に移動し尙約 3° 東に傾斜す	第二切斷の上部井筒並に軀體に數個の罅裂あり	
11	19′-5″	28′-4″	同	20′-0″	51′-0 ′	20′-0″		不　明		切斷の下部に數個の罅裂を生ず	
12	〃	27′-11″	同	17′-0″	〃	16′-0″	28′-0″	不　明		同　上	
13	〃	33′-0″	同	20′-0″	〃	21′-0″	29′-0″	第一切斷上部は南東の川下に顚倒す (S 9°E)	第二切斷面にて約 6 吋沼津方に移動し尙東及び川下方に約 10° 傾斜ぜり	第二切斷の上部井筒に數個の罅裂あり	
14	〃	27′-0″	同	19′-0″	〃	20′-0″		同　上 (S 9°E)	第二切斷面にて東京方及び川下方に約 3 吋移動す	同　上	
15	25′-11″	2′-0″	杭打混凝土（杭長十二呎）	19′-0″	〃	18′-6″		同　上 (S 9°E)		切斷の下部に數個の罅裂を生ぜり	
16	〃	〃		18′-0″	〃	18′-0″		同　上 (S 9°E)		同　上	
17	〃	〃		22′-0″	〃	18′-0″		同　上 (S 9°E)		同　上	
18	〃	〃		24′-0″	〃	18′-6″		同　上 (S 9°E)		同　上	
19	〃	〃		13′-0″		15′-0″	25′-0″	同　上 (S 20°E)	第二切斷上部は東京方に約 $1\frac{1}{2}$ 吋移動す	第二切斷の上部に數個の罅裂を生ず	
20	〃	〃		13′-0″		〃	25′-6″	同　上 (S 58°E)		基礎工上面切斷に近き罅裂を生じ軀體は數個の罅裂を生ぜり	
21	19′-5″	32′-0″	井筒	14′-0″		〃	28′-0″	同　上 (S 73°E)	第二切斷上部は東京方及び川下方に各 4° 傾斜す	第二切斷上部井筒に數個の罅裂を生ぜり	
22	〃	28′-8″	同	15′-0″		17′-0″	30′-0″	第一切斷上部は東京方橋臺に向て顚倒す (N 81°E)	第二切斷上部は東京方に約 10° 川下方に約 4° 傾斜し且川下に $1\frac{1}{2}$ 吋移動す	第二切斷上部井筒に大罅裂 2 個を生ぜり	
23	〃	36′-11″	同	13′-0″		18′-0″	29′-0″	同　上 (N 81°E)	第二切斷上部は東京方及び川下方に各約 4° 傾斜す	第二切斷上部井筒に數個の罅裂を生ぜり	
24	〃	31′-4″	同	13′-0″		12′-0″	26′-0″	同　上 (N 81°E)	第二切斷上部は東京方に 10° 川下方に 5° 傾斜す	第二切斷上部井筒に大罅裂 2 個を生ぜり	
25	〃	33′-2″	同	15′-0″		12′-0″	30′-6″	同　上 (N 81°E)	第二切斷上部は東京方及び川下方に各 2 吋移動す	第二切斷上部井筒に數個の罅裂を生ぜり	
26	〃	29′-4″	同	15′-0″		16′-0″	30′-6″	同　上 (N 81°E)	第二切斷上部は東京方に 2 吋川下方に 12 吋移動し且幾分か東京方及び川下方に傾斜す	第二切斷上部井筒に大罅裂 2 個を生ぜり	
27	〃	29′-3″	同	14′-0″		16′-0″	29′-0″	同　上 (N 81°E)	第二切斷上部は川下方に幾分か傾斜す	第二切斷上部井筒に數箇所の龜裂を生ぜり	
沼津方	29′-6″	2′-0″	杭長 12 呎 杭打混凝土	13′-0″					前方に傾斜し移動すること 6 吋に達す		

第二十表　其二　被害表（下り線）

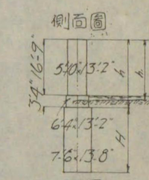
橋脚及び橋臺番號	軀體高約 (h)	基礎工高約 (H)	基礎種別	及び罅裂狀況	備考
東京方	29′-11″	3′-0″	杭長 12 杭打混	バラス止め切斷せられ川上側面に斜罅裂を生ず	基礎地盤以下の被害調査は未了なり
1	20′-1″	34′-2″	井		
2	〃	34′-10″	同	地盤附近に罅裂あり	
3	〃	33′-8″	同		
4	〃	35′-11″	同	川上方に約 3 吋傾斜す	
5	〃	33′-11″	同	臺に向て約 1 呎 3 吋脫出す	
6	〃	34′-0″	同	向つて約 4° 傾斜す	
7	〃	34′-2″	同		
8	〃	34′-9″	同		
9	〃	36′-6″	同		
10	〃	35′-10″	同	墜落す東京方橋臺に向て約 8 吋移動す	
11	〃	38′-1″	同		
12	〃	38′-8″	同		
13	〃	40′-11″	同		
14	〃	41′-11″	同		
15	〃	39′-3″	同		
16	〃	42′-9″	同		
17	〃	42′-5″	同		
18	〃	37′-6″	同		
19	〃	36′-11″	同		
20	〃	44′-0″	同		
21	〃	43′-0″	同		
22	〃	44′-11″	同		
23	〃	40′-5″	同	墜落す	
24	〃	36′-10″	同	2° 東京方橋臺に向て 3° 傾斜す	
25	〃	40′-8″	同	5° 東京方橋臺に向て 2° 傾斜す	
26	〃	37′-2″	同	10° 東京方橋臺に向て 4° 傾斜す	
27	〃	39′-11″	同		
沼津方	24′-10″	3′-0″	杭長 12 杭打混凝		

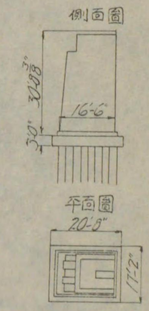


第二十表　其二

東海道本線馬入川橋梁橋臺橋脚被害表（下り線）

橋脚及び橋臺番號	軀體高約 (h)	基礎工高約 (H)	基礎種別	桁座より地盤面迄の高約 (h_1)	桁座より水面迄の高約 (h_2)	桁座より切斷面迄の高約	顚倒位置	移動及び罅裂狀況	備考
東京方	29′-11″	3′-0″	杭長 12 呎杭打混凝土	14′-0″	——		——	前方に約 10 吋移動しバラス止め切斷せられ川上側面に斜罅裂を生ず	基礎地盤以下の被害調査は未了なり
1	20′-1″	34′-2″	井筒	12′-0″	——		川上方へ約 3 吋傾斜		
2	〃	34′-10″	同	〃	——		——	床石目地龜裂し尙下部地盤附近に罅裂あり	
3	〃	33′-8″	同	〃	——		——	床石面に罅裂を生ず	
4	〃	35′-11″	同	〃	——		——	床石面に罅裂を生じ尙川上方に約 3 吋傾斜す	
5	〃	33′-11″	同	17′-0″	——		——	床石目地切れ東京方橋臺に向て約 1 呎 3 吋脫出す	
6	〃	34′-0″	同	20′-0″	16′-0″	17′-0″	切斷上部は南東の川下方に顚倒す (S 9°E)	切斷の下部は川下方に向つて約 4° 傾斜す	
7	〃	34′-2″	同	23′-0″	〃	18′-0″	同　上 (S 30°E)		
8	〃	34′-9″	同	21′-0″	〃	17′-0″	同　上 (S 20°E)		
9	〃	36′-6″	同	〃	〃	13′-0″	同　上 (S 9°E)		
10	〃	35′-10″	同	〃	〃	——		床石目地切れ桁に附着し墜落す東京方橋臺に向て約 8 吋移動す	
11	〃	38′-1″	同	20′-0″	〃	17′-0″	不　明		
12	〃	38′-8″	同	18′-0″	〃	〃	切斷上部は南東の川下方に顚倒す (S 9°E)		
13	〃	40′-11″	同	20′-0″	〃	〃	同　上 (S 9°E)		
14	〃	41′-11″	同	〃	〃	〃	同　上 (S 9°E)		
15	〃	39′-3″	同	〃	〃	〃	不　明		
16	〃	42′-9″	同	〃	〃	15′-0″	不　明		
17	〃	42′-5″	同	22′-0″	〃	17′-0″	切斷上部は南東の川下方に顚倒す (S 9°E)		
18	〃	37′-6″	同	24′-0″	〃	15′-0″	切斷上部は東側の川下方に顚倒す (EW)		
19	〃	36′-11″	同	12′-0″	——	18′-0″	切斷上部は南東の川下方に顚倒す (S 9°E)		
20	〃	44′-0″	同	10′-0″	——	16′-0″	同　上 (S 40°E)		
21	〃	43′-0″	同	10′-0″	——	13′-0″	同　上 (S 45°E)		
22	〃	44′-11″	同	14′-0″	——	14′-0″	同　上 (S 50°E)		
23	〃	40′-5″	同	11′-0″	——	15′-0″	切斷上部は東京方橋臺に向て顚倒す (N 81°E)	床石目筋切れ桁に附着て墜落す	
24	〃	36′-10″	同	14′-0″	——	15′-0″	切斷上部は南東の川下方に顚倒す (S 50°E)	切斷の下部川下方に向て 2° 東京方橋臺に向て 3° 傾斜す	
25	〃	40′-8″	同	15′-0″	——	16′-0″	同　上 (S 50°E)	切斷の下部川下方に向て 5° 東京方橋臺に向て 2° 傾斜す	
26	〃	37′-2″	同	15′-0″	——	15′-0″	同　上 (S 50°E)	切斷の下部川下方に向て 10° 東京方橋臺に向て 4° 傾斜す	
27	〃	39′-11″	同	14′-0′	——	15′-0″	同　上 (S 50°E)	同　上	
沼津方	24′-10″	3′-0″	杭長 12 呎杭打混凝土	14′-0″	——		——	前方に約 2 呎移動す	

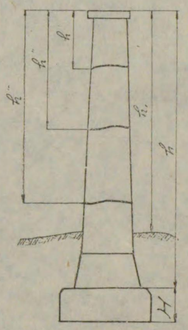




番号	径間 (m)	桁高 (H)	桁の種類	橋座	支点	桁座モルタル	桁座コンクリート	備考
東京方	30'-11"	3'-0"		桁座 12 cm				
1	〃 30'-1"	31'-3"	非	間	12'-0"	—		
2	〃	31'-10"	同	〃	〃	—		
3	〃	32'-8"	同	〃	〃	—		
4	〃	33'-11"	同	〃	〃	—		
5	〃	33'-11"	同	〃	〃	—		
6	〃	34'-0"	同	〃	〃	—		
7	〃	34'-3"	同	〃	22'-0"	〃		
8	〃	34'-0"	同	〃	21'-0"	〃		
9	〃	36'-6"	同	〃	〃	〃		
10	〃	35'-10"	同	〃	〃	〃		
11	〃	35'-1"	同	〃	20'-0"	〃		
12	〃	35'-8"	同	〃	18'-0"	〃		
13	〃	40'-11"	同	〃	20'-0"	〃		
14	〃	41'-11"	同	〃	〃	〃		
15	〃	36'-3"	同	〃	〃	〃		
16	〃	42'-0"	同	〃	〃	〃		
17	〃	42'-9"	同	〃	22'-0"	〃		
18	〃	37'-0"	同	〃	24'-0"	〃		
19	〃	39'-11"	同	〃	12'-0"	—		
20	〃	44'-0"	同	〃	10'-0"	—		
21	〃	43'-0"	同	〃	10'-0"	—		
22	〃	44'-11"	同	〃	14'-0"	—		
23	〃	40'-2"	同	〃	11'-0"	—		
24	〃	36'-10"	同	〃	14'-0"	—		
25	〃	40'-8"	同	〃	15'-0"	—		
26	〃	37'-2"	同	〃	15'-0"	—		
27	〃	30'-11"	同	〃	14'-0"	—		
西岸方	34'-10"	3'-0"	桁座 12 cm	〃	14'-0"	—		

第二十一表　熱海線玉川橋梁橋臺橋脚被害表

橋臺又は橋脚番號	軀體高 (h)	基礎高 (H)	桁座迄の高(大約) 地盤ヨリ (h_1)	桁座より罅裂までの距離(大約) 第一罅裂 (h′)	第二罅裂 (h″)	第三罅裂 (h‴)	移動狀態	罅裂その他の被害狀況	摘要
國府津方橋臺	25′-11″	4′-0″	盛土中に埋れり	5′-6″	なし	なし		バラス止に水平罅裂を生ぜり	
1	34′-11″	4′-0″	25′-0″	11′-8″	21′-4″	なし	第二切斷面以上の部分熱海方に移動す	笠石下面に水平罅裂を生ぜり	
2	46′-11¾″	4′-0″	38′-0″	25′-4″	32′-8″	なし	切斷面以上の部分時針と反對方向に廻轉す	第二切斷面下海側石積少許剝落	
3	53′-2″	4′-0″	47′-0″	21′-9″	31′-6″	39′-10″	第一及び第二切斷面以上の部分それぞれその下部に對し熱海方に少許の移動をなせる上時針と反對方向に廻轉す		
4	58′-3½″	4′-0″	47′-0″	14′-8″	29′-5″	43′-2″	第一第二及び第三切斷面以上の部分それぞれその下部に對し熱海方に少許の移動をなせる上時針と反對方向に廻轉す	第一及び第二罅裂上面海側積石少許剝落せり	
5	58′-3½″	4′-0″	47′-0″	29′-5″	40′-9″	なし	第一第二切斷面以上の部分それぞれその下部に對し熱海方に少許移動をなせる上時針と反對方向に廻轉す	熱海方に於ける第一罅裂及び第二罅裂を繋ぐ縱罅裂あり	
6	51′-0½″	4′-0″	43′-0″	23′-2″	39′-9″	なし	第一及び第二切斷面以上の部分それぞれその下部に對し時針と反對方向に廻轉す	第一切斷面下部及び第二切斷面上部山側石積剝落	
7	51′-11″	4′-0″	42′-0″	34′-5″	なし	なし	切斷面以上の部分その下部に對して時針と反對方向に廻轉す	第一切斷面下部石積剝落	
8	47′-8″	4′-0″	38′-0″	26′-5″	なし	なし	同上	第一切斷面下部熱海方石積剝落	
熱海方橋臺	36′-2⅜″	4′-0″	盛土中に埋れり	7′-0″	なし	なし		バラス止に水平罅裂を生ぜり	



第二十二表　梁

表

橋臺及び橋脚	脚中心移動（吋）				床石面に於ける沈下（呎）			
	上り線		下り線		上り線		下り線	
	川上へ	川下へ	川上へ	川下へ	川上	川下	川上	川下
上野方橋臺		1	—	$3\frac{1}{2}$	0.73 0.72	0.58 0.53	0.80 0.75	0.76 0.67
1	$2\frac{1}{2}$	—	$2\frac{7}{4}$	—	0.86 0.81	0.64 0.50	1.12 1.07	0.89 0.80
2	—	$\frac{3}{4}$	—	$3\frac{1}{8}$	0.80 0.79	0.51 0.49	0.95 0.96	0.79 0.79
3	—	$4\frac{5}{8}$	—	$7\frac{1}{4}$	0.95 0.95	0.66 0.67	1.13 1.15	0.96 1.00
4	—	$2\frac{1}{4}$	—	4	1.24 1.22	0.87 0.87	1.55 1.51	1.29 1.23
5	—	3	—	4	1.39 1.38	1.02 1.00	1.76 1.71	1.46 1.43
6	—	—	—	$1\frac{3}{8}$	1.67 1.71	1.25	2.08 2.11	1.75 1.76
7	$1\frac{3}{8}$	—	$1'\text{-}8\frac{3}{8}$	—	3.28 3.38	2.03 2.15	4.90 4.80	4.00
8	—	—	1′-10	—	3.41 3.37	1.78 1.68	5.17 5.20	—
9	$\frac{3}{4}$	—	$7\frac{3}{16}$	—	2.86 2.47	1.97 1.71	4.07 3.85	3.15 2.86
10	—	—	—	$1\frac{3}{4}$	0.60 0.60	0.52 0.54	0.54 0.60	0.51 0.46
11	$1\frac{1}{8}$	—	$2\frac{1}{2}$	—	—	1.20	— 1.20	—
12	$1\frac{1}{8}$	—	$4\frac{7}{8}$	—	—	1.09 1.05	1.08 1.09	—
13	$1\frac{1}{8}$	—	$3\frac{1}{8}$	—	—	0.36 0.38	0.36 0.37	—
14	$\frac{3}{8}$	—	$2\frac{7}{8}$	—	—	0.65 0.64	0.62 0.58	—
15	$5\frac{1}{4}$	—	$4\frac{1}{2}$	—	—	0.42 —	0.46 —	—
16	$5\frac{7}{16}$	—	$\frac{1}{2}$	—	0.32 0.34	0.29 0.35	0 20 0.20	0.13 0.14
17	$3\frac{3}{4}$	—	$\frac{7}{8}$	—	0.26 0.25	0.21	0.15 0.14	0.14 0.14
18	$4\frac{5}{16}$	—	$1\frac{3}{8}$	—	0.20 0.18	0.17	0.14 0.13	0.14 0.12
19	$5\frac{1}{4}$	—	$1\frac{1}{4}$	—	0.21 0.21	0.17 0.19	0.14 0.13	0.14 0.14
20	$4\frac{1}{8}$	—	$1\frac{3}{16}$	—	0.17 0.17	0.14 0.16	0.13 0.13	0.12 0.12
21	—	—	$1\frac{7}{8}$	—	0.08 0.10	— 0.06	0.09 0.14	0.08 0.07
22	—	—	$1\frac{7}{8}$	—	0.15 0.15	0.14 0.15	0.10 0.11	0.11 0.10
23	—	—	$\frac{3}{4}$	—	0.25 0.28	0.23 0.24	0.17 0.20	0.18 0.21
24	—	—	—	—	0.71	0.67 0.73	0.63 0.68	0.68 0.66
25	—	—	—	—	0.78	2.26	2.26	1.78
26	$\frac{4}{4}$	—	—	—	—	—	—	—

第二十二表

東北本線荒川橋梁

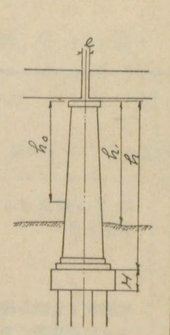
橋臺橋脚沈下及び移動表

橋臺及び橋脚	橋臺橋脚中心移動（吋） 上り線 川上へ	上り線 川下へ	下り線 川上へ	下り線 川下へ	床石面に於ける沈下（呎） 上り線 川上	上り線 川下	下り線 川上	下り線 川下
上野方橋臺		$\frac{1}{2}$	—	—	0.25	0.26	0.26	0.26
1	$2\frac{1}{2}$	—	—	—	0.29 0.28	0.31 0.31	0.19 0.19	0.19 0.20
2	—	$\frac{3}{16}$	—	—	0.30 0.27	0.31 0.30	0.17 0.19	0.17 0.18
3	—	$\frac{1}{2}$	—	—	0.35 0.37	0.37 0.39	0.21 0.24	0.17 0.28
4	—	$\frac{1}{2}$	—	—	1.07 1.00	— —	1.08 —	1.10 1.00
5	—	$\frac{1}{4}$	—	—	1.21 1.21	1.17	1.13	1.16 1.13
6	—	$\frac{1}{8}$	—	—	0.67 0.71	0.65 0.69	0.66 0.65	0.64 0.64
7	$1\frac{7}{8}$	—	—	—	0.46 0.41	0.41 0.37	0.35 0.29	0.37 0.29
8	—	—	—	—	0.39 0.49	0.41 0.38	0.33 0.30	0.29 0.26
9	$\frac{3}{4}$	—	—	—	0.43 0.43	0.41 0.40	0.35 0.31	0.30 0.34
10	—	$1\frac{1}{2}$	—	—	0.37 0.33	0.34 0.32	0.26 0.25	0.23 0.22
11	$1\frac{1}{8}$	—	—	—	0.34 0.32	0.20 0.30	0.32 0.21	0.26 0.22
12	$1\frac{1}{8}$	—	—	—	0.33 0.34	0.30 0.29	0.25 0.24	0.26 0.24
13	$1\frac{1}{8}$	—	—	—	0.39 0.36	0.35 0.31	0.27 0.26	0.26 0.25
14	$\frac{3}{8}$	—	—	—	0.39 0.34	0.28 0.34	0.22 0.29	0.34 0.31
15	$5\frac{1}{4}$	—	$4\frac{3}{8}$	—	0.62 0.61	0.45 0.43	0.72 0-70	0.61 0.59
16	$5\frac{5}{16}$	—	$4\frac{1}{4}$	—	0.65 0.64	0.43 0.43	0.78 0.79	0.63 0.61
17	$3\frac{3}{4}$	—	$4\frac{5}{8}$	—	0.72 0.72	0.47 0.47	0.98 1.02	0.78 0.82
18	$4\frac{5}{16}$	—	$4\frac{3}{4}$	—	1.04 1.06	0.72 0.75	1.28 1.32	1.06 1.06
19	$5\frac{1}{4}$	—	$2\frac{3}{4}$	—	1.22 1.24	0.92 0.96	1.49 1.54	1.28 1.35
20	$4\frac{1}{8}$	—	$5\frac{5}{8}$	—	0.78 0.77	0.92 0.92	1.11 1.10	0.84 0.86
21	—	$6\frac{3}{8}$	—	$6\frac{1}{2}$	0.80 0.79	0.68 0.71	1.39 1.57	1.12 1.17
22	—	$10\frac{3}{8}$	—	$10\frac{5}{8}$	1.88 1.93	1.29 1.32	2.41 2.44	1.98 2.03
23	—	8	—	$7\frac{3}{8}$	1.11 1.11	0.63 0.57	1.61 1.62	1.18 1.19
24	—	$4\frac{5}{8}$	—	$6\frac{7}{8}$	1.27 1.26	0.70 0.71	1.81 1.76	1.39 1.35
25	—	$5\frac{1}{4}$	—	$7\frac{3}{4}$	1.49 1.49	1.12 1.10	1.70 1.71	1.55 1.53
26	$\frac{1}{4}$	—	—	$2\frac{1}{2}$	1.08 1.05	0.83 0.78	1.25 1.23	1.11 1.07

橋臺及び橋脚	橋臺橋脚中心移動（吋） 上り線 川上へ	上り線 川下へ	下り線 川上へ	下り線 川下へ	床石面に於ける沈下（呎） 上り線 川上	上り線 川下	下り線 川上	下り線 川下
27	—	1	—	$3\frac{1}{2}$	0.73 0.72	0.58 0.53	0.81 0.75	0.76 0.67
28	4	—	$2\frac{7}{4}$	—	0.86 0.81	0.64 0.50	1.12 1.07	0.89 0.80
29	—	$\frac{3}{4}$	—	$3\frac{1}{8}$	0.80 0.79	0.51 0.49	0.95 0.96	0.79 0.79
30	—	$4\frac{3}{8}$	—	$7\frac{1}{4}$	0.95 0.95	0.66 0.67	1.13 1.15	0.96 1.00
31	—	$2\frac{1}{4}$	—	4	1.24 1.22	0.87 0.87	1.55 1.51	1.29 1.23
32	—	3	—	4	1.39 1.38	1.02 1.00	1.76 1.71	1.46 1.43
33	$\frac{5}{8}$	—	—	$1\frac{3}{8}$	1.67 1.71	1.25	2.08 2.11	1.75 1.76
34	$1'-9\frac{3}{8}$	—	$1'-8\frac{3}{8}$	—	3.28 3.38	2.03 2.15	4.90 4.80	4.00
35	$2'-1$	—	$1'-10$	—	3.41 3.37	1.78 1.68	5.17 5.20	—
36	$10\frac{3}{16}$	—	$7\frac{3}{16}$	—	2.86 2.47	1.97 1.71	4.07 3.85	3.15 2.86
37	$1\frac{3}{4}$	—	—	$1\frac{3}{4}$	0.60 0.60	0.52 0.54	0.54 0.60	0.51 0.46
38	3	—	$2\frac{1}{2}$	—	—	1.20	— 1.20	—
39	$2\frac{3}{16}$	—	$4\frac{7}{8}$	—	—	1.09 1.05	1.08 1.09	—
40	$3\frac{1}{8}$	—	$3\frac{1}{8}$	—	—	0.36 0.38	0.36 0.37	—
41	$1\frac{3}{8}$	—	$2\frac{7}{8}$	—	—	0.65 0.64	0.62 0.58	—
42	3	—	$4\frac{1}{2}$	—	—	0.42 —	0.46 —	—
43	$2\frac{5}{8}$	—	$\frac{1}{2}$	—	0.32 0.34	0.29 0.35	0 20 0.20	0.13 0.14
44	$2\frac{7}{8}$	—	$\frac{7}{8}$	—	0.26 0.25	0.21	0.15 0.14	0.14 0.14
45	$2\frac{7}{8}$	—	$1\frac{3}{8}$	—	0.20 0.18	0.17	0.14 0.13	0.14 0.12
46	$3\frac{1}{8}$	—	$1\frac{1}{4}$	—	0.21 0.21	0.17 0.19	0.14 0.13	0.14 0.14
47	$3\frac{3}{4}$	—	$1\frac{3}{16}$	—	0.17 0.17	0.14 0.16	0.13 0.13	0.12 0.12
48	$2\frac{9}{16}$	—	$1\frac{7}{8}$	—	0.08 0.10	— 0.06	0.09 0.14	0.08 0.07
49	$3\frac{7}{8}$	—	$1\frac{7}{8}$	—	0.15 0.15	0.14 0.15	0.10 0.11	0.11 0.10
50	$2\frac{3}{4}$	—	$\frac{3}{4}$	—	0.25 0.28	0.23 0.24	0.17 0.20	0.18 0.21
51	2	—	—	—	0.71	0.67 0.73	0.63 0.68	0.68 0.66
大宮方橋臺	$\frac{7}{8}$	—	—	—	0.78	2.26	2.26	1.78
—	—	—	—	—	—	—	—	—

第二脚被害表

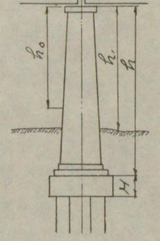
橋脚番號	軀	裂その他被害狀況	隣接橋桁の端尾間隔 (e) 原	地震後 川上桁	地震後 川下桁	摘要	橋脚番號
千葉方橋臺	2	に水平罅裂を生じ 1 吋後退	6″	1½″	½″		千葉方橋臺
1	3	にて切斷せられたり	〃	⅝″	¾″		1
2		縱に 2 條の罅裂又北條側に約一平方呎の を生ず	〃	4″	4¼″		2
3	3	に水平罅裂を生じ又上面にも縱の罅裂を	〃	6½″	5¾″		3
4			〃	5½″	〃		4
5	3	に水平罅裂を生じその一部墜落	7″	6½″	6¾″		5
6	3	盤に近く幅 9′ 高さ約 2′ に亘り煉化石剝 の甚しき所は深さ 1′-6″ に達す	8″	7″	7″		6
7			〃	7¾″	7½″		7
8		の下部にて千葉側の地盤に近く煉化石剝	〃	7½″	8″		8
9		下の部分地盤に至る間所々に煉化石及び 及び崩壞ぜり	〃	7¾″	8″		9
10		同 上	〃	7½″	7¼″		10
11		同 上	〃	〃	7⅛″		11
12		同 上	〃	8¼″	8⅜″		12
13		同 上	〃	6½″	6½″		13
14	3	同 上	7″	8¾″	8½″		14
15	3	同 上	6″	5¾″	6″		15
16		同 上	〃	5½″	5½″		16
17		同 上	〃	¾″	0 1/16″		17
北條方橋臺	2	亘空穴部分崩落	〃	5⅜″	5⅜″		北條方橋臺



第二十三表

北條線湊川橋梁橋臺橋脚被害表

橋脚番號	軀體高 (h)	基礎高 (H)	基礎杭 末口	基礎杭 長	桁座より地盤面迄の約大高 (h_1)	桁座より切断面迄の約大高 (h_0)	切断上部の下部に對する移動（橋脚の軸に沿ひて計れるもの） 縦 千葉方へ	縦 北條方へ	横 川上方へ	横 川下方へ	橋脚中心移動 川上方へ	橋脚中心移動 川下方へ	龜裂その他被害狀況	隣接橋桁の端尾間隔 (e) 原	地震後 川上鈑桁	地震後 川下鈑桁	摘要	橋脚番號
千葉方橋臺	27′-3½″	3′-0″	6寸	21呎	盛土中に埋む	切斷せず	—	—	—	—	—	—	バラス止に水平龜裂を生じ 1 吋後退	6″	1½″	½″		千葉方橋臺
1	30′-2½″	〃	〃	18	20′-0″	23′-8″	約 1″	—	約 2″	—	—	¼″	水平の層にて切斷せられたり	〃	⅜″	¾″		1
2	〃	〃	〃	〃	21′-0″	20′-2″	1¾″	—	—	1¾″	—	1 1/16″	千葉側に縦に 2 條の龜裂又北條側に約一平方呎の剝落箇所を生ず	〃	4″	4¼″		2
3	33′-4″	〃	〃	〃	22′-6″	切斷せず	—	—	—	—	2½″	—	笠石下面に水平龜裂を生じ又上面にも縦の龜裂を生ぜり	〃	6½″	5¾″		3
4	〃	〃	〃	〃	〃	被害なし	—	—	—	—	—	1 1/16″		〃	5½″	〃		4
5	31′-3″	〃	〃	〃	22′-0″	切斷せず	—	—	—	—	—	3¾″	床石下面に水平龜裂を生じその一部墜落	7″	6½″	6¾″		5
6	34′-4½″	〃	〃	15	23′-0″	20′-4″	3½″	—	0	—	—	7/16″	千葉側地盤に近く幅 9′ 高さ約 2′ に亘り煉化石剝落ぜりその甚しき所は深さ 1′-6″ に達す	8″	7″	7″		6
7	〃	〃	〃	〃	24′-0″	被害なし	—	—	—	—	—	½″		〃	7¾″	7½″		7
8	〃	〃	〃	〃	26′-6″	26′-3″	5½″	—	—	6½″	—	6⅝″	水平龜裂の下部にて千葉側の地盤に近く煉化石剝落	〃	7½″	8″		8
9	〃	4′-0″	〃	〃	26′-0″	20′-1″	4″	—	—	3″	—	7½″	切斷面以下の部分地盤に至る間所々に煉化石及び石材剝落及び崩壞ぜり	〃	7¾″	8″		9
10	〃	〃	〃	12	〃	20′-0″	5″	—	6″	—	½″	—	同　上	〃	7½″	7¼″		10
11	〃	〃	〃	〃	25′-6″	18′-1″	1″	—	3″	—	3 1/16″	—	同　上	〃	〃	7⅛″		11
12	〃	〃	〃	〃	26′-0″	19′-0″	6″	—	—	0	¼″	—	同　上	〃	8¼″	8⅛″		12
13	〃	3′-0″	〃	〃	25′-6″	17′-10″	5¾″	—	—	1′-5¼″	—	1′-6″	同　上	〃	6½″	6½″		13
14	31′-3″	〃	〃	〃	〃	16′-0″	3½″	—	—	5½″	—	5½″	同　上	7″	8¾″	8½″		14
15	30′-2½″	〃	—	—	26′-0″	22′-3″	—	6″	—	4¾″	—	4¾″	同　上	6″	5¾″	6″		15
16	〃	〃	—	—	25′-0″	19′-0″	1′-4″	—	—	1′-6″	—	1′-5½″	同　上	〃	5½″	5½″		16
17	〃	〃	6	12	21′-0″	21′-3″	5″	—	—	0	—	1¼″	同　上	〃	¾″	9/16″		17
北條方橋臺	27′-3½″	〃	〃	〃	22′-0″	被害なし	—	—	—	—	—	—	左右袖石亘空積部分崩落	〃	5⅜″	5⅜″		北條方橋臺



第二十四表

建物基礎杭	
タービン臺基礎杭	
汽鑵室器械基礎杭	
煙突基礎杭	
水路並貯水池基礎杭	

□ 2.3′～2.5′ 間に杭を
* 長 18′ 3,124 本，長
× 内 38 本は所定の寸
込みたり
煙突に對する風壓は
る風壓は毎平方呎 4

試驗箇所	試驗杭（松丸太）			
	太さ	長	數	

第二十四表　　赤羽發電所基礎杭表

基礎別杭數

	耐荷重（杭1本當）		杭			
	實際	設計	長	太サ	杭打間隔	杭總數
建物基礎杭	4噸	4.5噸	1.8呎	0.7呎	2.3□-2.5	*34.94
タービン臺基礎杭	6.7	4.7	18,21,24	0.7	2.6	
汽罐室器械基礎杭	6.6	5.6	18	0.7	2.3	×28.56 一基ニ付398
煙突基礎杭	7	7	43.5-50	0.65	2.5	
水路並貯水池基礎杭	—	—	18	0.7	—	40.35

□ 2.3′～2.5′ 間に杭を打ち更にこの長を1邊とする正方形の中心に尙1本宛打込みたる箇所あり
* 長 18′ 3,124 本，長 21′ 160 本，長 24′ 210 本
× 內 38 本は所定の寸法にあらざるもの，尙この外に末口 0.65 呎長 18 呎のもの204 本を增杭として打込みたり
煙突に對する風壓は毎平方呎 50 封度とし圓形に對してはその 2/3 をとりて設計せり又建物に對する風壓は毎平方呎 40 封度とす

基礎杭荷重試驗

試驗箇所	試驗杭（松丸太）			試驗杭打			試驗荷重		荷重撤去後復舊分量最大）	
	太さ	長	數	錘重量	錘落下高	最終沈下	一本當荷重	最大沈下		
				噸	呎	呎	噸	分		
汽罐室 東南壁下	0.7	18	6	0.35	15	0.25	6	5		15日を經過せるも沈下止まず
							9	16		
汽罐室 西北隅	0.7	18	4	0.35	15	0.22-0.25	3	0.5		
							4	1.5		沈降後2日間を經過せるも靜止狀態にあり
							5	2.5		
							6	3.5		
汽罐室器械基礎 汽罐室東南隅	0.7	18	4	0.35	15	0.25-0.33	6	1.5		
							8	4		20日後靜止せり荷重を更に12噸となせるに沈下漸次增大せり
							10	18		
汽罐室器械基礎 汽罐室內中央より稍々西南に偏す	0.7	18	4	0.35	15	0.35-0.5	6	2		
							10	12		沈下はこのまゝに止れり（8噸に減じたるに）
							8	12		
煙突 東側煙突	0.7	24	4	0.35	15	0.15-0.20	4	0.5		
							10	3		13噸を加へし後4日にして沈下靜止せり
							13	9		
煙突 同上	0.65	50	4	0.35	15	0.1-0.14	10	1.2		
							14	1.7		
							*18	2.3		
							20	2.6		
							30	4.4		
煙突 西側煙突	×0.6	46	4	△	動程25呎 1分時打擊數50回	0.2-0.3	8	2		
							15	5		

* は平均沈降を示す
× は米松丸太　A 杭末口 6 寸　元口 9 寸　B 杭 末口 6.2 寸　元口 9.2 寸
C 杭 末口 5.5 寸　元口 9 寸　D 杭 末口 6.5 寸　元口 9.5 寸
△器械打 Steam hammer　重量 動部 3000#　全重量 6000#
尙建物兩側に於て橋桁の床鈑を用ひて又建物東側に於て他の方法により地盤支持力の測定をなせるにそれぞれ次の如き成績を得たり

タービン臺基礎杭	6.7	4.7	18,21,24	0.7	2.6	*34.94
汽罐室器械基礎杭	6.6	5.6	18	0.7	2.3	×28.56 一基ニ付 398
煙突基礎杭	7	7	43.5-50	0.65	2.5	
水路並貯水池基礎杭	—	—	18	0.7	—	40.35

□ 2.3′～2.5′ 間に杭を打ち更にこの長を 1 邊とする正方形の中心に尙 1 本宛打込みたる箇所あり
* 長 18′ 3,124 本，長 21′ 160 本，長 24′ 210 本
× 内 38 本は所定の寸法にあらざるもの，尙この外に末口 0.65 呎長 18 呎 のもの204 本を増杭として打込みたり
煙突に對する風壓は毎平方呎 50 封度とし圓形に對してはその 2/3 をとりて設計せり又建物に對する風壓は毎平方呎 40 封度とす

基礎杭荷重試験

試驗箇所		試驗杭（松丸太）			試驗杭打			試驗荷重		荷重撤去後復舊分量最大）	
		太さ	長	數	錘重量	錘落下高	最終沈下	一本當荷重	最大沈下		
					噸	呎	呎	噸	分		
汽罐室	東南壁下	0.7	18	6	0.35	15	0.25	6 9	5 16		15日を經過せるも沈下止まず
汽罐室	西北隅	0.7	18	4	0.35	15	0.22-0.25	3 4 5 6	0.5 1.5 2.5 3.5		沈降後2日間を經過せるも靜止狀態にあり
汽罐室器械基礎	汽罐室東南隅	0.7	18	4	0.35	15	0.25-0.33	6 8 10	1.5 4 18		20日後靜止せり荷重を更に 12 噸となせるに沈下漸次增大せり
汽罐室器械基礎	汽罐室內中央より稍々西南に偏す	0.7	18	4	0.35	15	0.35-0.5	6 10 8	2 12 12		沈下はこのまゝに止れり（8噸に減じたるに）
煙突	東側煙突	0.7	24	4	0.35	15	0.15-0.20	4 10 13	0.5 3 9		13 噸を加へし後 4 日にして沈下靜止せり
煙突	同上	0.65	50	4	0.35	15	0.1-0.14	*10 14 18 20 30	1.2 1.7 2.3 2.6 4.4		
煙突	西側煙突	×0.6	46	4	△	動程 25 呎 1 分時打擊數 50 回	0.2-0.3	8 15	2 5		

* は平均沈降を示す
× は来松丸太 A 杭末口 6 寸 元口 9 寸 B 杭 末口 6.2 寸 元口 9.2 寸
C 杭 末口 5.5 寸 元口 9 寸 D 杭 末口 6.5 寸 元口 9.5 寸
△器械打 Steam hammer 重量 動部 3000# 全重量 6000#
尙建物兩側に於て橋桁の床鈑を用ひて又建物東側に於て他の方法により堆盤支持力の測定をなせるにそれぞれ次の如き成績を得たり

西側

荷重（T/□′）	平均沈下
	分
1	2.3
2	6
3	17

東側

荷重（T/□′）	最大沈下
1	3 分
2	21

第二十五表　架

送電線路	電壓「ヴォルト」	亘長「哩」
矢口發電所 川崎變電所 間	11,000	3.3
矢口發電所 大井町變電所 間	11,000	2.7
赤羽發電所 大久保變電所 間	11,000	3.2
赤羽發電所 田端變電所 間	11,000	3.4
大久保變電所 吉祥寺變電所 間	11,000	4.0

第二十六表

區間	電氣方式 電「ヴォ
東京　神田間 東京　品川間	直流　60
品川櫻木町間	同　1,20
品川　上野間 池袋　赤羽間	同　60
神田國分寺間	同　60

◉ 饋電線 B.S. 十番六十一
ュラーミル，四十萬サー
れ B.S. 十二番 B.S. 十

◉ 東京神田間及び東京新橋
鐵構柱の一側品川大森間及
線は木柱及び鐵柱に孰れも

地中饋電線路
永樂町變電所より東京驛
電纜2條なり

國分寺　間
同
同
同
黄張線式 複線吊架 B.W.G. #8 銅線 B.W.G. #11 〃
18.7
37.4
150
柱及び鐵柱 柱
1,805 8

るもの最も多し

適所なるた

且饋
もの亦多數

第二十五表　架空送電線路構造一覽表

送電線路	電壓「ヴォルト」	亘長「哩」	電線 線條數	電線 線種太さ「サークュラーミル」	電線 線間距離「呎」	電線 柱間距離「呎」	碍子 型	碍子 種類徑「吋」大きさ	支持物 種類	支持物 基數	建植地及び支線
矢口發電所 川崎變電所間	11,000	3.3	6	銅線 120,000	25	150	ヒン型	三重碍子 7	鐵塔	116	鐵道線路の築堤 B.W.G.十一番 七子撚鐵線2條
矢口發電所 大井町變電所間	11,000	2.7	6	銅線 200,000	25	150	同	三重碍子 8½	鐵柱	97	同上
赤羽發電所 大久保變電所間	11,000	3.2	6	銅線 300,000	25	150	同	三重碍子 6	鐵柱 木柱	61 57	建植地 同上 B.W.G.六番三子撚2條
赤羽發電所 田端變電所間	11,000	3.4	6	銅線 300,000	23	150	同	三重碍子 6	鐵塔 木柱	30 92	同上
大久保變電所 吉祥寺變電所間	11,000	4.0	6	銅線 200,000	25	150	同	三重碍子 6	木柱	138	同上

第二十六表　其一　架空饋電線路構成表

區間	電氣方式 電壓「ヴォルト」	電線 線種	電線 太さ	電線 條數	電線 被覆	支持物 柱間距離「呎」	支持物 種類	支持物 基數
東京　神田間 東京　品川間	直流　600	硬引銅線	37/S.W.G. #10 37/B.W.G. #10 37/B.W.G. #12	4 2 4	第一種絶縁	高架線　30 その他　200	鐵柱及び隅鐵 ブラッケット	124 321
品川櫻木町間	同　1,200	同	61/B.S. #10	4	同	150	鐵柱	585
品川　上野間 池袋　赤羽間	同　600	同	61/B.S. #10 37/B.S. #10	2 2	同	150	鐵柱 木柱	145 895
神田國分寺間	同　600	同	61/B.S. #10 37/B.S. #10 19/B.S. #10	4 2 2	同	150	木柱	704

⊙ 饋電線 B.S. 十番六十一子撚線 B.S. 十番三十七子撚線及び B.S. 十番十九子撚線の切斷面積は約六十萬サークュラーミル，四十萬サークュラーミル及び二十萬サークュラーミルにしてこれが綁縛線はその太さに應じそれぞれ B.S. 十二番 B.S. 十四番及び B.S. 十六番被覆銅線を使用せり

⊙ 東京神田間及び東京新橋間の高架線には側壁に隅鐵ブラッケットを取付け又新橋品川間及び横濱櫻木町間は兩脚鐵構柱の一側品川大森間及び川崎横濱間は中央鐵柱，大森川崎間は側柱に孰れも腕金を取付けて架線し中央山手線は木柱及び鐵柱に孰れも腕木及び腕金を取付けて架設せり

地中饋電線路

永樂町變電所より東京驛兩端の橋梁まで直接埋設せられその線種は B.W.G. 十一番百二十九子撚線單心入鎧裝電纜2條なり

第二十六表 其二　架空電車線路構成表

區間	東京 神田 / 東京 品川 間	品川 櫻木町 間	品川 上野 / 池袋 赤羽 間	神田 國分寺 間
電氣方式	直流 600 ヴォルト 架空單線式	直流 1200 ヴォルト 架空單線式	直流 600 ヴォルト 架空單線式	同
電車線 線種	硬引溝付銅線	同	同	同
電車線 太さ	東京 神田間 B.S. 0.000 / 田町 品川間 B.S. 0.000 / 東京 田町間 000.000	B.S. 0.000	同	同
電車線 吊架法	複單線吊架母線 7/B.W.G. #6 銅線補助線 7/B.G.W. #11 銅線	單線吊架 母線 7/B.W.G. #8 銅線	腕金式及び横張線式 單線吊架 母線 7/B.W.G. #8 銅線 張線 7/B.W.G. #11 〃	横張線式 單線吊架 母線 7/B.W.G. #8 銅線 張線 7/B.W.G. #11 〃
電車線 亘長(哩)	5.1	14.9	18.5	18.7
電車線 延長(哩)	13.0	29.8	37.0	37.4
支持物 柱間距離(呎)	200	150	150	150
支持物 種類	鐵柱 側柱クロスビーム型	鐵柱 側柱及び中央柱	鐵柱及び木柱 側柱及び中央柱	木柱及び鐵柱 側柱
支持物 基數	272	585	186 / 1,689	1,805 / 8

第二十七表　饋電線路及び電車線路被害表

被害種別		被害數量	被害記事
鐵柱	折損	基 5	地震のため隣接建造物の倒壊に因る
鐵柱	捻れ	〃 1	
鐵柱	傾斜	〃 31	曲線上に於ける中央柱にして曲線の方面に傾斜したるもの最も多し
鐵柱	基礎沈下	〃 40	
鐵柱	彎曲	〃 29	
木柱	燒失	本 203	内 50 本は神田上野間の饋電線路電柱とす
饋電線	斷線	箇所 6	火災により接續箇所の臘白目熔融せるため
饋電線	落垂	〃 2	火災に因り電柱燒失碍子破碎のため
饋電線用碍子	破損	延長呎 59 400 / 個 1215	内 55 個は地震により 1160 個は火災に因るものとす
區分開閉器	燒失	〃 7	内 3 個は自働區分開閉器なり
電車線	斷線	箇所 6	内 3 個所は火災に因り區分碍子燒失せるため
電車線	落垂	〃 1	火災に因り電柱燒失のため
吊架線	落垂	〃 1	地震に因り支持碍子破壞せるため
磁器製耐張碍子	破損	個 300	火災に因り龜裂を生じたるもの或は破碎せるもの

◉ 電力線路に於ける支持柱の傾斜又は挫折せるは多くはその基礎地盤が築堤又は河岸の如き脆弱なる箇所なるためにして接近せる建造物の倒壞に基因するものは僅少なり

◉ 地震に因り饋電線の緒綰が弛緩し又は切斷せるもの無數ありしは地盤軟弱の場所に於て電柱の振動烈しく且饋電線が一般送配電線に比し重量大にして尙弛度少きに基因するものなりこれがため碍子の破損せるもの亦多數ありたり

第二十八表　配電線路被害表

區間	電柱燒失（本）	電線燒失（尺）
東京 濱松町間及び横濱 櫻木町間	51	28,500
神田 飯田町間	60	1,700
上野驛	66	19,095

電線線種は B.S. 十番、B.S. 十二番 及び B.S. 十四番被覆銅線にして上表にはその合計を示せり。

第二十九表　電線路工事被害表

被害	種類	數量
鐵塔	倒壞及基礎破壞	基 84
鐵塔	傾斜	基 12
木柱	傾倒	本 526
木柱	切損	本 9
木柱	燒失	本 25
饋電線 B.S. 四番	燒損	呎 10,000
被覆線 B.S. 二番	燒損	呎 12,000
銅線 B.S. 三番三子線	燒損	呎 2,000
高壓碍子	燒損	個 2,060
低壓碍子	燒損	個 4,000

第三十表　電車被害表

被害電車	所屬庫名	被害數量
デハ 23419	品川	庫内にて修理中ジヤッキより墜落す クキンポスト　屈曲 4本 蓄電池函　破損 1個
サロハ 6196	東神奈川	東部側線に於て脱線顛覆す トラスロッド　屈曲 1本 ブレーキハンガー　破損 3個 窓硝子　〃 4枚 ボギーセンターピン　屈曲 2本 雨樋　破損 片側
デハ 6285 デハ 6328	中野	庫内にて修理中ジヤッキより墜落す フートステップ　屈曲 3個 運轉臺引戸　破損 3枚 地圖額　〃 1〃 自働聯結器リーバーブラッケット 1個 自働聯結器リーバー　屈曲 1本 カップラー・ソケット　破損 1個 補助空氣溜　〃 1〃 窓硝子　〃 2枚 戸袋硝子　〃 2〃 蓄電池函　〃 1個 クキンポスト　屈曲 1本
デハ 16312 クハ 6438 デハ 16318	池袋	二番線ヒット決潰のため脱線す 電車に破損及び故障箇所なし

第三十一表　焼失電車一覽表

電車編成	焼失場所	所屬庫名
デロハ サハ サロハ デハ 6140－33723－6194－33513	有樂町新橋間	品川
デハ サハ デハ デハ 23507－33775－23515－23516	新橋濱松町間	同
デハ サハ デハ 23502－33772－23503	神田驛	同
デハ サハ デロハ サロハ デハ 33507－33728－6142－6199－6352	櫻木町驛	東神奈川
デバユニ サハ デハ サロ デハ 6451－33731－6131－33207－6361	同	同
デハ クハ デハ 6318－6434－6319	水道橋驛	中野
デハ クハ デハ 6267－23600－6268	飯田町驛	同
デハ クハ デハ デハ 16318－6431－16319－16320	上野驛	同

◉ 電動車は合計 20 輛にして東神奈川電車庫所屬車及び品川電車庫所屬の内有樂町新橋間にて燒失せるものは總て百五馬力電動機付にして計八輛なり、その他は五十馬力電動機付にして計 12 輛なり

第三十二表　自動信號機被害表

區間		被害信號機數					總基數	總基數に對する百分率
		燒損	顚倒	傾斜	其他	計		
電車區間	東京　櫻木町間	8	2	5	10	25	67	37
	東京　國分寺間	6	11	1	23	41	69	59
	品川　上野間		2	1	4	7	50	14
	計	14	15	7	37	73	186	39
汽車區間	品川　國分寺間	1	11	8	25	45	85	53
	田端　大宮間		3			3	23	13
	計	1	14	8	25	48	108	44
總計		15	29	15	62	121	294	41

第三十三表 其一　通信機械器具被害表

被害種別		通信區				計
		新橋	新宿	上野	兩國橋	
	電話機	79		7	29	113
	試驗盤	2			1	3

第三十二表　自動信號機被害表

區間		被害信號機數 燒損	顚倒	傾斜	其他	計	總基數	總基數に對する百分率
電車區間	東京 櫻木町間	8	2	5	10	25	67	37
	東京 國分寺間	6	11	1	23	41	69	59
	品川 上野間		2	1	4	7	50	14
	計	14	15	7	37	73	186	39
汽車區間	品川 國分寺間	1	11	8	25	45	85	53
	田端 大宮間		3			3	23	13
	計	1	14	8	25	48	108	44
總計		15	29	15	62	121	294	41

第三十三表 其一　通信機械器具被害表

被害種別		通信區 新橋	新宿	上野	兩國橋	計
破損機器	電話機	79		7	29	113
	試驗盤	2			1	3
	電信機	10		1	3	14
	雙信閉塞器	30				30
	タブレット式閉塞器	10			14	24
	電鈴	62		2	9	73
	自働轉極器				2	2
	電動發電機	1	1			2
	蓄電池	131	39			170
	電話交換機	5		3	4	12
	電話機	1,015	63	385	135	1,598
	分電盤	2		5	1	8
	電信機	19	3	54	13	89
燒失機器	雙信閉塞器	16	1	5	3	25
	タブレット式閉塞器	2				2
	鎖錠器	10		5		15
	撰別器	2				2
	反應器	10		8	1	19
	表示器	11				11
	自働揭示器	4				4
	電鈴	509	7	115	80	711
	電氣時計	210				210
	自働報時機	1		1	1	3
	電働發電機			2	1	3
	配電盤			2	2	4
	蓄電池	114		150		264

第三十三表 其二　通信線路被害表

區間		電柱 燒失	折損	轉倒	傾斜	支柱 燒失	支線 燒損	弛緩
東京	沼津間	294	4	125	585	69	218	3,441
東神奈川	八王子間		5	8	104			345
大船	横須賀間	1	3	1	71			240
國府津	眞鶴間		2	36	90			120
東京	八王子間(中央線)	53		3	28	2	7	470
品川	上野間(山手線)			25				590
東京	上野間	52						
上野	久喜間	59			27			468
大宮	高崎間				12			200

	總　計	15	29	15	62	121	294	41

第三十三表 其一　通信機械器具被害表

被害種別		通信區 新橋	新宿	上野	兩國橋	計
破損機器	電話機	79		7	29	113
	試驗盤	2			1	3
	電信機	10		1	3	14
	雙信閉塞器	30				30
	タブレット式閉塞器	10			14	24
	電鈴	62		2	9	73
	自働轉極器				2	2
	電動發電機	1	1			2
	蓄電池	131	39			170
	電話交換機	5		3	4	12
	電話機	1,015	63	385	135	1,598
	分電盤	2		5	1	8
	電信機	19	3	54	13	89
燒失機器	雙信閉塞器	16	1	5	3	25
	タブレット式閉塞器	2				2
	鎖錠器	10		5		15
	撰別器	2				2
	反應器	10		8	1	19
	表示器	11				11
	自働揭示器	4				4
	電鈴	599	7	115	80	711
	電氣時計	210				210
	自働報時機	1		1	1	3
	電働發電機			2	1	3
	配電盤			2	2	4
	蓄電池	114		150		264

第三十三表 其二　通信線路被害表

區間		電柱 燒失	折損	轉倒	傾斜	支柱 燒失	支線 燒損	弛緩
東京	沼津間	294	4	125	585	69	218	3,441
東神奈川	八王子間		5	8	104			345
大船	横須賀間	1	3	1	71			240
國府津	眞鶴間		2	36	90			120
東京	八王子間(中央線)	53		3	28	2	7	470
品川	上野間(山手線)			25				590
東京	上野間	52						
上野	久喜間	59			27			468
大宮	高崎間				12			206
日暮里	土浦間	17	2		112			346
兩國橋	成東間	143			5			198
蘇我	江見間		27	1	196			2,487
計		619	43	199	1,230	71	225	8,911

第三十四表　其一　橋梁床

東海道本線（備

區間		位置		
自	至	哩	鎖	節

第三十四表　其一　橋梁床石上面高檢測一覽表

東海道本線（備考 I ハ東京方橋臺、II ハ沼津方橋臺ヲ示ス）

區間 自	區間 至	位置 哩	位置 鎖	位置 節	名稱		床石上面又は準據の高 震災前	床石上面又は準據の高 震災後	床石上面又は準據の高 差引（＋隆起 －沈下）
							呎	呎	呎
神奈川	横濱	16	44	51.2	内海川橋梁	I	10.26	10.51	+0.25
						II	10.13	10.01	−0.12
		16	67	43.4	帷子川橋梁	I	7.81	7.43	−0.38
						II	7.86	7.45	−0.41
					陸地測量部一等水準點	31.1			+0.312
		17	17	62.8	櫻川橋梁	I	6.83	7.09	+0.19
						II	7.24	7.39	+0.15
程ヶ谷	戸塚	24	21	53.0	柏尾川橋梁	I	63.43	58.875	−4.405
						II	63.21	58.875	−4.335
					陸地測量部一等水準點	34			+0.558
戸塚	大船	26	41	1	豐田川橋梁	I	43.20	38.26	−4.94
						II			
					陸地測量部一等水準點	35			+1.286
		28	54	65	飯島川橋梁	I	38.70	33.115	−5.585
						II	38.59	33.055	−5.535
		29	34	78	笠間川橋梁	I	35.42	31.255	−4.165
						II	35.33	31.145	−4.185
大船	藤澤	29	61	17	小袋川橋梁	I	33.58	30.29	−3.290
						II	33.535	30.27	−3.265
		30	29	78	山崎川橋梁	I	29.04	25.54	−3.500
						II	29.15	25.59	−3.56
		30	79	81	宮ノ前橋梁	I	30.80	27.43	−3.37
						II	30.75	27.26	−3.49
					陸地測量部一等水準點	5360			+2.448
		32	00	04	堺川橋梁	I	26.28	23.09	−3.19
						II	26.98	23.74	−3.24
藤澤	茅ヶ崎	33	33	37	鵠沼川橋梁	I	29.67	26.95	−2.72
						II	29.70	26.95	−2.75
					陸地測量部一等水準點	38			+2.69
					同上	39			+3.435
茅ヶ崎	平塚	38	8	71	鳥井戸川橋梁	I	17.80	16.06	−1.74
						II	17.91	16.06	−1.85
		38	37	22	茅ヶ崎川橋梁	I	17.12	15.04	−2.08
						II	17.10	15.33	−1.77
		39	28	12	馬入川橋梁 新	I	23.24	22.085	−1.155
					舊	I	26.24	24.825	−1.415
					新	II	23.34	22.135	−1.205
					舊	II	26.34	25.015	−1.325
					陸地測量部一等水準點	40			+4.094
平塚	大磯	41	26	35	古花水川橋梁	I	17.45	17.02	−0.43
						II	17.49	17.09	−0.40
		41	38	12	新花水川橋梁	I	18.18	17.90	−0.28
						II	18.60	18.15	−0.45
					陸地測量部一等水準點	41			+5.541
					同上	41.1			+5.968
大磯	二宮	44	17	46	不動川橋梁	I	46.23	47.435	+1.205
						II	45.81	46.985	+1.175
		45	74	89	葛川橋梁	I	65.28	66.785	+1.505
						II	65.28	66.825	+1.535
二宮	國府津	47	33	35	押切川橋梁	I	49.48	50.615	+1.135
						II			
					陸地測量部一等水準點	43			+6.604
					同上	43.1			+6.493
國府津	下曾我	51	8	71	股澤川橋梁	I	79.41	77.40	−2.04

							II	26.98	23.74	−3.24
藤澤	茅ヶ崎	33	33	37	鵠沼川橋梁		I	29.67	26.95	−2.72
							II	29.70	26.95	−2.75
					陸地測量部一等水準點		38			+2.69
					同上		39			+3.435
茅ヶ崎	平塚	38	8	71	鳥井戸川橋梁		I	17.80	16.06	−1.74
							II	17.91	16.06	−1.85
		38	37	22	茅ヶ崎川橋梁		I	17.12	15.04	−2.08
							II	17.10	15.33	−1.77
		39	28	12	馬入川橋梁	新	I	23.24	22.085	−1.155
						舊	I	26.24	24.825	−1.415
						新	II	23.34	22.135	−1.205
						舊	II	26.34	25.015	−1.325
					陸地測量部一等水準點		40			+4.094
平塚	大磯	41	26	35	古花水川橋梁		I	17.45	17.02	−0.43
							II	17.49	17.09	−0.40
		41	38	12	新花水川橋梁		I	18.18	17.90	−0.28
							II	18.60	18.15	−0.45
					陸地測量部一等水準點		41			+5.541
					同上		41.1			+5.968
大磯	二宮	44	17	46	不動川橋梁		I	46.23	47.435	+1.205
							II	45.81	46.985	+1.175
		45	74	89	葛川橋梁		I	65.28	66.785	+1.505
							II	65.28	66.825	+1.535
二宮	國府津	47	33	35	押切川橋梁		I	49.48	50.615	+1.135
							II			
					陸地測量部一等水準點		43			+6.601
					同上		43.1			+6.493
國府津	下曾我	51	8	71	殿澤川橋梁		I	79.41	77.40	−2.01
							II	79.55	77.62	−1.93
					陸地測量部一等水準點		44			+6.181
下曾我	松田	52	8	99	上曾我川橋梁		I	111.53	118.29	+6.76
							II	111.32	117.93	+6.61
		52	61	67	菊川橋梁		I	116.43	114.525	−1.905
							II	116.63	114.785	−1.845
		54	64	19	川音川橋梁		I	198.26	195.03	−3.23
							II	198.32	194.82	−3.50
松田	山北	56	48	47	村雨川橋梁		I	255.78	251.085	−4.695
							II	255.80	251.085	−4.715
		57	63	96	尺里川橋梁		I	307.11	301.73	−5.38
							II	307.56	302.28	−5.28
山北	谷峨	59	27	91	皆瀬川橋梁		I	289.55	285.98	−3.57
							II	290.35	286.80	−3.55
		60	16	58	第一酒匂川橋梁		I	350.54	344.86	−5.68
							II	353.45	347.94	−5.51
		60	35	62	第二酒匂川橋梁		I	367.37	361.975	−5.395
							II	370.80	365.615	−5.185
		60	52	31	第三酒匂川橋梁		I	380.37	374.865	−5.505
							II	383.20	377.470	−5.730
谷峨	駿河	61	7	71	畑川橋梁	上リ	I	424.11	419.58	−5.53
						上リ	II	425.09	420.30	−4.79
		62	59	48	第四相澤川橋梁		I	544.27	538.755	−5.515
							II	546.96	541.355	−5.605
		63	63	96	大澤川橋梁		I	682.94	678.31	−4.63
							II	683.63	678.98	−4.65

第三十四表　其二　　橋梁床石上面高檢測一覽表

熱海線　（備考 I は國府津方橋臺，II は熱海方橋臺を示す）

區間 自	區間 至	位置 哩	位置 鎖	位置 節	名稱		床石上面又は準據の高 震災前	床石上面又は準據の高 震災後	床石上面又は準據の高 差引
					陸地測量部一等水準點	44			呎 +6.181
國府津	鴨宮	1	37	80	酒匂堰橋梁	I	呎 35.19	呎 35.985	+0.795
						II	35.15	35.935	+0.785
		1	53	00	菊川橋梁	I	32.93	33.685	+0.755
						II	32.83	33.505	+0.675
		1	79	80	蛭田橋梁	I	31.96	32.315	+0.355
						II	31.95	32.325	+0.375
鴨宮	小田原	2	10	52	上新田橋梁	I	32.10	32.785	+0.685
						II	31.58	32.255	+0.675
		2	13	78	上河原橋梁	I	33.53	33.715	+0.185
						II	33.46	33,665	+0.205
		2	20	70	下河原橋梁	I	33.33	33.595	+0.265
						II	33.44	33.705	+0.265
		2	30	50	中新田橋梁	I	38.05	37.975	−0.075
						II	38.24	38.175	−0.065
		2	33	70	下新田橋梁	I	40.62	40.575	−0.045
						II	40.74	40.725	−0.015
		2	53	27	酒匂川橋梁	I	37.14	37.135	0
						II	31.78	31.760	−0.02
		3	25	50	葦子川橋梁	I	31.39	31.155	−0.235
						II	34.40	34.070	−0.33
小田原	早川	4	46	10	小峯街道架道橋	I	60.16	58.79	−1.37
						II	60.51	58.98	−1.53
		4	49	91	小田原架道橋	I	59.62	57.79	−1.83
						II	59.21	58.09	−1.12
		4	54	75	大久寺前橋梁	I	55.31	54.48	−0.83
						II	55.16	54.34	−0.82
		4	72	50	早川橋梁	I	46.23	45.215	−1.015
						II	36.98	36.225	−0.755
		5	1	70	早川堰橋梁	I	36.61	35.735	−0.875
						II	36.20	35.395	−0.805
早川	根府川	6	14	71.1	玉川橋梁	I	75.88	75.265	−0.615
						II	79.85	78.815	−1.035
					陸地測量部一等水準點	46			+3.507

5
1

第三十四表　其二　稻架米石上面高換測一覽表

（備考 I 注測前米石高、II 注換測米石高是レ示ス）

所在	小組	番号	名称		位置 緯	位置 経	高	換測米石上面高 差引
稲架群	砂 宮	1	宮ノ前稲架	I	37	30	32.70	+0.191
				II			32.15	+0.796
		1	堀川稲架	I	32	00	32.05	+0.785
				II			32.85	+0.756
		1	新田稲架	I	29	80	31.90	+0.805
				II			31.96	+0.676
	小田原	2	上新田稲架	I	10	22	32.10	+0.554
				II			31.38	+0.676
		2	上河原稲架	I	12	78	32.33	+0.785
				II			32.40	+0.709
		2	下河原稲架	I	20	70	32.32	+0.322
				II			32.44	+0.205
		2	中新田稲架	I	30	30	32.05	−0.079
				II			32.24	−0.090
		2	下新田稲架	I	33	70	40.82	−0.045
				II			40.74	−0.019
		2	新外田稲架	I	33	37	37.14	0
				II			37.18	−0.02
		2	宮ノ川稲架	I	33	30	31.30	−0.252
				II			31.36	−0.22
小屋原	舟 川	4	小屋前宮ノ脇	I	40	10	30.10	−1.32
				II			30.30	−1.39
		4	小田原宮前	I	40	01	29.62	−1.82
				II			30.32	−1.12
		4	大久保稲架	I	51	75	32.31	−0.82
				II			32.16	−0.82
			川前稲架	I	52	50	30.22	−1.010
				II			30.08	−0.752
			舟川稲架	I		50	32.61	−0.824
				II			32.30	−0.807
			宮ノ脇稲架	I	41		32.88	−0.810
				II			32.92	−1.051
			宮前稲架	I				

第三十四表　其三　　橋梁床石上面高檢測一覽表

北條線　（備考 I は蘇我方橋臺，II は江見方橋臺を示す）

區間 自	區間 至	位置 哩	位置 鎖	位置 節	名稱		床石上面又は準據の高 震災前	震災後	差引
大貫	佐貫町	29	33	3	岩瀬川橋梁	I		呎 22.44	
						II		23.20	
		29	61	2	大貫川橋梁	I	呎 27.84	27.35	呎 −0.49
						II	27.92	27.47	−0.45
		30	30	19	久保川橋梁	I		45.18	
						II		45.185	
					陸地測量部一等水準點	3860			+2.982
佐貫町	上總湊	31	58	33	佐貫川橋梁	I	53.35	53.41	+0.06
						II	〃	53.58	+0.23
		32	2	64	染川橋梁	I	50.18	50.59	+0.41
						II	50.50	50.92	+0.42
		33	16	62	五佐田川橋梁	I	51.24	50.02	+0.78
						II	51.65	52.46	+0.81
		34	7	7	世入川橋梁	I	37.88	38.69	+0.81
						II	37.60	38.36	+0.76
上總湊	濱金谷	34	56	72.1	湊川橋梁	I	26.90	28.055	+1.165
						II	27.05	27.87	+0.82
					陸地測量部一等水準點	3863			+3.780
					同	3865			+3.983
		36	26	17.1	竹岡川橋梁	I	23.89	24.855	+0.965
						II	25.12	26.165	+1.045
		39	21	60.1	芝崎川橋梁	I	20.54	21.985	+1.445
						II	20.00	21.245	+1.245
					陸地測量部一等水準點	3867			+4.249
濱金谷	保田	39	74	79.4	金谷川橋梁	I	16.78	18.425	+1.645
						II	17.66	19.285	+1.625
					陸地測量部一等水準點	3868			+4.285
		40	5	3.7	天王川橋梁	I	24.78	26.29	+1.510
						II	26.87	28.41	+1.540
		41	9	39.9	小磯川橋梁	I	49.10	50.90	+1.80
						II	48.87	50.35	+1.48
		41	59	87.9	元名川橋梁	I	25.23	26.52	+1.29
						II	25.24	26.53	+1.29
					陸地測量部一等水準點	3870			+4.032
保田	安房勝山	42	22	24.9	保田川橋梁	I	16.55	17.855	+1.305
						II	15.57	16.925	+1.335
					陸地測量部一等水準點	3871			+4.229
		43	40	24.9	大六川橋梁	I	15.56	16.93	+1.370
						II	15.33	16.66	+1.330
安房勝山	岩井	44	9	39.9	佐久間川橋梁	I	12.79	14.54	+1.75
						II	12.78	14.53	+1.75
					陸地測量部一等水準點	3873			+4.596
		45	49	11.0	合礎川橋梁	I	30.09	31.76	+1.67
						II	30.10	31.80	+1.70
岩井	富浦	46	10	26	大川橋梁	I	31.935	33.85	+1.915
						II	31.92	33.91	+1.990
					陸地測量部一等水準點	3874			+4.810
		46	31	76	木ノ根橋梁	I	39.59	41.57	+1.980
						II	39.68	41.65	+1.970
		47	23	92	南谷橋梁	I	87.24	89.385	+2.145
						II	87.37	89.545	+2.175
		49	6	13.5	豐川橋梁	I	27.47	29.07	+1.600
						II	27.15	28.81	+1.660
富浦	那古船形	50	30	92	岡本川橋梁	I	31.93	33.72	+1.790
						II	31.89	33.69	+1.800
那古船形	安房北條	51	16	18.5	鈍口川橋梁	I	21.86	23.86	+2.000
						II	20.95	22.90	+1.900

						II	25.24	26.53	+1.29
					陸地測量部一等水準點	3870			+4.032
保　田	安房勝山	42	22	24.9	保田川橋梁	I	16.55	17.855	+1.305
						II	15.57	16.925	+1.335
					陸地測量部一等水準點	3871			+4.229
		43	40	24.9	大六川橋梁	I	15.56	16.93	+1.370
						II	15.33	16.66	+1.330
安房勝山	岩　井	44	9	39.9	佐久間川橋梁	I	12.79	14.54	+1.75
						II	12.78	14.53	+1.75
					陸地測量部一等水準點	3873			+4.596
		45	49	11.0	合礎川橋梁	I	30.09	31.76	+1.67
						II	30.10	31.80	+1.70
岩　井	富　浦	46	10	26	大川橋梁	I	31.935	33.85	+1.915
						II	31.92	33.91	+1.990
					陸地測量部一等水準點	3874			+4.810
		46	31	76	木ノ根橋梁	I	39.59	41.57	+1.980
						II	39.68	41.65	+1.970
		47	23	92	南谷橋梁	I	87.24	89.335	+2.145
						II	87.37	89.545	+2.175
		49	6	13.5	豐川橋梁	I	27.47	29.07	+1.600
						II	27.15	28.81	+1.660
富　浦	那古船形	50	30	92	岡本川橋梁	I	31.93	33.72	+1.790
						II	31.89	33.69	+1.800
那古船形	安房北條	51	16	18.5	銚口川橋梁	I	21.86	23.86	+2.000
						II	20.95	22.90	+1.900
		52	27	11	平久里川橋梁	I	11.23	13.67	+2.440
						II	11.21	13.605	+2.395
					陸地測量部一等水準點	3880			+5.154
					同	3881			+5.072
安房北條	九　重	54	14	83.4	境川橋梁	I	18.155	20.86	+2.705
						II	18.22	20.88	+2.660
		56	4	24.0	瀧川橋梁	I	61.65	64.03	+2.380
						II	61.54	63.91	+2.370
					陸地測量部一等水準點	3882			+4.875
		56	67	14.0	田中川橋梁	I	64.37	66.425	+2.055
						II	64.41	66.515	+2.105
九　重	千　倉	57	52	44.0	大平避溢橋	1	74.61	76.52	+1.910
						II	74.74	76.63	+1.890
千　倉	南三原	60	55	96.4	第二瀬戸川橋梁	I	42.80	43.605	+0.805
						II	42.74	43.495	+0.755
		62	46	69.4	入宇田川橋梁	I	32.62	33.24	+0.620
						II	32.34	32.90	+0.560
		62	73	40.4	丸山川橋梁	I	30.03	30.65	+0.620
						II	29.96	30.63	+0.670
					陸地測量部一等水準點	3886			+3.625
					同	3887			+3.399
南三原	和田浦	64	30	22.4	温石川橋梁	I	17.76	18.405	+0.645
						II	17.84	18.455	+0.615
		64	51	47.4	三原川橋梁	I	17.83	18.610	+0.780
						II	17.87	18.60	+0.740
		65	41	81.6	南三號橋梁	I	38.21	38.875	+0.665
						II	38.08	38.655	+0.575
和田浦	江　見	66	72	65	長者川橋梁	I	38.45	39.150	+0.700
						II	38.29	38.93	+0.640
					陸地測量部一等水準點	3889			+3.379
					同	3890			+3.211
		68	66	53	州見川橋梁	I	37.86	38.215	+0.335
						II	39.06	39.385	+0.325

1

第三十五表

地方鐵道損害其他調査表

（大正十二年九月）

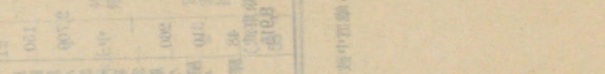
種別 / 鐵道名	線路 摘要	線路 損害額	線路 應急費	建物 摘要	建物 損害額	建物 應急費	車輛 摘要	車輛 損害額	車輛 應急費	其他 損害額	其他 應急費	計 損害額	計 應急費	震災前に於ける建設費	建設費に對する損害割合	罹災從事員數	營業休止時間	記事
東武	築堤陷沒道床沈下其他	27,003円	—円	本社以下燒失又は倒潰	124,588円	—円	—	120,582円	—円	59,613円	23,049円	331,786円	23,049円	18,091,314円	0.018	死1重傷1其他300	9日	應急費細別不明
目黒蒲田	同	7,203	—	變電所倒潰その他	10,500	—	—	—	—	—	—	17,703	—	3,400,000	0.005	類燒其他14	9	
青梅	同	2,925	—	出張所燒失	14,700	500	貨車11燒損	6,631	—	—	—	24,256	500	2,344,470	0.01	—	—	
武蔵野	同	12,900	4,614	驛小破	33,830	6,290	同2同	5,400	1,000	11,958	48	64,088	11,952	2,230,000	0.029	家屋倒潰者4	1	
多摩	同	9,108	833	同	970	—	同1同	3,000	—	—	—	13,078	833	632,000	0.021	同4	13	
池上電氣	同	500	—	同	700	—	—	—	—	—	—	1,200	—	570,000	0.002	類燒3	12	
西武（川越線）	橋梁橋脚龜裂其他	7,795	150	驛車庫社宅小破	1,080	—	貨車5燒損	3,000	—	—	—	11,875	150	873,856	0.014	—	—	
相模	道床陷沒決裂其他	36,052	2,700	驛その他小破	500	250	—	—	—	2,500	—	39,052	2,950	1,200,000	0.033	家屋倒潰者18	7	
小田原電氣	同上及類燒	276,281		5驛全潰その他小破	14,520	500	客車2大破	8,000	1,000	293,000	2,904	591,801	4,404	3,100,167	0.191	死4重傷5其他35	休止中	外に軌道部492,250圓電燈部265,000圓損害あり
千葉縣營	—	—	—	3驛小破	598	—	—	—	—	—	—	598	—	630,770	0.000	—	—	
秩父	石垣崩其他	600	260	驛その他小破	2,750	—	貨車1燒損	1,255	—	—	—	4,605	260	3,010,000	0.001	—	—	
駿豆	道床小破	1,988	310	屋根瞭落その他	3,593	110	貨車3小破	100	—	—	—	5,681	420	769,789	0.007	—	2	貨車4東京方面にあり損害不明外に軌道部780圓損害あり
富士身延	同	135	48	驛社宅小破	1,531	19	—	—	—	39	—	1,705	67	2,782,400	0.001	—	—	
計		382,490	8,915（除東武）	—	209,860	7,669（除東武）	—	147,968	2,000（除東武）	367,110	26,001	1,107,428	44,585	39,634,766	0.028	389	53	

〔備考〕 本表は震災區域に於ける鐵道中被害ありしものゝみを掲ぐ

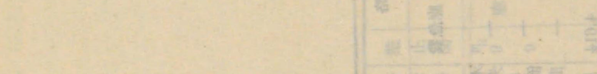
內譯 死 5 / 重傷 6 / 其他 378

大都鉄道鉄式曲

他	計			震災前に於ける運賃に算ずる設備割合	建設費	営業休止期間
鹿島灘	損害額	臨急費			罹災死傷	
円 764,820	20,452,238	6,691,000	円 94,109,110	.217	死25 重傷44 不明50 その他2363	一部5日
—	15,550	200	1,334,857	.012	— 7	
—	76,871	—	1,093,266	.070	死 1 その他 68	5
—	40,678	—	3,047,391	.013	その他 20	4
—	105,606	10,647	1,830,462	.058	同 8	4



国有鉄道　東海道本線谷峨隧道向ひの岩盤 61 哩 60 鎖切取土砂の搬出（向方に見ゆるは第五號隧道東京方坑門）



国有鉄道　東海道本線波松町田町間貨車線路の沈下久田町方より望む

軌道損害其他調査表

（大正十二年九月）

路		建物			車輛			電氣關係			其他		計		震災前に於ける建設費	建設費に對する損害割合	罹災從事員數	營業休止期間
額	應急費	摘要	損害額	應急費	摘要	損害額	應急費	摘要	損害額	應急費	損害額	應急費	損害額	應急費				
円 703	1,128,648	本局以下12燒損	2,160,713	1,362,800	800全燒 78半燒	12,506,400	668,630	電線410哩燒 變電所10燒	2,346,602	2,666,102	764,820	764,820	20,452.238	6,591,000	94,109,110	.217	死25 重傷44 不明50	一部 5日
600	—	本社その他小破	9,000	—	—	—	—	電柱4本破 その他小破	950	200	—	—	15,550	200	1,334,827	.012	その他2363 —	7
000	—	同	27,100	—	—	—	—	電線その他破損	46,771	—	—	—	76.871	—	1,093,266	.070	死 1	5
810	—	同	37,468	—	—	—	—	電柱10本燒失 その他損	400	—	—	—	40,678	—	3,047,391	.013	その他 68	4
160	8,160	8棟半壞	25,792	—	電車3燒失及び破損	61,560	2,070	電線燒失その他損	3,017	417	7,077	—	105,606	10,647	1,830,462	.058	その他 20	4
	—	營業所半壞	2,000	150	—	—	—	その他 電機大破	—	—	—	—	2,000	150	772,000	.003	同 8	4
000	5,000	同全燒その他	8,992	636	電車3燒損	23,811	100	殆ど全滅	12,049	34,229	—	225	56,326	40,190	1,058,477	.053	同 118	38
000	134,000	大半燒失	538,950	58,200	89全燒又は半壞	1,300,000	880,000	變流機全滅 その他	258,500	273,500	8,479	—	2,298,450	1,345,700	8,183,344	.281	その他 878	一部 32
700	12,500	本社大破その他	97,600	13,800	類燒その他	29,340	900	電線大破その他	411,090	7,350	2,860	—	590,590	34,550	6,514,825	.091	同 200	10
250	10,050	同	8,825	1,000	同	5,590	—	同	1,700	850	—	—	33,275	11,900	555,255	.060	同 30	25
600	—	同	42,280	—	19燒損又は埋沒	142,370	450	殆ど全滅	278,000	2,903	—	—	492,250	3,353	874,436	.563	鐵道部へ	休止中
536	—	殆ど全滅	14,530	—	殆ど全滅	63,905	—	—	2,509	—	7,225	—	205,705	—	205.810	.999	その他 40	同
550	9,100	大半倒潰又は破損	18,365	1.840	客・機關車小破	3,950	550	—	—	—	—	—	43,865	11,490	137,277	.319	同 20	15
500	500	小破	50	50	—	—	—	—	—	—	—	—	550	550	48,000	.011	—	3
500	250	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,500	250	268,000	.009	—	1
000	600	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,000	600	4,000	.750	—	17
	—	小破	1,280	—	小破	200	—	—	—	—	—	—	1,480	—	53,006	.028	—	2
46	80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	468	80	227,000	.002	—	3
	—	小破	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—	58,773	.001	—	1
	—	同	45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	45	—	90,977	.001	—	3
955	1,308,888		2,993,050	1,438,476		14,137,036	1,552,700		3,361,588	2,985,551	790,481	765,045	24,421,507	8,050,660	120,457,236	.203	3,875	179

内譯 死者 26 重傷 44 不明 50 その他 3755

る軌道中損害あるもの上記 20 を摘錄す

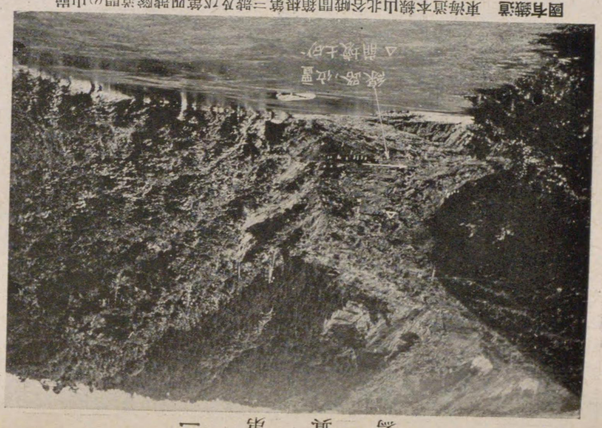
第三十六表　　軌道損害其他調査表

（大正十二年九月）

種別 / 軌道名	線路 摘要	線路 損害額	線路 應急費	建物 摘要	建物 損害額	建物 應急費	車輛 摘要	車輛 損害額	車輛 應急費	電氣關係 摘要	電氣關係 損害額	電氣關係 應急費	其他 損害額	其他 應急費
		円	円		円	円		円	円		円	円	円	円
東京市營	延長109哩約半分燒損その他	2,673,703	1,128,648	本局以下12燒損	2,160,713	1,362,800	800全燒78半燒	12,506,400	668,630	電線410哩燒變電所10燒	2,346,602	2,666,102	764,820	764,820
玉川電氣	小龜裂沈下その他	5,600	—	本社その他小破	9,000	—	—	—	—	電柱4本その他小破	950	200	—	—
王子電氣	同	3,000	—	同	27,100	—	—	—	—	電線その他破損	46,771	—	—	—
京成電氣	道床陷落燒損	2,810	—	同	37,468	—	—	—	—	電柱10本燒失その他損	400	—	—	—
京王電氣	同	8,160	8,160	8棟半壞	25,792	—	電車3燒失及び破損	61,560	2,070	電線その他破損	3,017	417	7,077	—
西武（新宿線）	—	—	—	營業所半壞	2,000	150	—	—	—	變電機大破その他	—	—	—	—
城東電氣	龜裂その他燒損	3,000	5,000	同全燒その他	8,992	636	電車3燒損	23,811	100	殆ど全滅	12,049	34,229	—	225
橫濱市營	全線及び大龜裂その他燒損	201,000	134,000	大半燒失	538,950	58,200	89全燒又は半壞	1,300,000	880,000	變流機全滅その他	258,500	273,500	8,479	—
京濱電氣	道床沈下其他	49,700	12,500	本社大破その他	97,600	13,800	類燒その他	29,340	900	電線大破その他	411,090	7,350	2,860	—
東電（江ノ島線）	大龜裂沈下その他	17,250	10,050	同	8,825	1,000	同	5,500	—	同	1,700	850	—	—
小田原電氣	同上及燒損	29,600	—	同	42,280	—	19燒損又は埋沒	142,370	450	殆ど全滅	278,000	2,903	—	—
熱海軌道	殆ど全滅	117,536	—	殆ど全滅	14,530	—	殆ど全滅	63,905	—	—	2,509	—	7,225	—
湘南	大龜裂陷沒その他	21,550	9,100	大半倒潰又は破損	18,365	1,840	客・機關車小破	3,950	550	—	—	—	—	—
夾陼	土砂崩れ	500	500	小破	50	50	—	—	—	—	—	—	—	—
西武（大宮線）	橋脚傾斜	2,500	250	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
御殿場馬車	道路小破	3,000	600	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
南豆馬車	—	—	—	小破	1,280	—	小破	200	—	—	—	—	—	—
駿豆	道床沈下	46	80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
富士軌道	—	—	—	小破	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—
根方	—	—	—	同	45	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		3,138,955	1,308,888		2,993,050	1,438,476		14,137,036	1,552,700		3,361,588	2,985,551	790,481	765,045

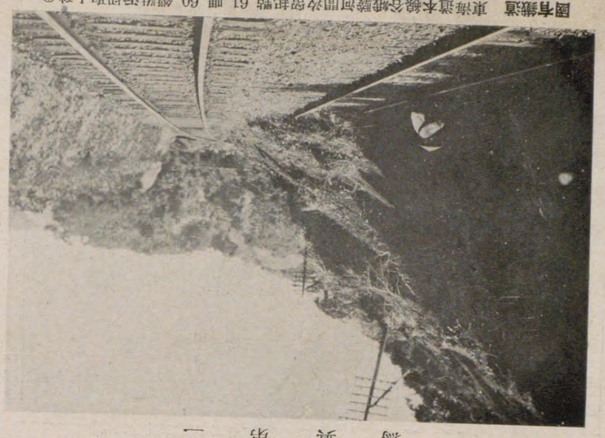
〔備考〕　本表は震災區域に於ける軌道中損害あるもの上記 20 を摘錄す

寫眞第一



國有鐵道　東海道本線山北谷峨間第拱橋第三號及び第四號隧道間の山腋

寫眞第二

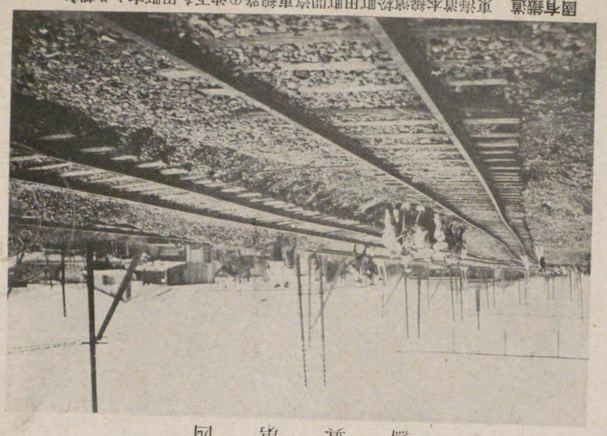


國有鐵道　東海道本線谷峨驛河川沙留止壁 61 哩 60 鎖附近切取土砂の崩壊（前方に見ゆるは第拱第五號隧道東方坑門）

寫眞第三

國有鐵道　東海道本線谷峨驛河川沙留止壁 62 哩 70 鎖附近切取土砂及び土留石垣の崩壊

寫眞第四



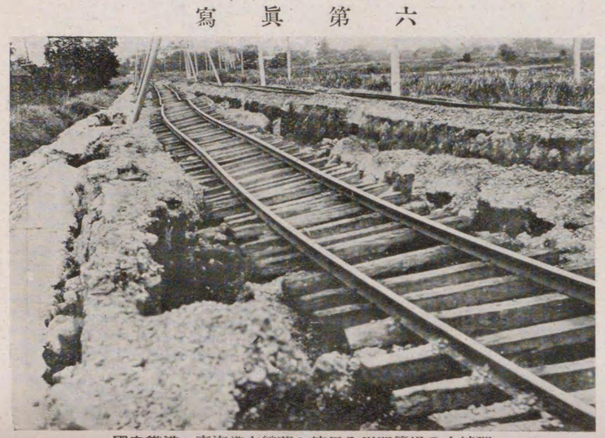
國有鐵道　東海道本線湯松町田町間汽車線路の北下を田町方よりのぞむ

鉄道博物館

寫眞第五

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎馬入川間築堤の陷落及び軌道の屈曲

寫眞第六



國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎馬入川間築堤の大龜裂

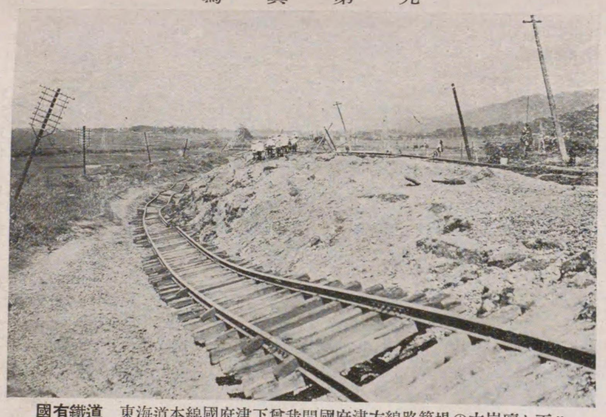
寫眞第七

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間線路路盤の龜裂

寫眞第八

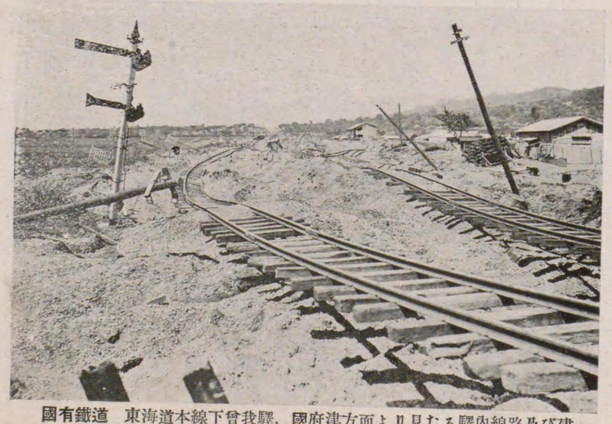
國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁東京方橋臺附近築堤の崩壞

寫眞第九



國有鐵道　東海道本線國府津下曾我間國府津方線路築堤の大崩壞と下り線軌道の陷落（國府津方より望む）

寫眞第十



國有鐵道　東海道本線下曾我驛，國府津方面より見たる驛內線路及び建造物の全滅

寫眞第十一

國有鐵道　東海道本線下曾我松田間下曾我方面より見たる築堤の崩壞（其一）

寫眞第十二

國有鐵道　東海道本線下曾我松田間下曾我方面より見たる築堤の崩壞（其二）

寫眞第十三

國有鐵道　東海道本線下曾我松田間汐留起點 51 哩 75 鎖徑間 4 呎工形桁橋臺前後に於ける築堤の崩壞

寫眞第十四

國有鐵道　東海道本線下曾我松田間汐留起點 52 哩 40 鎖附近築堤の大崩壞

寫眞第十五

國有鐵道　東海道本線松田山北間築堤の崩壞と軌道の陷落

寫眞第十六

國有鐵道　東海道本線松田山北間切盛部分に於ける線路の陷落

寫眞第十七

國有鐵道　東海道本線駿河足柄間第二竹ノ下用水及び山澤川附近築堤の陷落

寫眞第十八

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間（鳥井戸川馬入川間）築堤法張石の滑落

寫眞第十九

國有鐵道　東海道本線松田山北間汐留起點 56 哩 60 鎖附近切取法留石垣の崩壞

寫眞第二十

國有鐵道　東海道本線有樂町驛附近高架線煉瓦石拱內部の燒損剝落

寫眞第二十四

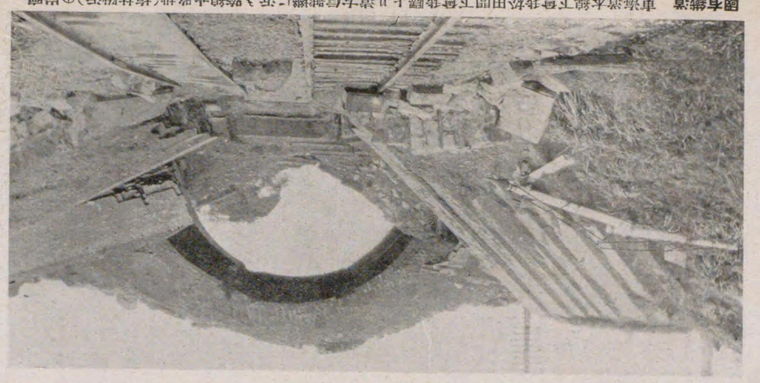
國有鐵道　東海道本線二宮國府津間押切川橋梁東京方橋臺ヲ上ノ破壞

寫眞第二十六

國有鐵道　東海道本線下曾我松田間上曾我川橋梁橋臺の破壞

寫眞第二十七

國有鐵道　東海道本線下曾我松田間下曾我附近大川共榮製ノ鋼橋

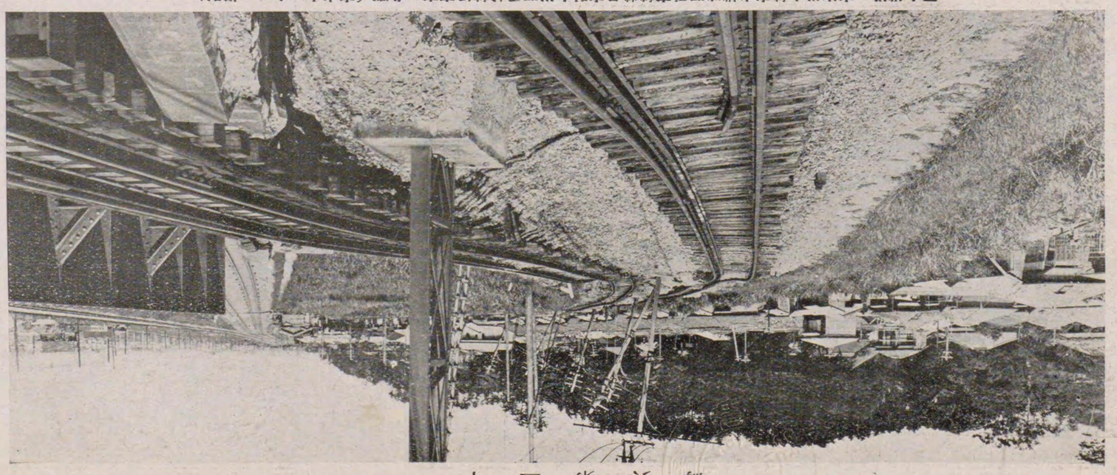


寫眞第二十五

國有鐵道　東海道本線下曾我松田間下曾我驛上り遠方信號機に近き跨線水路拔（梅林附近）の鋼橋

寫眞第二十二

寫眞第二十三



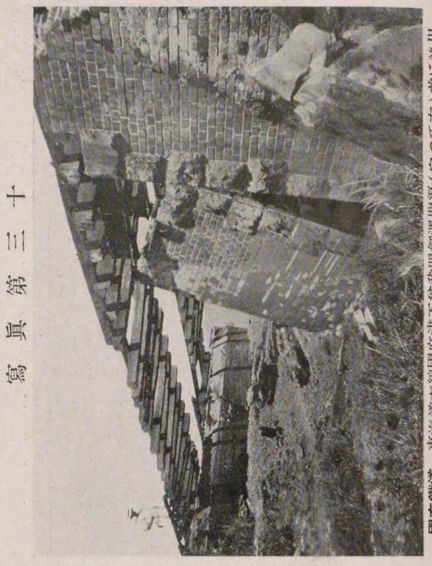
寫眞第二十一

國有鐵道　東海道本線東京鰍澤間電車線鶴見東神奈川間架橋橋臺裏の龜裂（東京方に向ひて撮影）

寫眞第二十九

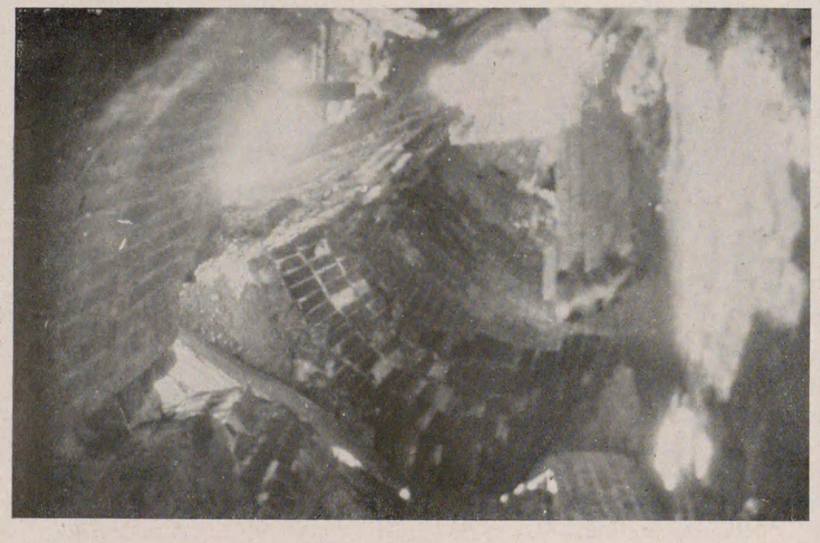
國有鐵道　東海道本線下曾我松田間汐留起點 53 哩 30 鎖附近大川拂壔築の崩壞（其三）

寫眞第三十



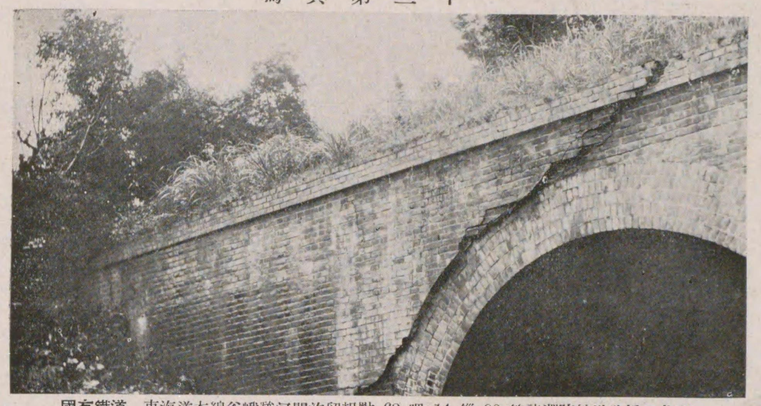
國有鐵道　東海道本線國府津下曾我間酒匂川鐵橋側壁（向つて左）並に後川鐵橋（右）の破壞

寫眞第二十八



國有鐵道　東海道本線下曾我松田間汐留起點 53 哩 30 鎖附近大川拂壔築の崩壞（其二）

寫眞第三十一

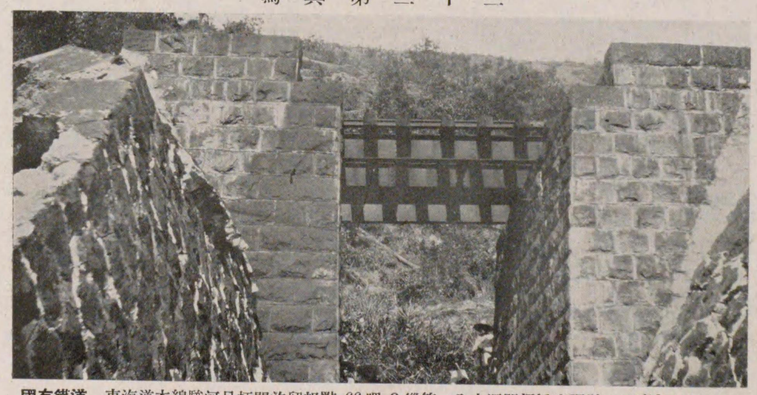


國有鐵道　東海道本線谷峨駿河間汐留起點 62 哩 14 鎖 90 節詰溜跨線道路橋の龜裂

寫眞第三十二

國有鐵道　東海道本線谷峨駿河間汐留起點 63 哩 64 鎖大澤川橋梁駿河方橋臺の破壞

寫眞第三十三

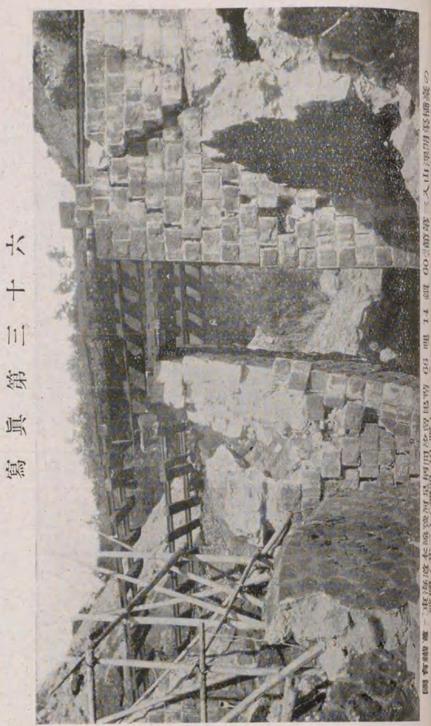


國有鐵道　東海道本線駿河足柄間汐留起點 66 哩 3 鎖第一入山澤開渠橋臺翼壁の破壞（徑間 10 呎）

寫眞第三十五

國有鐵道 東海道本線駿河足柄間汐留起點 66 哩 14 鎖 60 節第三入山澤開渠橋臺の破壞（其一）（徑間 10 呎）

寫眞第三十六



寫眞第三十四

國有鐵道 東海道本線駿河足柄間汐留起點 66 哩 11 鎖第三入山澤開渠橋臺の破壞（徑間 10 呎）

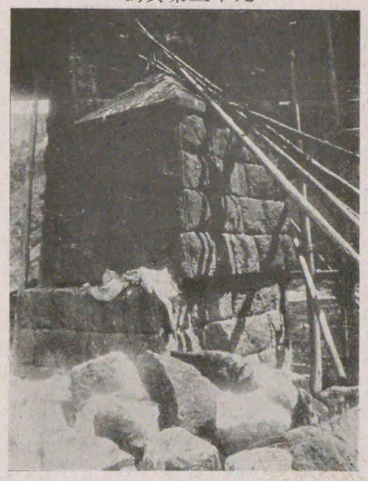
寫眞第三十七

國有鐵道 東海道本線駿河足柄間汐留起點 66哩 14鎖 60節第三入山澤開渠橋臺の破壞（其三）（徑間 10 呎）

寫眞第三十八

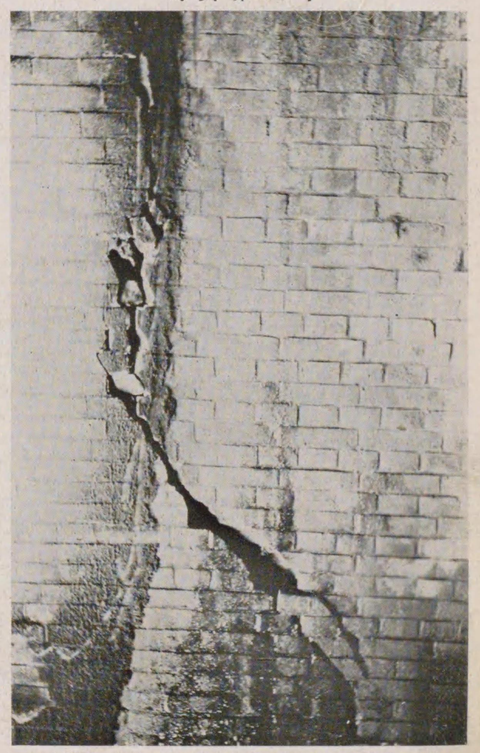
國有鐵道 東海道本線駿河足柄間汐留起點66哩40鎖第六相澤川橋梁（60呎鈑桁 2 連）東京方橋臺における縱龜裂

寫眞第三十九



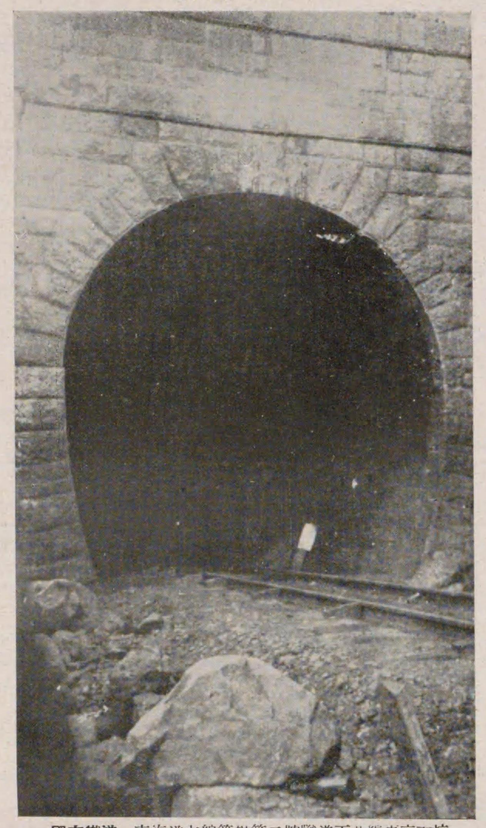
國有鐵道 東海道本線駿河足柄間汐留起點 66哩40鎖第六相澤川橋梁中央橋脚の搖動（9 吋に及ぶ）

寫眞第四十



國有鐵道 東海道本線山北谷峨間箱根第二號隧道上り線東京方坑門より 10 呎の奥に生じたる龜裂

寫眞第四十一

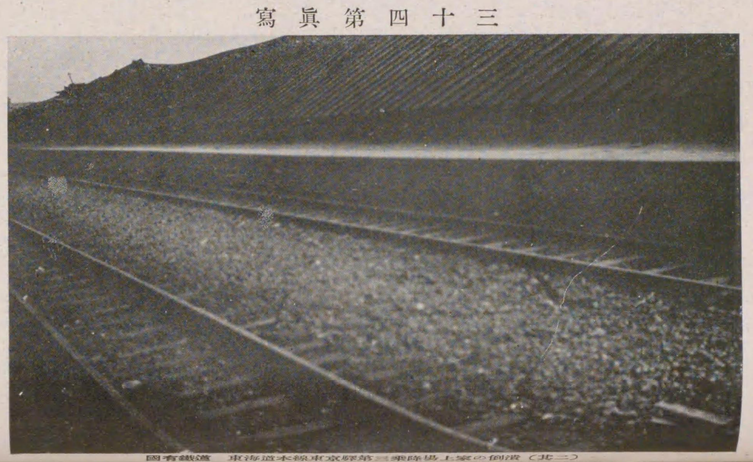


國有鐵道　東海道本線東京驛第二乘降場上家の倒潰（其一）

寫眞第四十二

國有鐵道　東海道本線東京驛第二乘降場上家の倒潰（其二）

寫眞第四十三



國有鐵道　東海道本線東京驛第二乘降場上家の倒潰（其三）

寫眞第四十四

國有鐵道　東海道本線有樂町驛乘降場上家燒失の跡

寫眞第四十五

國有鐵道　東海道本線新橋驛本屋燒失後の殘骸

寫眞第四十六

國有鐵道　東海道本線新橋驛乘降場上家並に電車の燒失

寫眞第四十七

國有鐵道　東海道本線濱松町驛乘降場上家の燒失

寫眞第四十八

國有鐵道　東海道本線東京驛第二乘降場上家の燒失

寫眞第四十九

國有鐵道　東海道本線東京驛第二乘降場上家の燒失

寫眞第五十

國有鐵道　東海道本線東京驛第二乘降場上家の燒失

寫眞第五十一

國有鐵道　東海道本線東京驛第二乘降場上家の燒失

寫眞第五十二

國有鐵道　東海道本線東京驛第二乘降場上家の燒失

寫眞第五十三

國有鐵道　東海道本線東京驛第二乘降場上家の燒失

寫眞第五十四

國有鐵道　東海道本線東京驛第二乘降場上家の燒失

寫眞第五十五

國有鐵道　東海道本線東京驛第二乘降場上家の燒失

寫眞第四十八

國有鐵道　東海道本線横濱驛構内避難民の雜沓，火災に罹りし乘降場上家

寫眞第四十九

國有鐵道　東海道本線大船驛本屋の倒壞

寫眞第五十

國有鐵道　東海道本線大船驛構内諸建物の倒壞

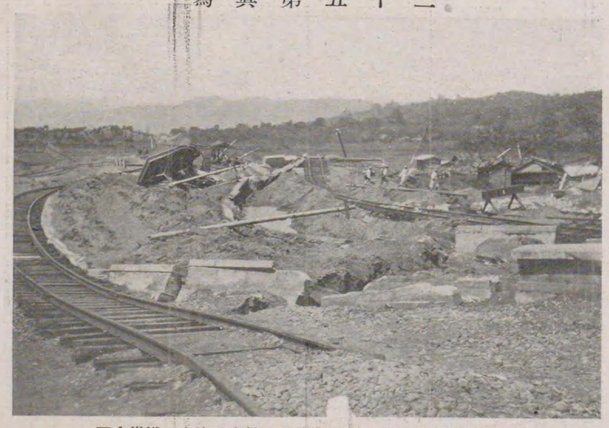
寫眞第五十一

國有鐵道　東海道本線藤澤驛本屋の倒壞

寫眞第五十二

國有鐵道　東海道本線大磯驛本屋並に乘降場上家の倒壞（沼津方を望む）

寫眞第五十三



國有鐵道　東海道本線下曾我驛構内の全滅（沼津方を望む）

寫眞第五十四

國有鐵道　東海道本線下曾我驛構内乘降場擁壁等の破壞（沼津方を望む）

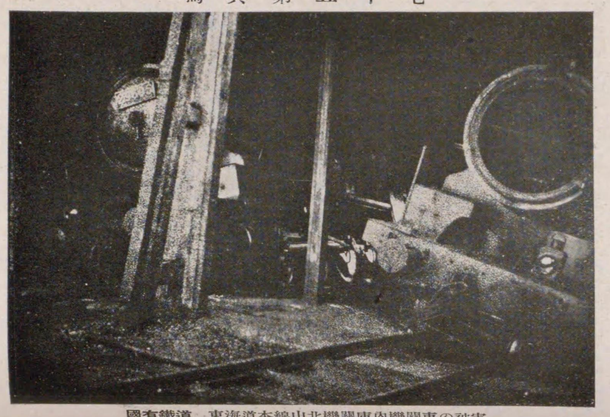
寫眞第五十五

國有鐵道　東海道本線松田驛下り線乘降場より沼津方を望む

寫眞第五十六

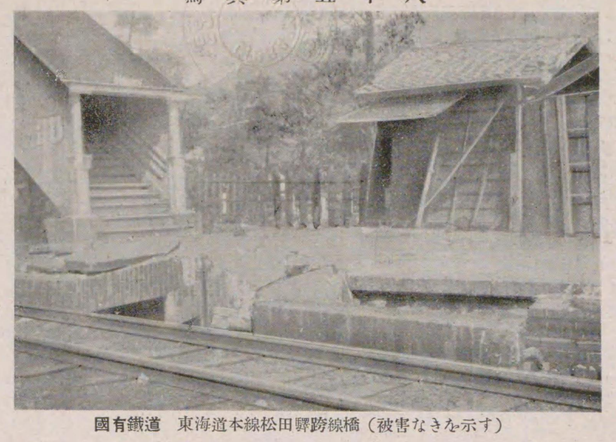
國有鐵道　東海道本線山北機關庫內部の龜裂

寫眞第五十七



國有鐵道　東海道本線山北機關庫內機關車の被害

寫眞第五十八



國有鐵道　東海道本線松田驛跨線橋（被害なきを示す）

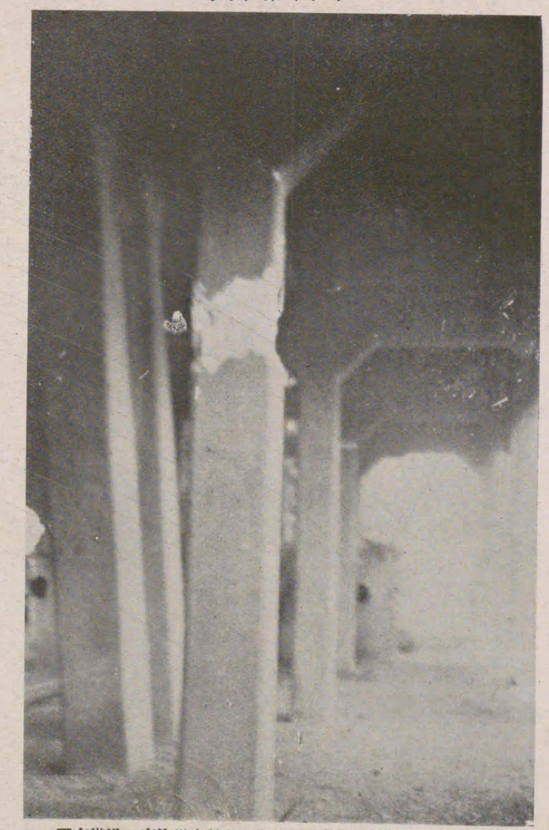
寫眞第五十九

國有鐵道　東海道本線下曾我驛混凝土地下道の破壞（其一）

寫眞第六十

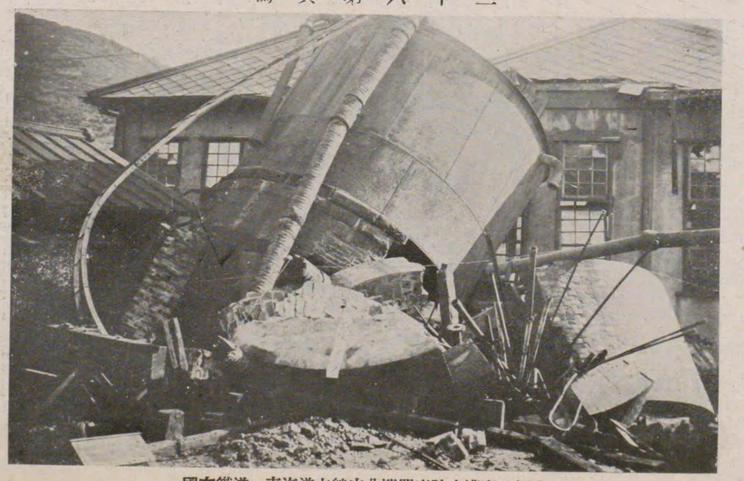
國有鐵道　東海道本線下曾我驛混凝土地下道の破壞（其二）

寫眞第六十一



國有鐵道　東海道本線品川驛構內鐵筋混凝土給炭臺柱の破損

寫眞第六十二



國有鐵道　東海道本線山北機關庫貯水槽臺の倒壞

寫眞第六十三

國有鐵道　東海道本線山北機關庫給水柱及び石炭臺の被害.

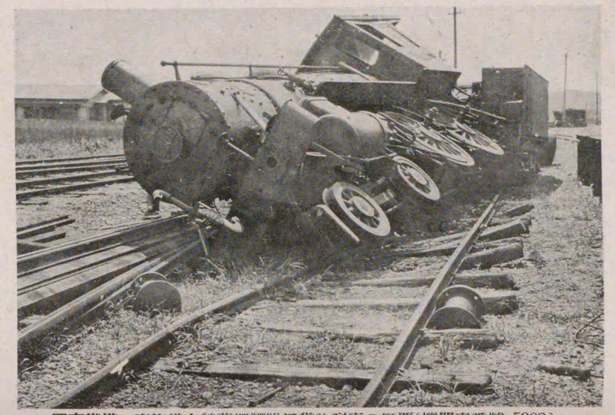
寫眞第六十四

國有鐵道　東海道本線沙留起點 50 哩 69 鎖下曾我驛下り遠方信號機の倒壞

寫眞第六十五

國有鐵道　東海道本線濱松町驛附近に於ける列車の燒失殘骸（構內より新橋方面を望む）

寫眞第六十六

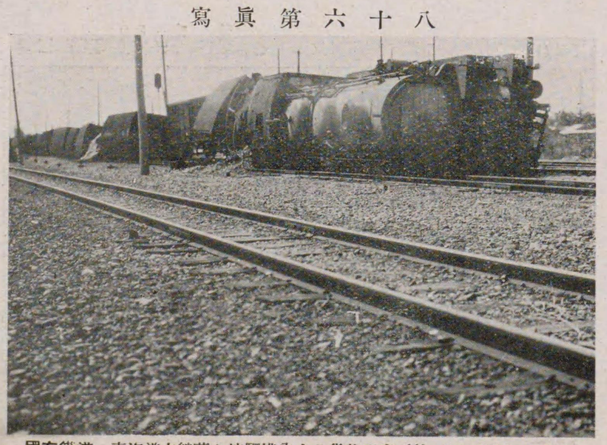


國有鐵道　東海道本線藤澤驛附近貨物列車の顚覆（機關車番號 5908）

寫眞第六十七

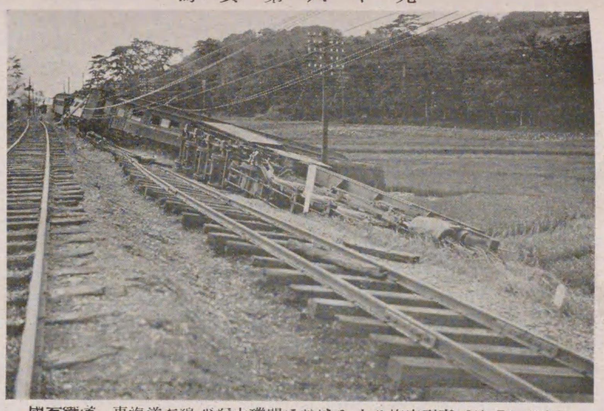
國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎驛構內下り貨物列車1(第 625 列車)の顚覆

寫眞第六十八



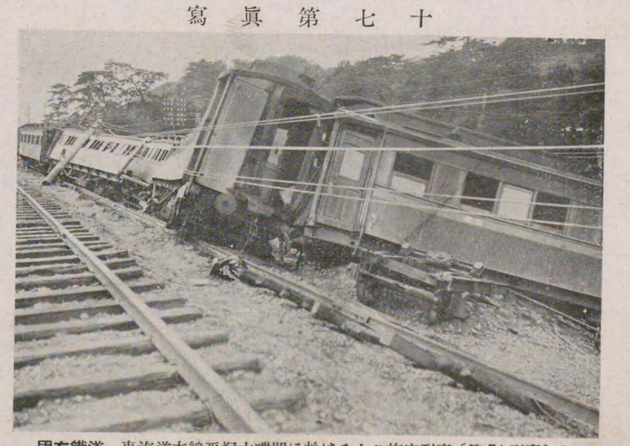
國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎驛構內上り貨物列車（第 410 列車）の顚覆

寫眞第六十九



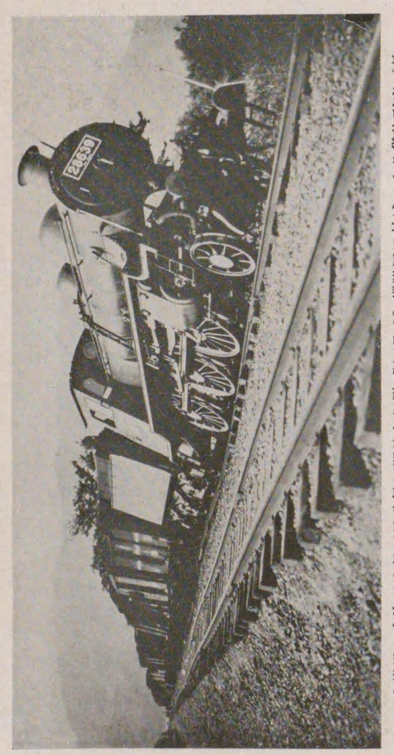
國有鐵道　東海道本線平塚大磯間に於ける上り旅客列車（第 74 列車）の顚覆（其一）

寫眞第七十



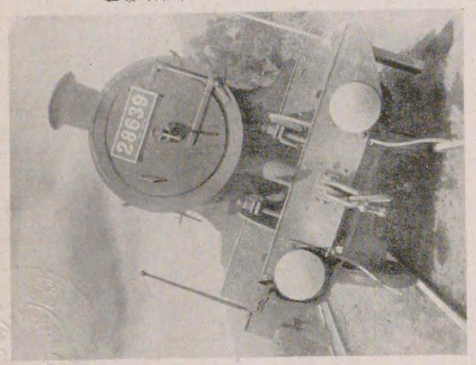
國有鐵道　東海道本線平塚大磯間に於ける上り旅客列車（第 74 列車）の顚覆（其二）

寫眞第七十一



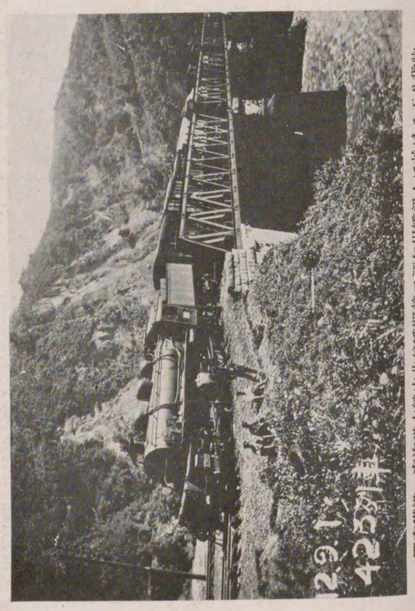
國有鐵道　東海道本線下曾我松田間沙留思黙 54 哩 20 鎖附近に於ける上り貨物列車（第602 列車）の勾緩（其一）

寫眞第七十二



國有鐵道　傾斜東海道近線に於ける下り貨物列車（第602 列車）の勾緩（其二）

寫眞第七十三

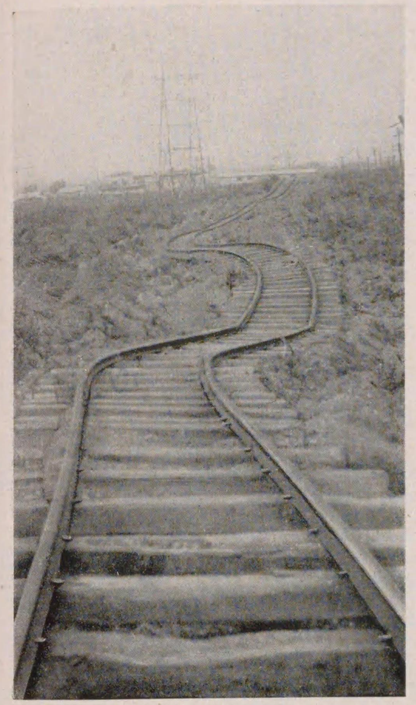


國有鐵道　東海道本線山北谷峨間第二深ヶ川橋梁上に於ける下り貨物列車（第423 列車）の脫線

寫眞第七十四

國有鐵道　東海道濱川崎支線（淺野セメント株式會社引込線）川崎第一築堤盛土前後に於ける築堤の沈下（線路下に人の立てるを見る）

寫眞第七十五



國有鐵道　東海道濱川崎支線（淺野セメント株式會社引込線）築堤盛土の沈下

寫眞第七十六

國有鐵道　東海道鶴見程ヶ谷間貨物支線橫濱倉庫岸壁の一部沈下破壞（南より北を望む）

寫眞第七十七

國有鐵道　東海道鶴見程ヶ谷間貨物支線橫濱倉庫岸壁裏に生じたる龜裂

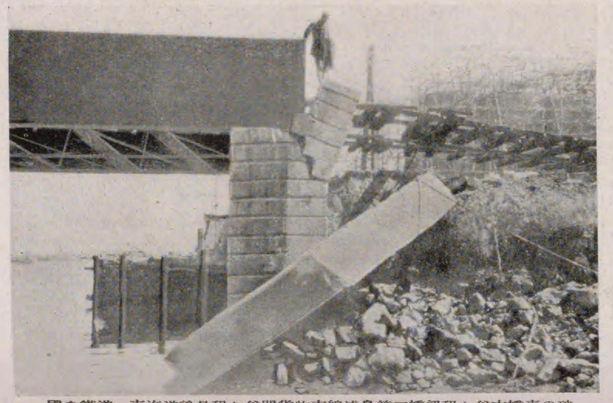
寫眞第七十八

國有鐵道　東海道鶴見程ケ谷間貨物支線横濱倉庫内地盤沈下（北より南を望む）正面に見ゆるは倉庫なり

寫眞第八十

國有鐵道　東海道鶴見程ケ谷間貨物支線高島驛陸ホーム鐵筋混凝土上家の崩壊

寫眞第七十九



國有鐵道　東海道鶴見程ケ谷間貨物支線浦島第三橋梁程ケ谷方橋臺の破壊と袖石垣の倒壊

寫眞第八十一

國有鐵道　東海道鶴見程ケ谷間貨物支線高島驛陸ホーム鐵筋混凝土上家の崩壊（四より東を望む）

寫眞第八十二

國有鐵道　東海道鶴見程ケ谷間貨物支線高島驛海ホーム鐵筋混凝土上家の崩壊

寫眞第八十四

國有鐵道　東海道鶴見程ケ谷間貨物支線高島驛海ホーム鐵筋混凝土上家の崩壊

寫眞第八十三

國有鐵道　東海道鶴見程ケ谷間貨物支線高島驛海ホーム鐵筋混凝土上家の崩壊（南より北を望む）

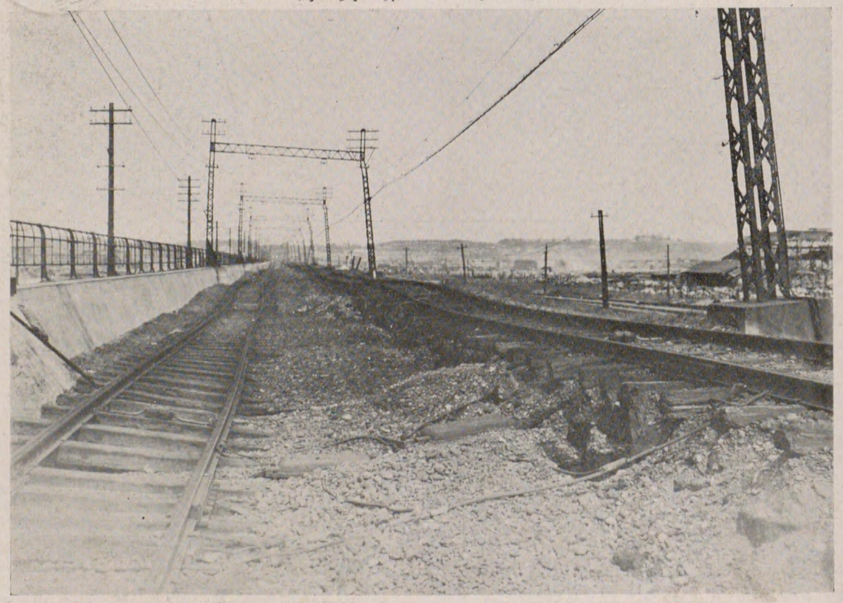
寫眞第八十五

國有鐵道　東海道鶴見程ケ谷間貨物支線海ホームと陸ホームとの間にある擁壁の沈下

寫眞第八十六

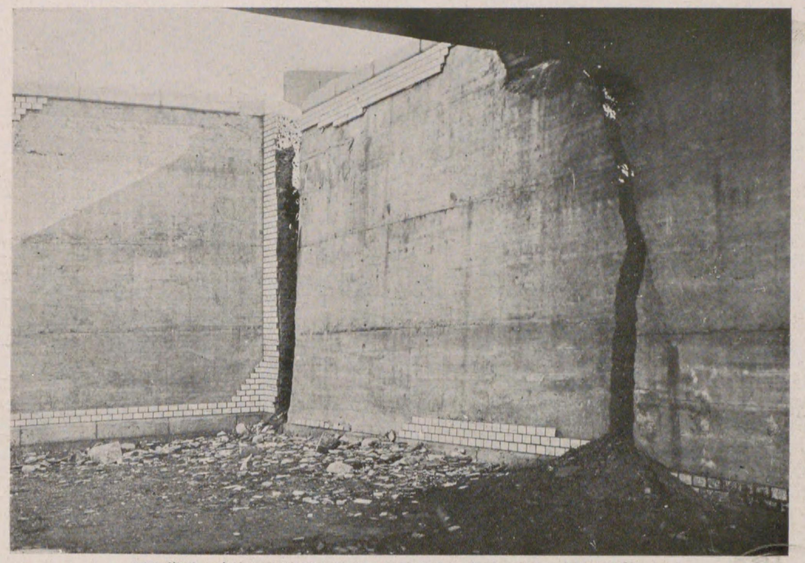
國有鐵道　東海道東神奈川神奈川間貨物支線第二運河橋梁東橋臺（海側）の龜裂（徑間 40 呎鈑桁）

寫眞第八十七



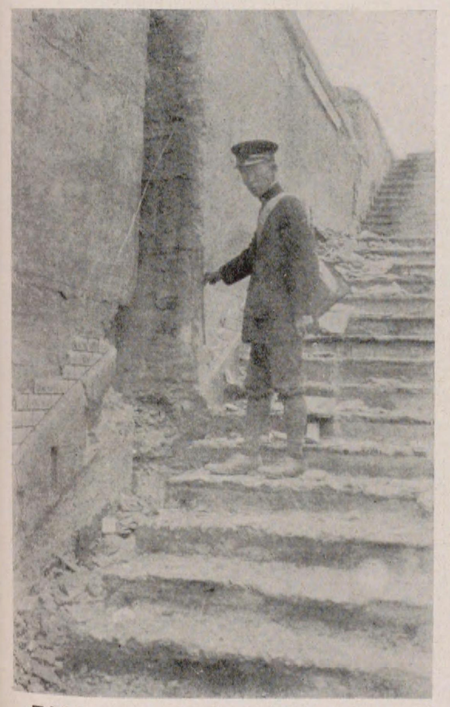
國有鐵道　東海道横濱櫻木町間電車線高架軌道路盤陷落及び土留壁の傾斜

寫眞第八十八



國有鐵道　東海道横濱櫻木町間電車線櫻木町驛地下道の破壞（其一）

寫眞第八十九

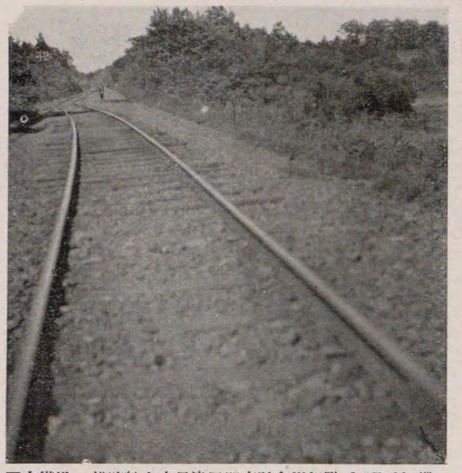


國有鐵道　東海道横濱櫻木町間電車線櫻木町驛地下道の破壞（其二）

寫眞第九十

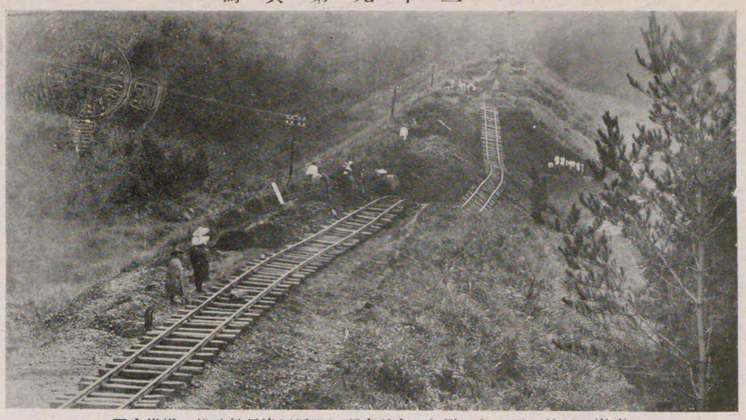
國有鐵道　東海道横濱櫻木町間電車線櫻木町驛地下道の破壞（其三）

寫眞第九十一



國有鐵道　橫濱線中山長津田間東神奈川起點 9 哩 20 鎖附近築堤崩壞線路移行約 10 呎に及べるを示す

寫眞第九十二



國有鐵道　橫濱線長津田原町田間東神奈川起點 13 哩附近築堤の崩壞

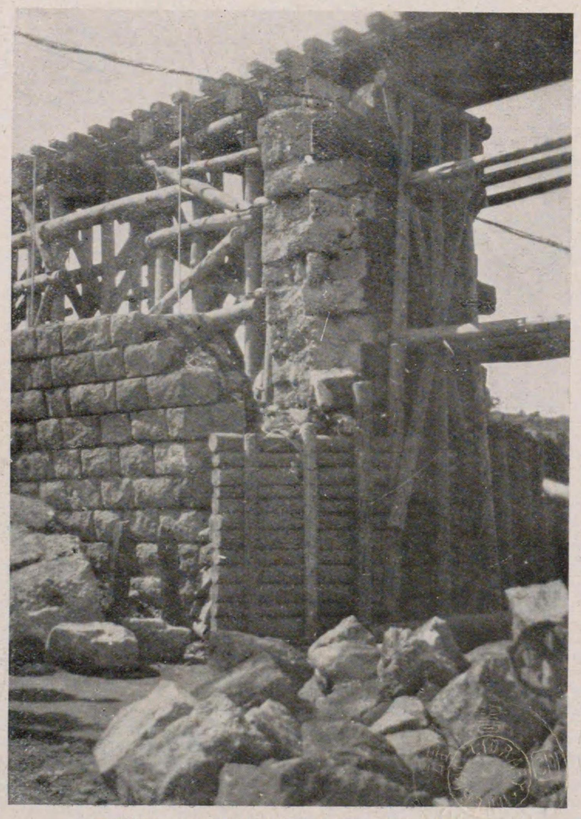
寫眞第九十三

國有鐵道　橫濱線東海道線乘越橋梁の破壞（其一）

寫眞第九十四

國有鐵道　橫濱線東海道線乘越橋梁の破壞（其二）

寫眞第九十五



國有鐵道　橫濱線東海道線乘越橋梁の破壞（其三）

寫眞第九十六

國有鐵道　橫濱線原町田驛附近南橋（跨線人道橋）の破壞（東より西を望む）（其一）

寫眞第九十七

國有鐵道　橫濱線原町田驛附近南橋（跨線人道橋）の破壞（東より西を望む）（其二）

寫眞第九十八

國有鐵道 横濱線原町田驛附近南橋（跨線人道橋）の破壞 鐵骨として使用せる古軌條の繼目部の切斷を示す

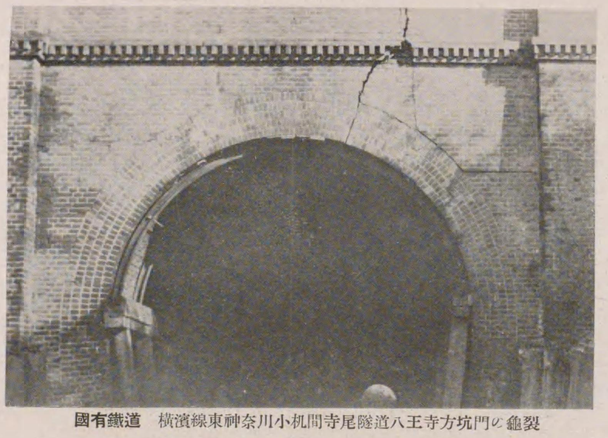
寫眞第九十九

國有鐵道 横濱線原町田驛附近南橋橋臺の切斷（西より東を望む）

寫眞第百

國有鐵道 横濱線小机中山間東神奈川起點 5 哩 50 鎖得間 6 呎工形桁東神奈川方煉化石橋臺の中央より水平に切斷し上部迴轉せるを示す

寫眞第百一



國有鐵道 横濱線東神奈川小机間寺尾隧道八王寺方坑門の龜裂

寫眞第百二

國有鐵道 横須賀線田浦横須賀間七釜隧道横須賀方坑門附近切取の崩壞

寫眞第百三

國有鐵道 横須賀線田浦横須賀間七釜隧道大船方坑門附近切取の崩壞

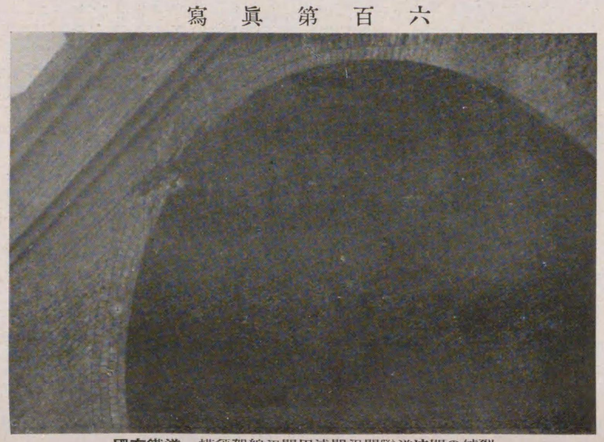
寫眞第百四

國有鐵道 横須賀線沼間田浦間田浦隧道横須賀方坑門附近切取の崩壞

寫眞第百五

國有鐵道　横須賀線鎌倉逗子間滑川橋梁の被害

寫眞第百六



國有鐵道　横須賀線沼間田浦間沼間隧道坑門の罅裂

寫眞第百七

國有鐵道　横須賀線鎌倉驛地下道の龜裂（一其）

寫眞第百八

國有鐵道　横須賀線鎌倉驛地下道の龜裂（其二）

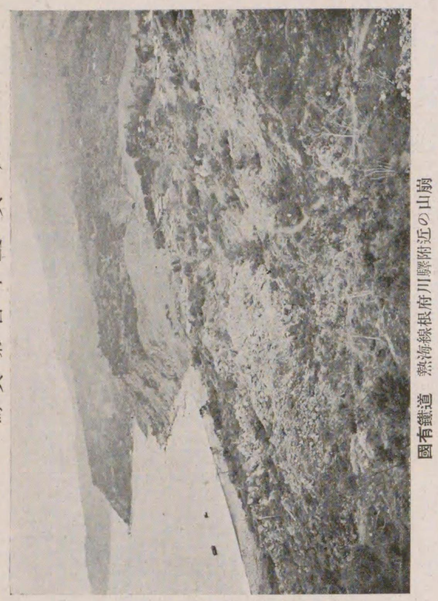
寫眞第百九

國有鐵道　熱海線小田原早川間國府津起點 4 哩 18 鎖附近右方切取崩壞のため左方切取法面施工基面上約 40 呎高に投げ付けられたる土運車（無蓋貨車）の一部

寫眞第百十

國有鐵道　熱海線早川根府川間國府津起點 5 哩 60 鎖附近切取岩石崩壞線路埋沒

寫眞第百十三（其一）



國有鐵道　熱海線根府川驛附近の山崩

寫眞第百十三（其二）

國有鐵道　熱海線根府川驛附近の山崩

寫眞第百十一

國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間隧道熱海方坑門附近切取岩石崩落線路埋沒

寫眞第百十二

國有鐵道　熱海線根府川驛附近方切取の損害なき海岸より望む（左方黒く横たはれるは列車の殘骸なり）

寫眞第百十四（其一）

國有鐵道　熱海線根府川驛附近の基盤の無事なるを海岸より望む

寫眞第百十四（其二）

國有鐵道　熱海線根府川驛附近の基盤の無事なるを海岸より望む

寫眞第百十四（其三）

國有鐵道　熱海線根府川驛附近の基盤の無事なるを海岸より望む

寫眞第百十五

國有鐵道　熱海線白糸川上流の斷層

寫眞第百十六

國有鐵道　熱海線白糸川泥流の跡を上流より望む

寫眞第百十七

國有鐵道　熱海線白糸川泥流の跡を中流より望む

國有鐵道　熱海線白糸川泥流の跡を中流より望む

國有鐵道　熱海線白糸川泥流の跡を上流より望む

寫眞第百十八

國有鐵道　熱海線白糸川泥流の跡を河口より望む

寫眞第百十九

國有鐵道　熱海線國府津起點 1 哩 60 鎖附近築堤の沈下(起點に向て撮影)

寫眞第百十

國有鐵道　熱海線國府津起點 2 哩 20 鎖附近築堤の沈下及び酒匂川砂利線構内の一部

寫眞第百十二

國有鐵道　熱海線小田原驛鴨宮方より見たる線路の破壞

寫眞第百二十二

國有鐵道　熱海線小田原驛構內（國府津起點 3哩 53 鎖附近）築堤沈下（終點に向て撮影）

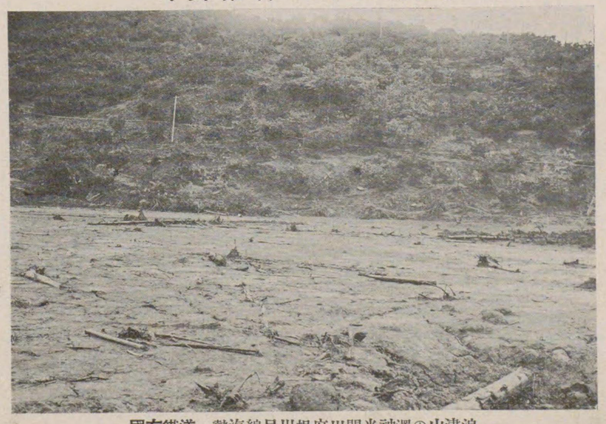
寫眞第百二十三

國有鐵道　熱海線小田原驛構內（國府津起點 3哩 60 鎖附近）より井細田方（國府津方）を望む

寫眞第百二十四（其一）

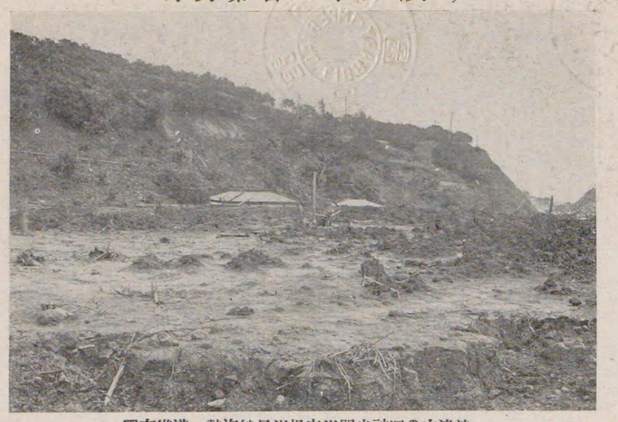
國有鐵道　熱海線早川根府川間来神澤の山津浪

寫眞第百二十四（其二）



國有鐵道　熱海線早川根府川間来神澤の山津浪

寫眞第百二十四（其三）



國有鐵道　熱海線早川根府川間来神澤の山津浪

寫眞第百二十六

國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點 10 哩 02 鎖附近築堤の陷落

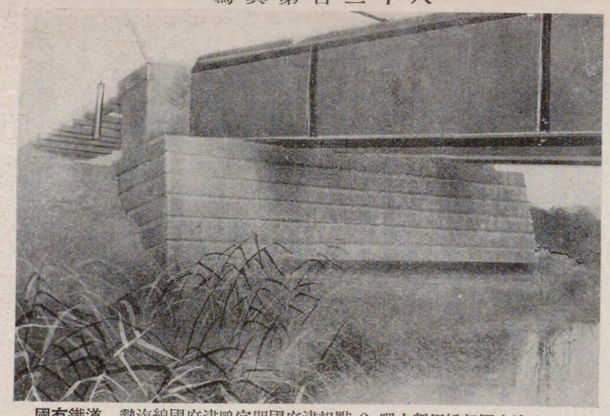
寫眞第百二十五

國有鐵道　熱海線早川根府川間来神澤の山津浪にて線路埋沒の狀

寫眞第百二十七

國有鐵道　熱海線國府津起點 0 哩 36 鎖 50 箱江戸尻川橋梁の崩壞

寫眞第百二十八



國有鐵道　熱海線國府津鴨宮間國府津起點 2 哩上新田橋梁國府津方橋臺の龜裂

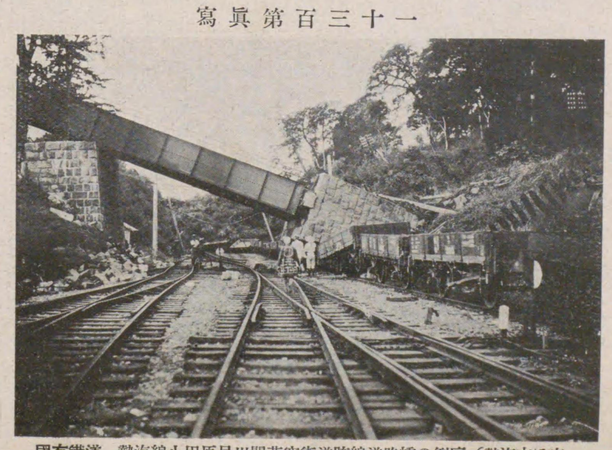
寫眞第百三十

國有鐵道　熱海線鴨宮小田原間井細田架道橋の被害（其二）

寫眞第百二十九

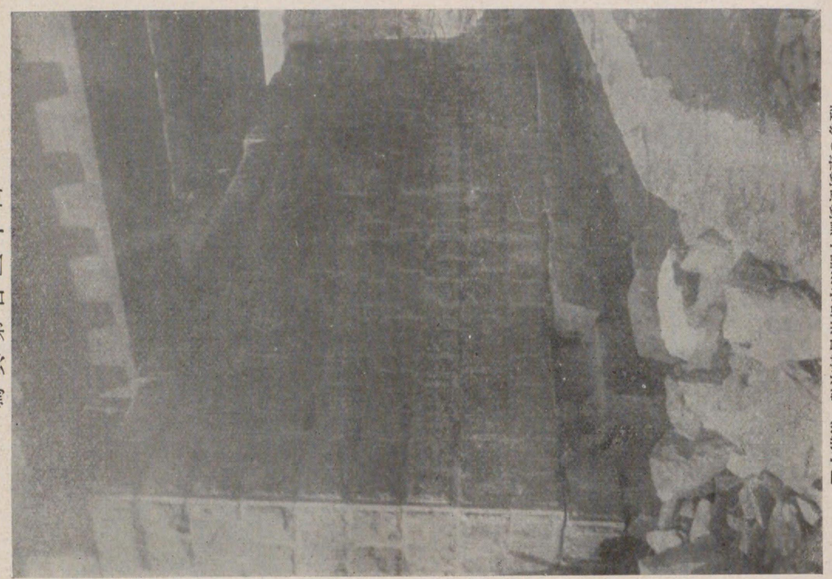
國有鐵道　熱海線鴨宮小田原間井細田架道橋の被害（其一）

寫眞第百三十一



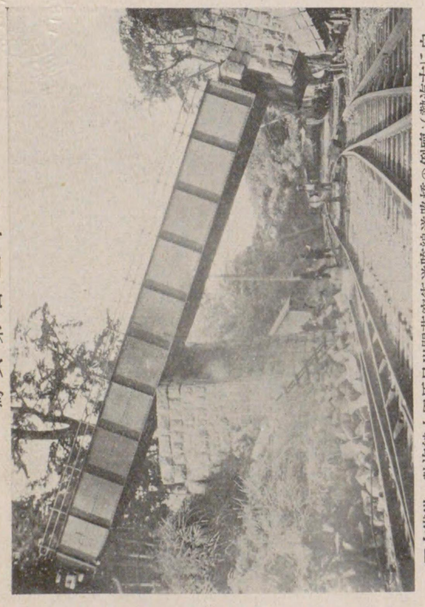
國有鐵道　熱海線小田原早川間荻窪街道跨線道路橋の倒壞（熱海方に向て撮影）（其一）

寫眞第百三十四



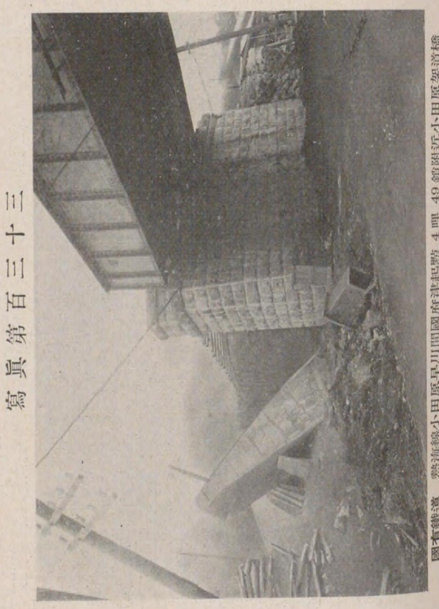
國有鐵道　熱海線早川根府川間中澤橋梁橋臺の龜裂

寫眞第百三十二



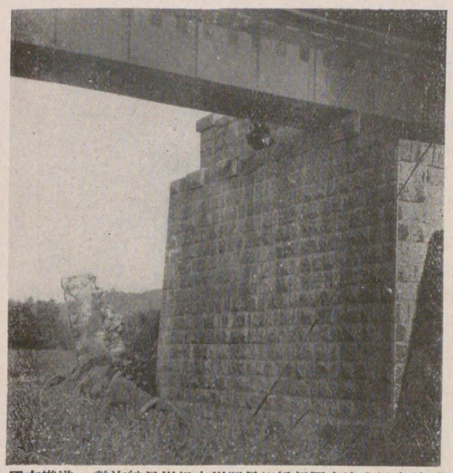
國有鐵道　熱海線小田原早川間茶窪街道跨線道路橋の倒壞（熱海方に向て撮影）（其二）

寫眞第百三十三



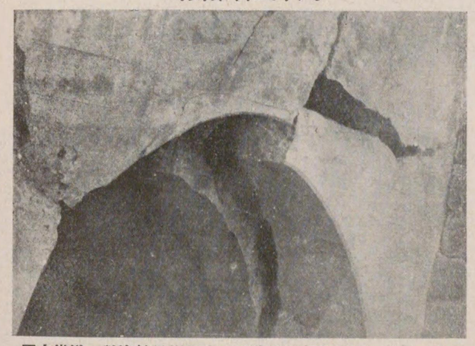
國有鐵道　熱海線小田原早川間國府津起點 4 哩 49 鎖附近小田原架道橋流失土工竝橋の倒壞（熱海方に向て撮影）

寫眞第百三十五



國有鐵道　熱海線早川根府川間早川橋梁國府津方橋臺袖石垣の破壞

寫眞第百三十八



國有鐵道　熱海線早川根府川間米神拱渠海側側面及び內拱の龜裂

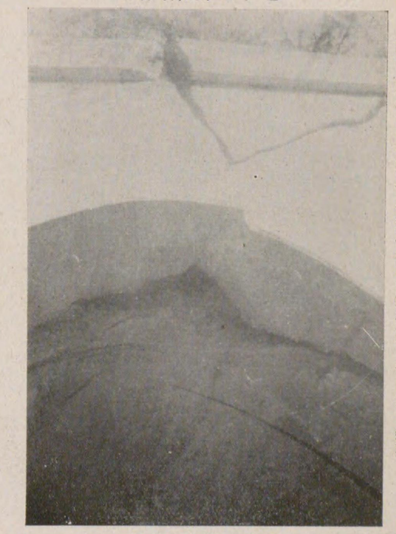
寫眞第百三十九

國有鐵道　熱海線早川根府川間入ノ窪暗渠山側面側の龜裂

寫眞第百三十六

國有鐵道　熱海線早川根府川間米神拱渠山側側面の龜裂

寫眞第百三十七

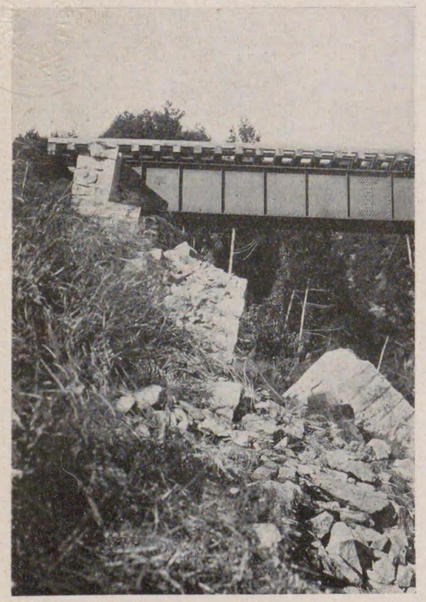


國有鐵道　熱海線早川根府川間米神拱渠山側內拱の龜裂

寫眞第百四十

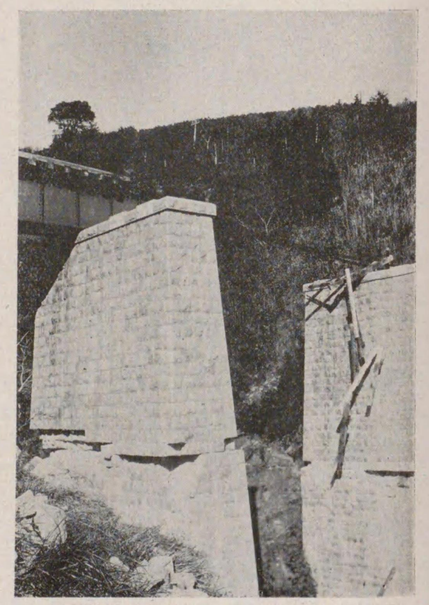
國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點 8 哩 70 鎖 45 節双龍ノ瀧橋梁の被害

寫眞第百四十一（其一）



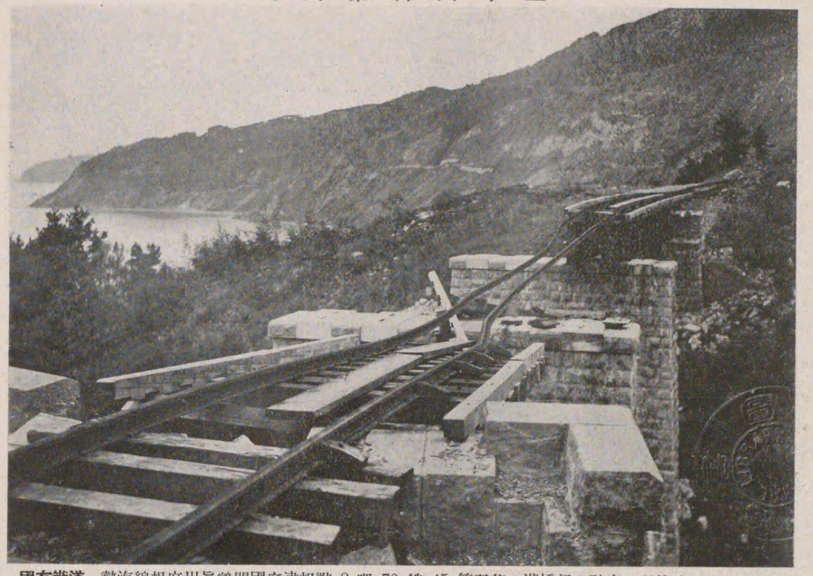
國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點 8 哩 70 鎖 45 節双龍ノ瀧橋梁の被害

寫眞第百四十一（其二）



國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點 8 哩 70 鎖 45 節双龍ノ瀧橋梁の被害

寫眞第百四十二

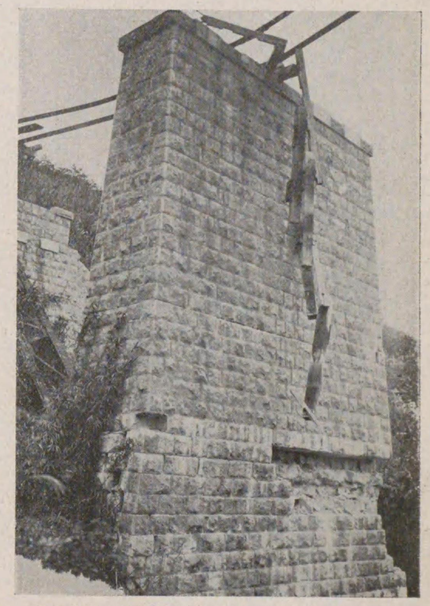


國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點 8 哩 70 鎖 45 節双龍ノ瀧橋梁の被害（熱海方に向て撮影）

寫眞第百四十一（其三）

國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點 8 哩 70 鎖 45 節双龍ノ瀧橋梁の被害

寫眞第百四十三

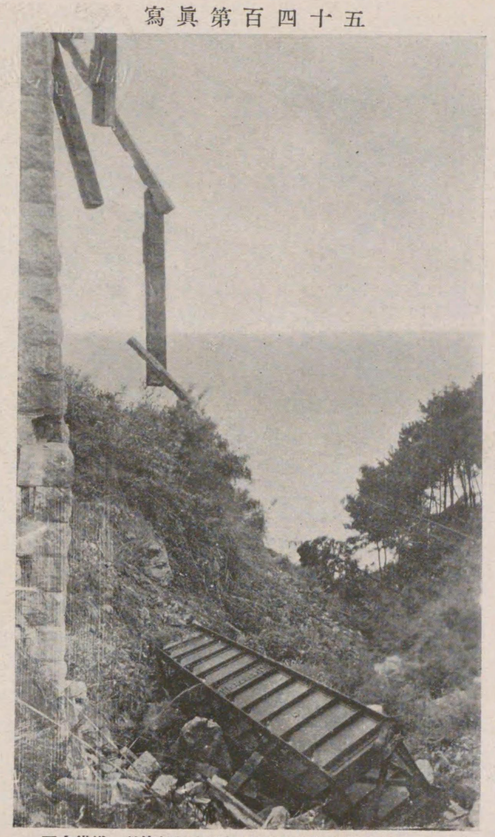


國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點 8 哩 70 鎖 45 節双龍ノ瀧橋梁第一號橋脚の龜裂（國府津方に向て撮影）

寫眞第百四十四

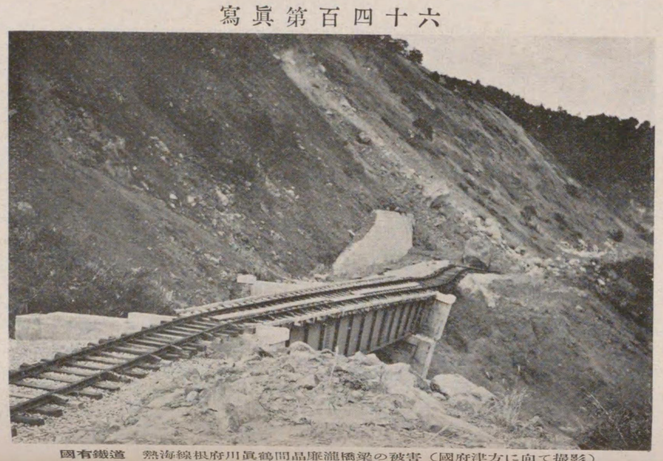
國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點 8 哩 70 鎖 45 節双龍ノ瀧橋梁第二號橋脚の龜裂（國府津方に向て撮影）

寫眞第百四十五



國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點 8 哩 70 鎖 45 節双龍ノ瀧橋梁墜落せる第二號鈑桁

寫眞第百四十六



國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間品雁瀧橋梁の被害（國府津方に向て撮影）

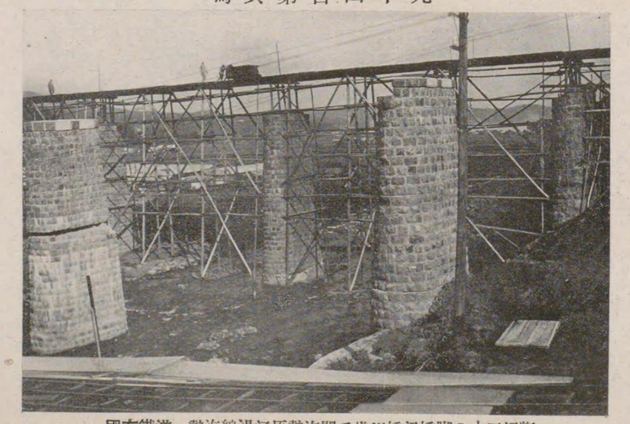
寫眞第百四十七

國有鐵道　熱海線眞鶴湯河原間國府津起點 12 哩 23 鎖 35 節第一鍛冶屋陸橋國府津方混凝土橋臺の龜裂

寫眞第百四十八

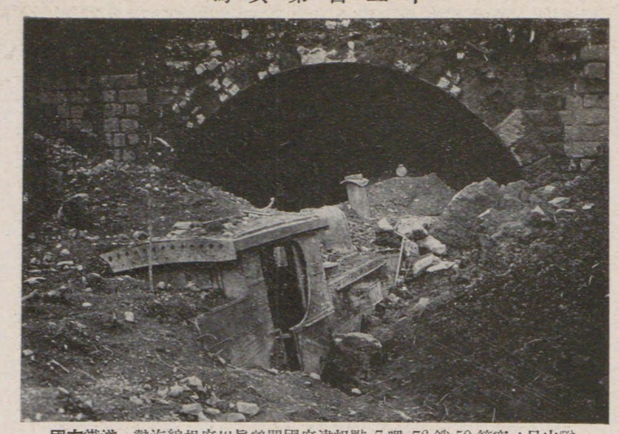
國有鐵道　熱海線湯河原熱海間千歳川橋梁上り線第一號橋脚の切斷

寫眞第百四十九



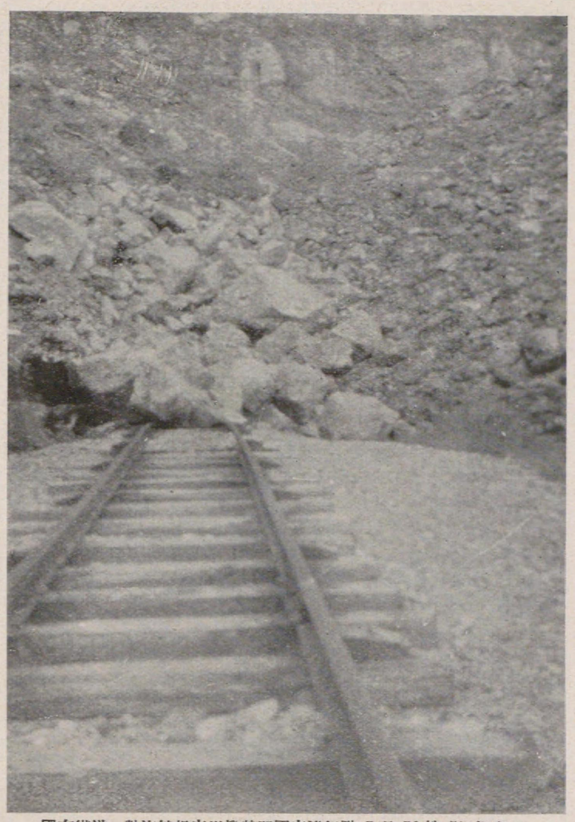
國有鐵道　熱海線湯河原熱海間千歳川橋梁橋脚の水平切斷

寫眞第百五十



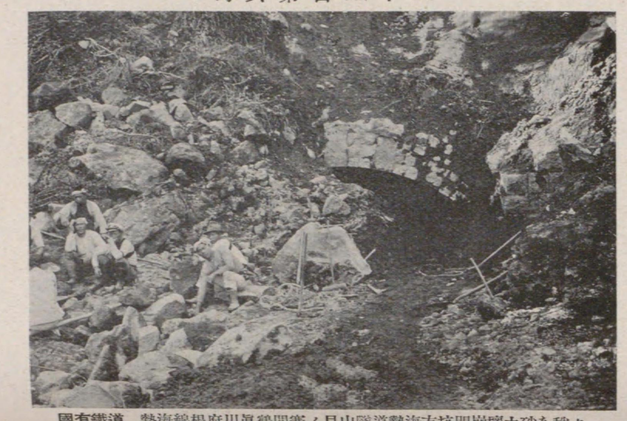
國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點 7 哩 76 鎖 50 節寒ノ目山隧道國府津方坑門の崩壞列車は上り旅客第 160 列車なり

寫眞第百五十一



國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點 7 哩 76 鎖 50 節寒ノ目山隧道熱海方坑門の崩壞

寫眞第百五十二

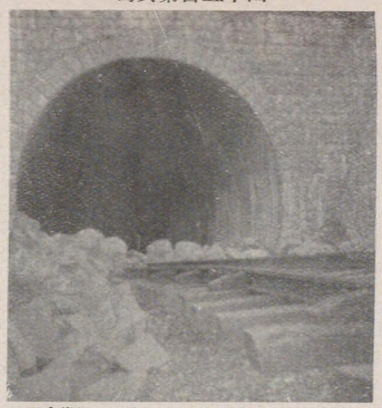


國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間寒ノ目山隧道熱海方坑門崩壞土砂を稍々取去りたる處を示す

寫眞第百五十三

國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間江浦隧道國府津方坑門の崩壞

寫眞第百五十四

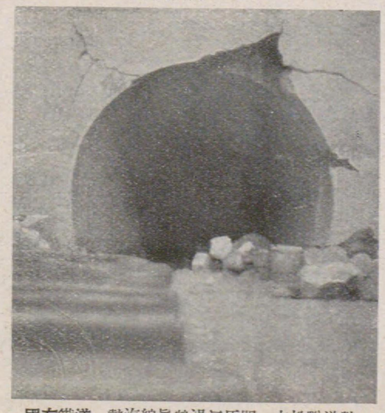


國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間江浦隧道熱海方坑門の被害

寫眞第百五十五

國有鐵道　熱海線眞鶴湯河原間一本松隧道國府津方坑門の龜裂

寫眞第百五十六

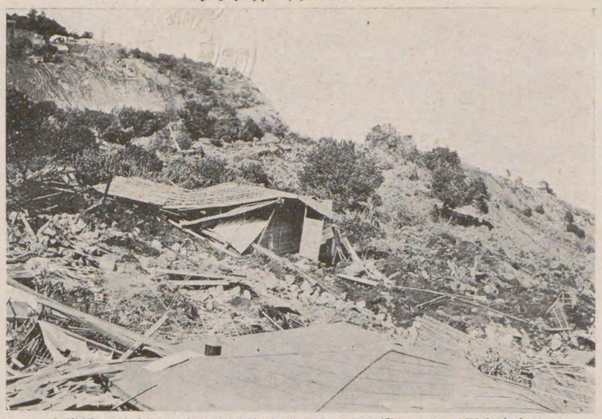


國有鐵道　熱海線眞鶴湯河原間一本松隧道熱海方坑門の被害

寫眞第百五十七

國有鐵道　熱海線眞鶴湯河原間一本松隧道坑内側壁混凝土塊積の脫落

寫眞第百五十九



國有鐵道　熱海線根府川驛構内潰滅人家土石錯亂の狀況（國府津方に向て撮影）

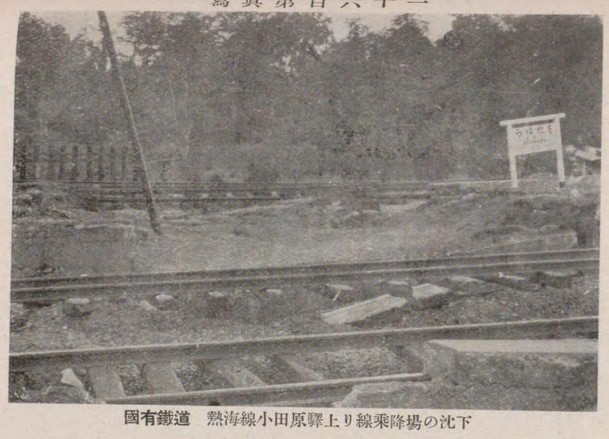
寫眞第百五十八

國有鐵道　熱海線小田原驛本屋の破壞を正面より望む

寫眞第百六十

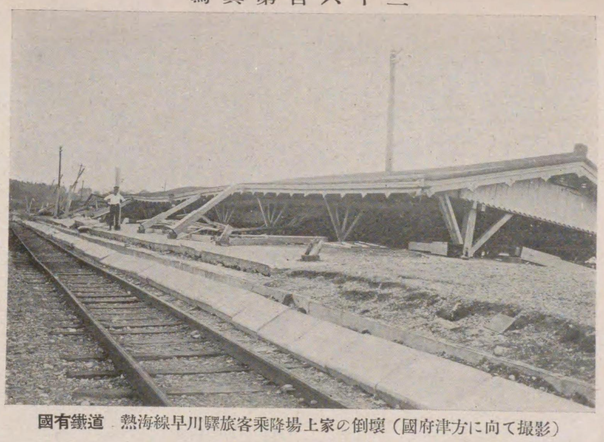
國有鐵道　熱海線小田原驛鴨宮方面より見たる乘降場擁壁及び上家の全潰

寫眞第百六十一



國有鐵道　熱海線乘降場上り線小田原驛の沈下

寫眞第百六十三

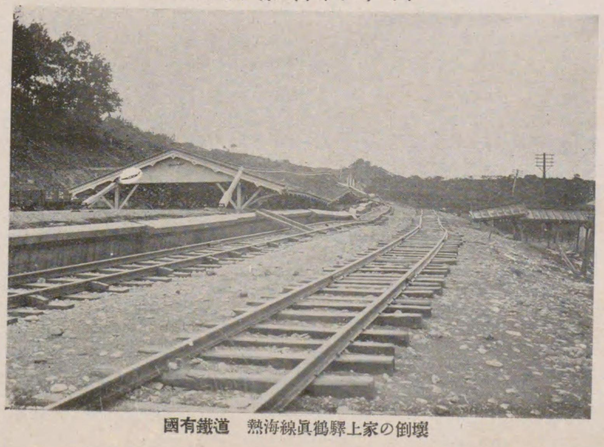


國有鐵道　熱海線早川驛旅客乘降場上家の倒壞（國府津方に向て撮影）

寫眞第百六十二

國有鐵道　熱海線早川驛旅客乘降場上家及び土留擁壁の倒壞（熱海方に向て撮影）

寫眞第百六十四

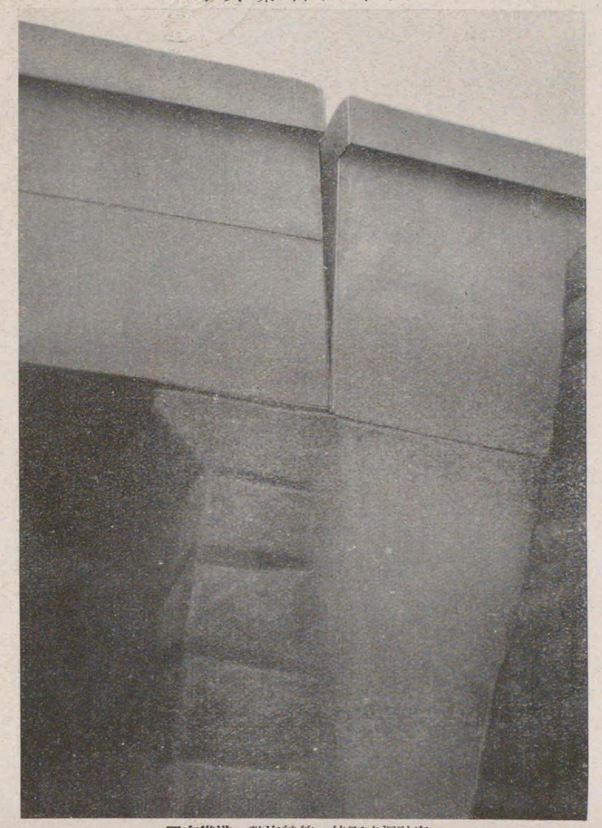


國有鐵道　熱海線眞鶴驛上家の倒壞

寫眞第百六十五

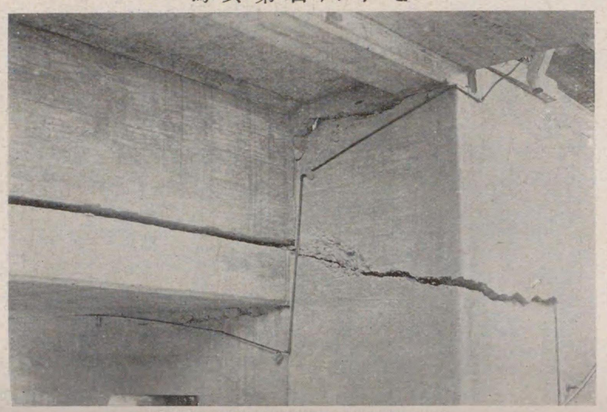
國有鐵道　熱海線湯河原驛旅客乘降場上家の倒壞

寫眞第百六十六



國有鐵道　熱海線第三綠町暗渠破害

寫眞第百六十七



國有鐵道　熱海線早川驛地下道擁壁の龜裂

寫眞第百六十八

國有鐵道　熱海線眞鶴驛地下道入口擁壁の崩壞

寫眞第百七十

國有鐵道　熱海線湯河原驛地下道擁壁の崩壞

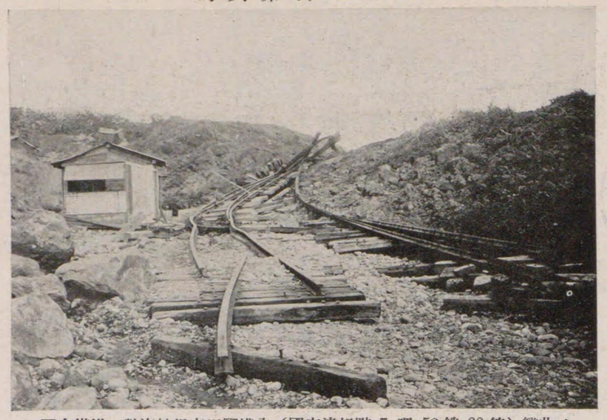
寫眞第百六十九

國有鐵道　熱海線湯河原驛地下道入口擁壁及び土留石垣の崩壞

寫眞第百七十一

國有鐵道　熱海線根府川驛山崩のため海岸に押出されたる根府川驛構内の軌條

寫眞第百七十二

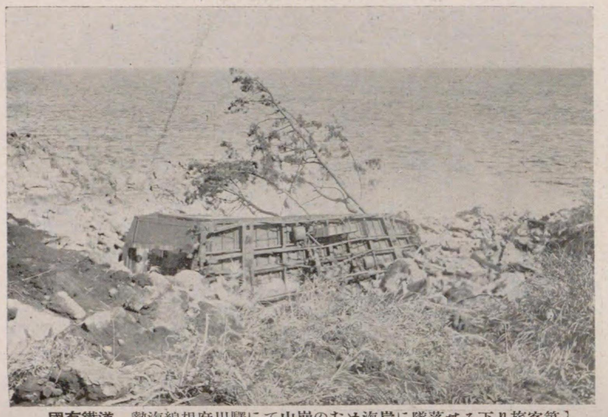


國有鐵道　熱海線根府川驛構內（國府津起點 7 哩 52 鎖 60 節）彎曲せる軌條（其一）

寫眞第百七十四

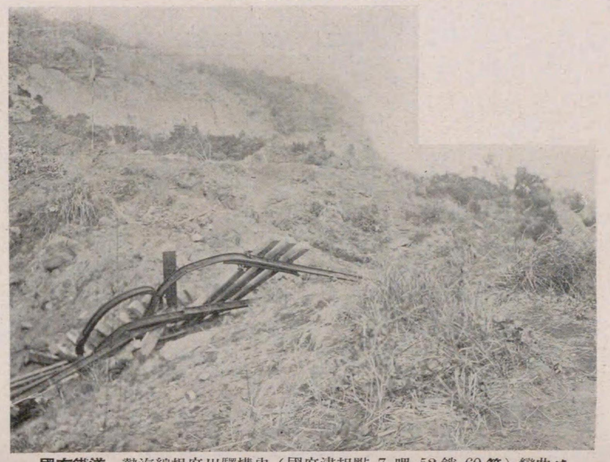
國有鐵道　熱海線根府川驛構內唯一の殘存物たる車止（國府津方に向て撮影）

寫眞第百七十五



國有鐵道　熱海線根府川驛にて山崩のため海岸に墜落せる下り旅客第 111 列車の一部

寫眞第百七十三



國有鐵道　熱海線根府川驛構內（國府津起點 7 哩 52 鎖 60 節）彎曲せる軌條（其二）

寫眞第百七十六

國有鐵道　中央本線御茶ノ水水道橋間切取及び土留壁の崩壞（其一）（東京方を望む）

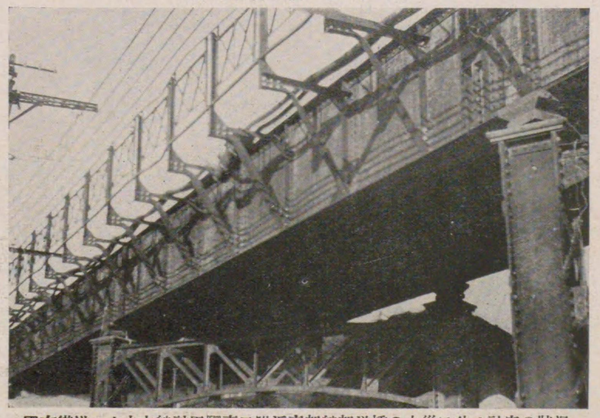
寫眞第百七十八

國有鐵道　中央本線御茶ノ水水道橋間切取及び土留壁の崩壞（其三）（線路より本鄉方を望む）

寫眞第百七十七

國有鐵道　中央本線御茶ノ水水道橋間切取及び土留壁の崩壞（其二）（東京方を望む）

寫眞第百七十九

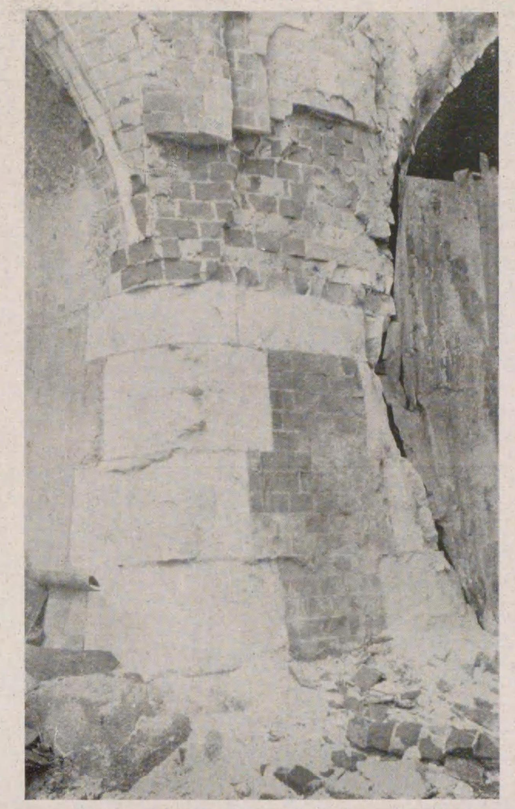


國有鐵道　中央本線神田驛南口附近高架線架道橋の火災に依る被害の狀況

寫眞第百八十

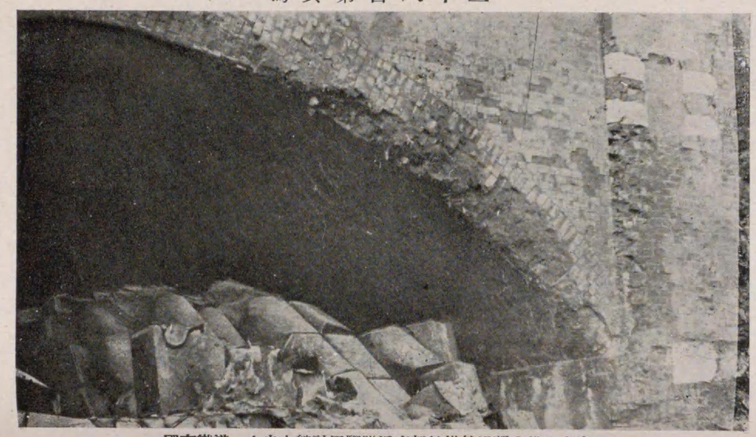
國有鐵道　中央本線神田驛附近高架線欄干及び笠石の火害

寫眞第百八十一



國有鐵道　中央本線神田驛附近高架線煉化石積拱の火害

寫眞第百八十二



國有鐵道　中央本線神田驛附近高架線鐵筋混凝土拱の火害

寫眞第百八十三

國有鐵道　中央本線神田驛の全燒

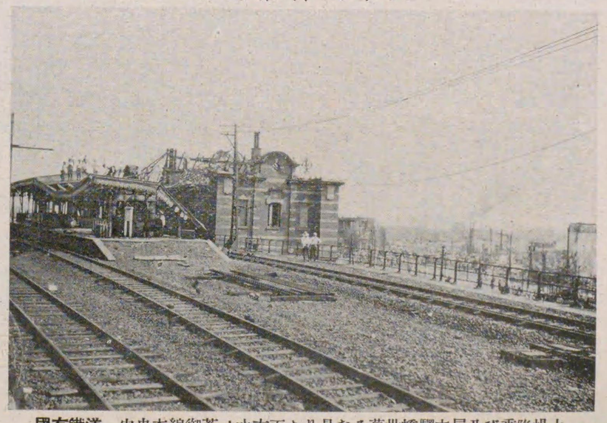
寫眞第百八十四

國有鐵道　中央本線萬世橋驛の燒失殘骸を左方正面より望む

寫眞第百八十五

國有鐵道　中央本線萬世橋驛本屋燒失後の內部

寫眞第百八十六

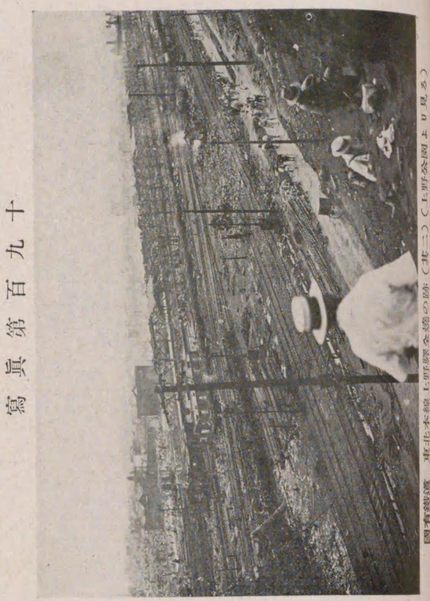


國有鐵道　中央本線御茶ノ水方面より見たる萬世橋驛本屋及び乘降場上家の被害

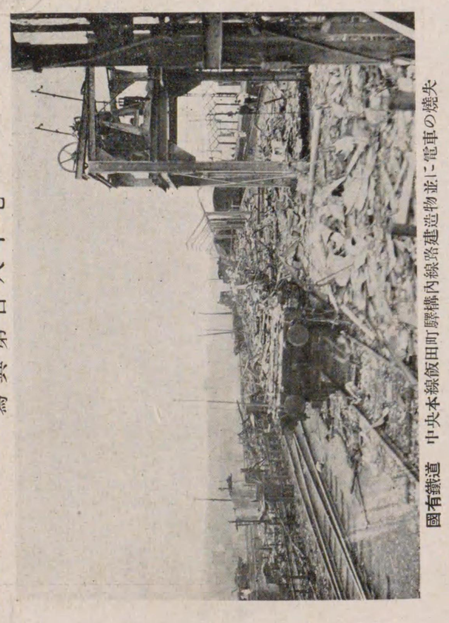
寫眞第百八十九

國有鐵道　東北本線上野驛全燒の跡（其一）

寫眞第百九十

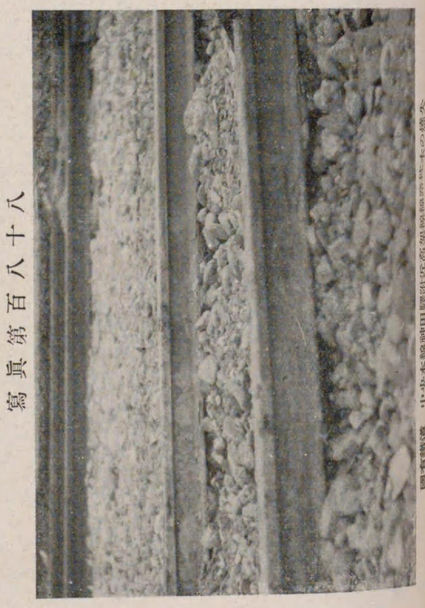


寫眞第百八十七



國有鐵道　中央本線飯田町驛構內線路建造物並に電車の燒失

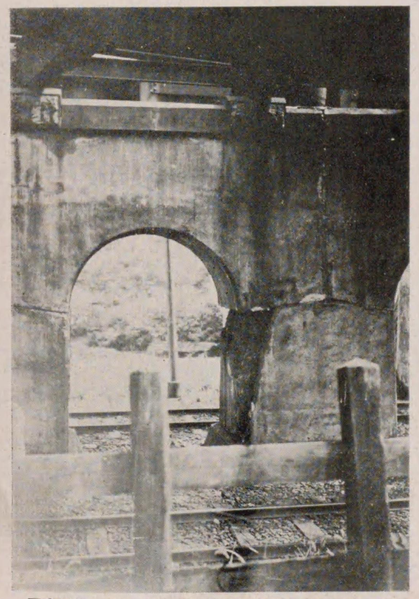
寫眞第百八十八



寫眞第百九十一

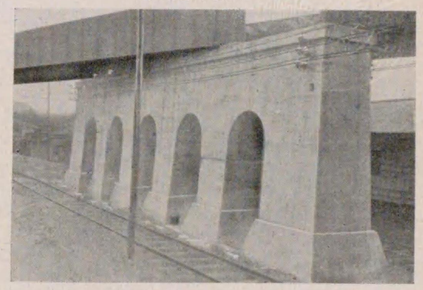
國有鐵道　東北本線日暮里驛に於ける避難民雜沓の狀況（大宮方に向て撮影）

寫眞第百九十二



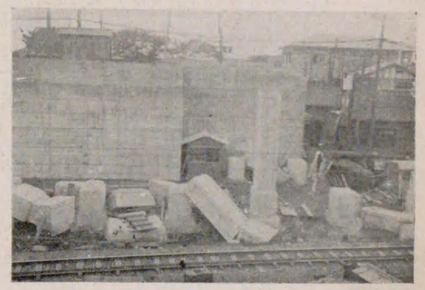
國有鐵道　目黑惠比壽間汽車線乘越橋梁混凝土橋脚の龜裂

寫眞第百九十三



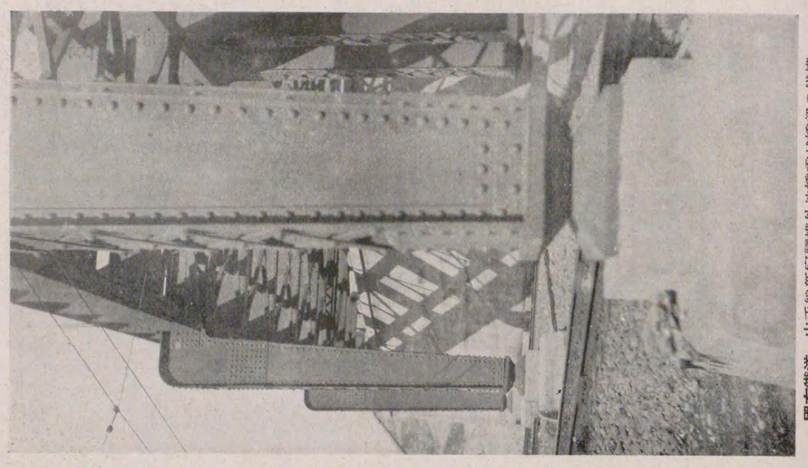
國有鐵道　山手線代々木新宿間斜角乘越橋梁混凝土橋脚の龜裂

寫眞第百九十四



國有鐵道　山手線新宿驛構內に於ける新築中の驛舍を支ふる混凝土方柱の切斷顚倒（其一）

寫眞第百九十七

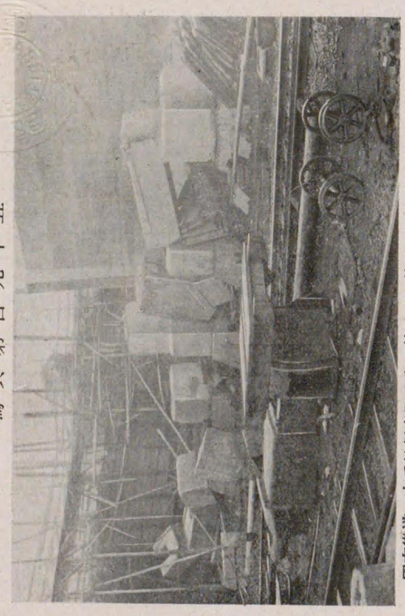


國有鐵道　山手線新宿驛構外淀橋乘越橋梁の鐵構橋脚の被害（其一）

寫眞第百九十六

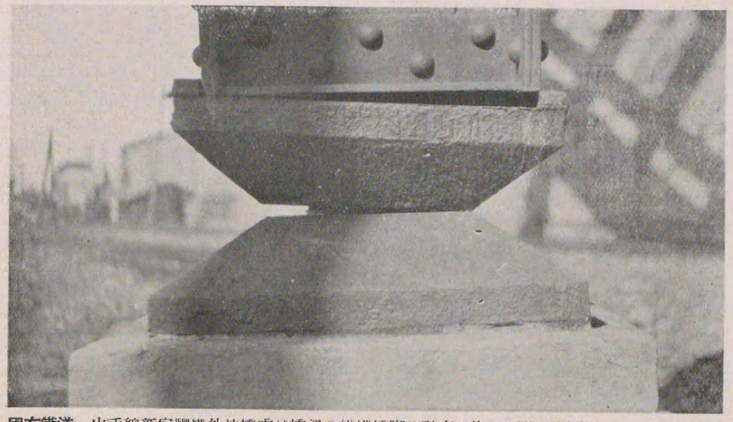
國有鐵道　山手線新宿驛構内に於ける新築中の驛舍を支ふる混凝土方柱の切斷（其一）

寫眞第百九十五



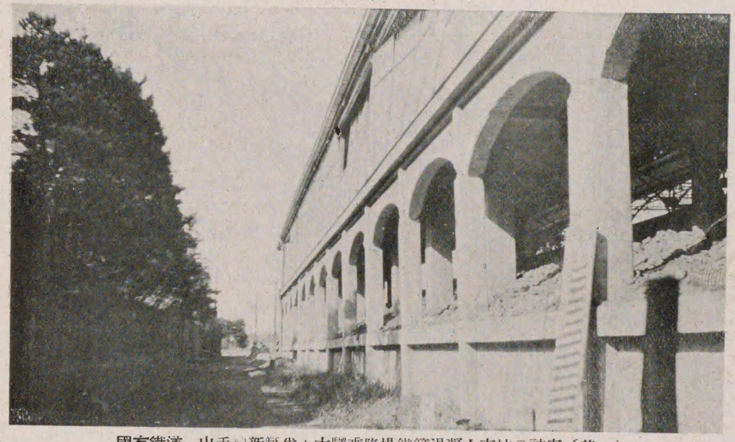
國有鐵道　山手線新宿驛構内に於ける新築中の驛舍を支ふる混凝土方柱の切斷順倒（其二）

寫眞第百九十八



國有鐵道　山手線新宿驛構外淀橋乘越橋梁の鐵構橋脚の被害（其二）（鐵構橋脚の浮上りを示す）

寫眞第百九十九

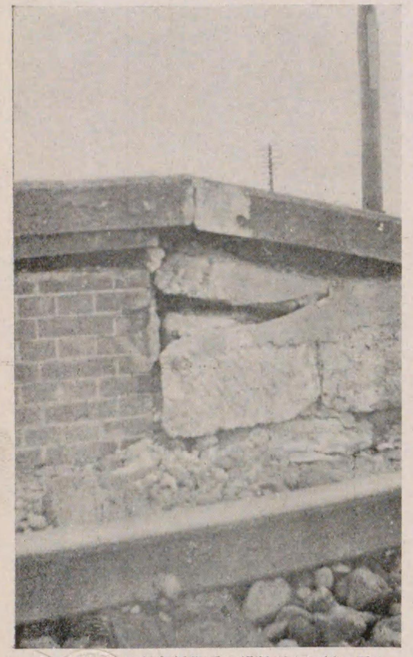


國有鐵道　山手線新築代々木驛乘降場鐵筋混凝土支柱の被害（其一）

寫眞第二百

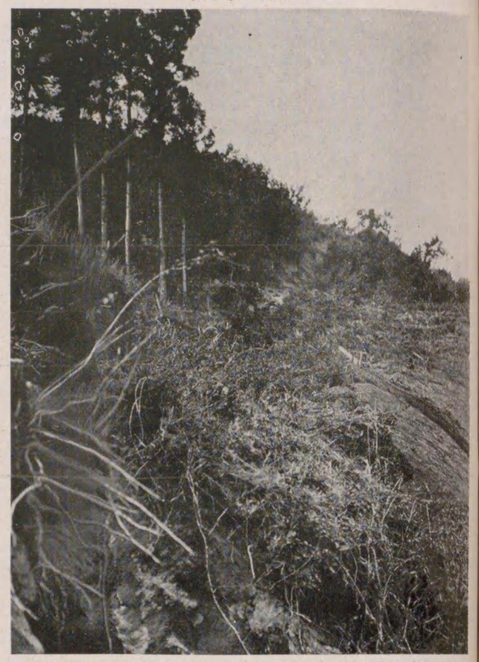
國有鐵道　山手線新築代々木驛乘降場鐵筋混凝土支柱の被害（其二）

寫眞第二百一



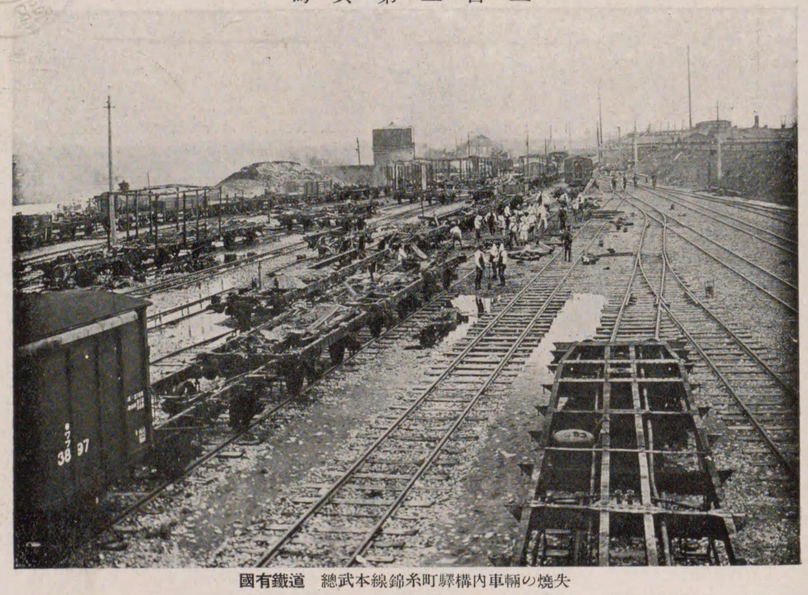
國有鐵道　山手線板橋驛乘降場擁壁と扒橋面壁との接合部の隆起

寫眞第二百四



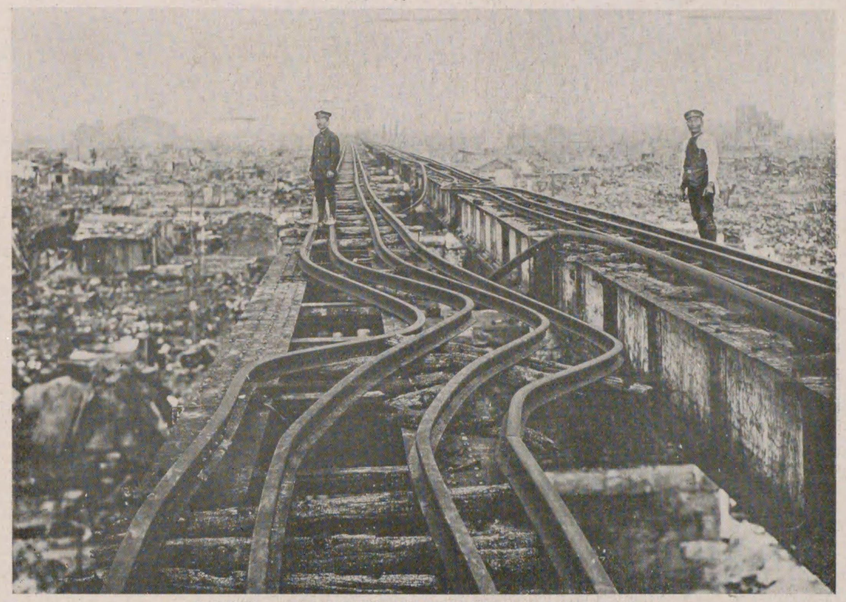
國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間天神山隧道江見方坑門附近左側山上大龜裂

寫眞第二百三



國有鐵道　總武本線錦糸町驛構內車輛の燒失

寫眞第二百二

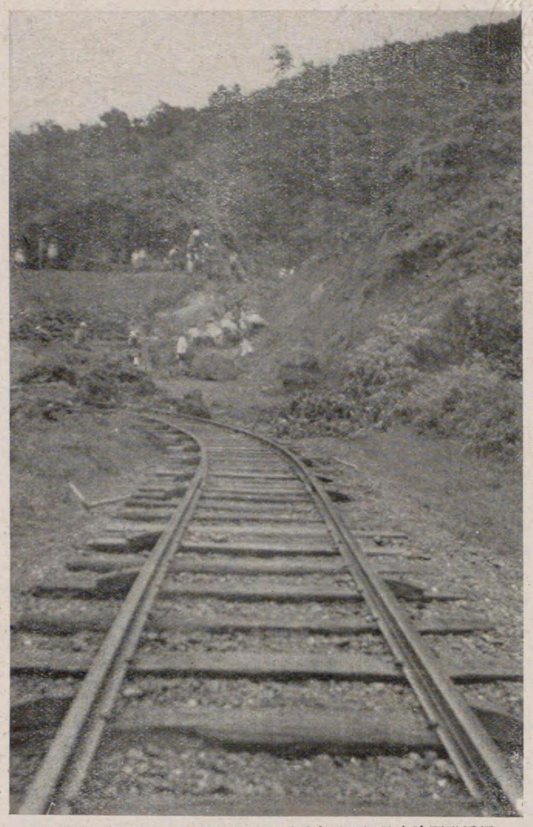


國有鐵道　總武本線兩國橋錦糸町間高架線橋梁燒失軌條の彎曲

寫眞第二百五

國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間天神山隧道江見方坑門附近切取法崩壞

寫眞第二百六

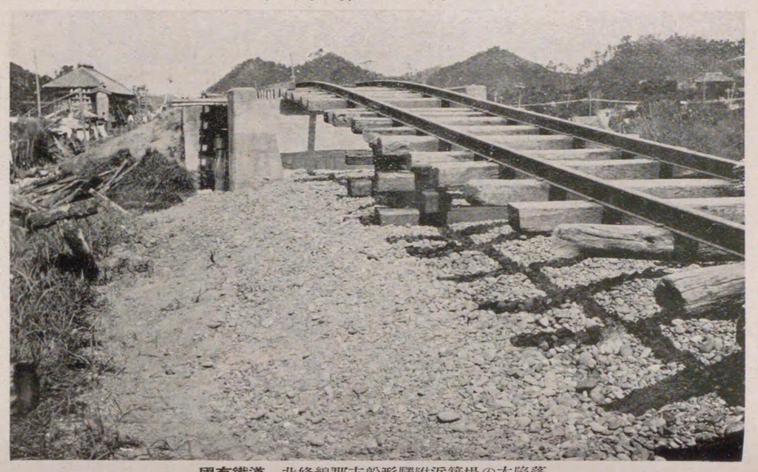


國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間天神山隧道江見方坑門附近切取法の崩壞及び線路の屈曲

寫眞第二百七

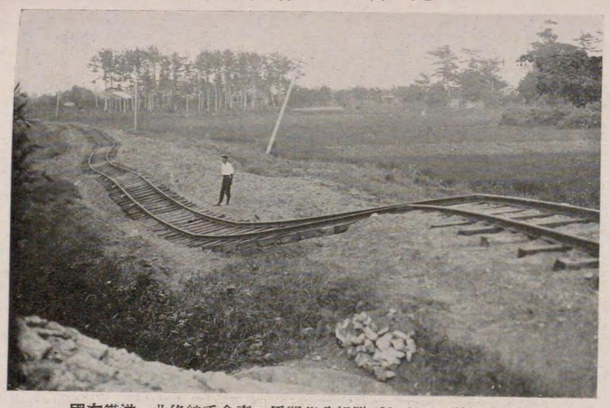
國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間蘇我起點 35 哩 24 鎖附近土砂崩壞して線路を埋む

寫眞第二百八



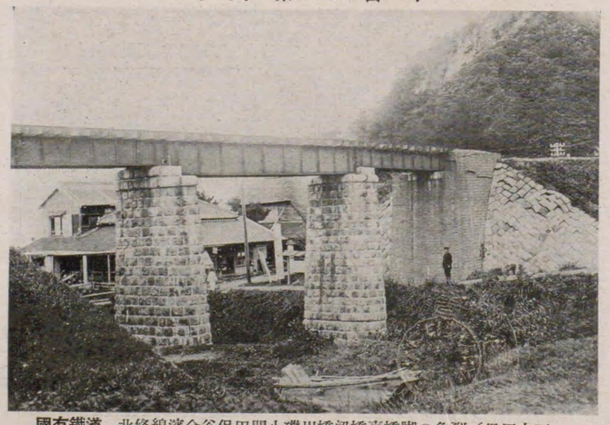
國有鐵道　北條線那古船形驛附近築堤の大陷落

寫眞第二百九



國有鐵道　北條線千倉南三原間蘇我起點 62 哩附近築堤の陷落

寫眞第二百十



國有鐵道　北條線濱金谷保田間小磯川橋梁橋臺橋脚の龜裂（保田方面より望む）（其一）

寫眞第二百十一

國有鐵道　北條線濱金谷保田間小磯川橋梁橋臺橋脚の龜裂（保田方面より望む）（其二）

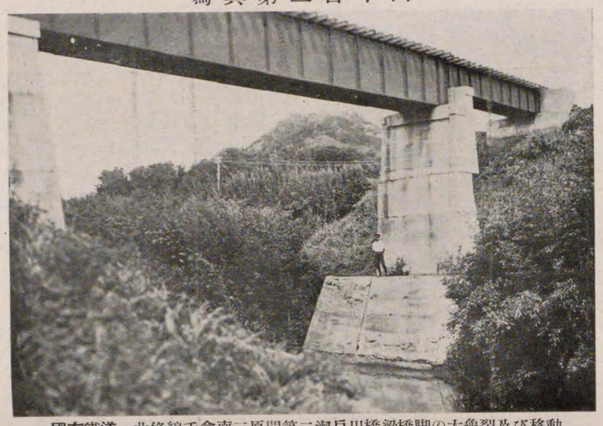
寫眞第二百十二

國有鐵道　北條線安房勝山岩井間合磯川橋梁橋臺及び翼壁の被害（線路左側より望む）

寫眞第二百十三

國有鐵道　北條線九重千倉間大和田川橋梁橋臺及び翼壁の大龜裂

寫眞第二百十四



國有鐵道　北條線千倉南三原間第二瀨戸川橋梁橋脚の大龜裂及び移動

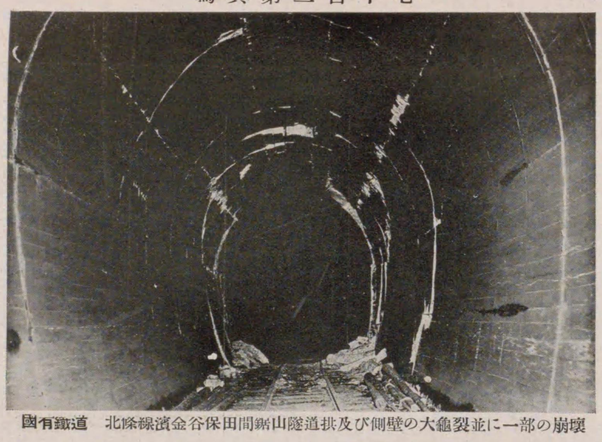
寫眞第二百十五

國有鐵道　北條線千倉南三原間丸山川橋梁南三原方橋脚の被害（線路左側より望む）

寫眞第二百十六

國有鐵道　安房線鴨川工區 12 呎混凝土拱暗渠の被害

寫眞第二百十七



國有鐵道　北條線濱金谷保田間鋸山隧道排及び側壁の大龜裂並に一部の崩壞

寫眞第二百十八

國有鐵道　北條線安房勝山驛本屋の半潰

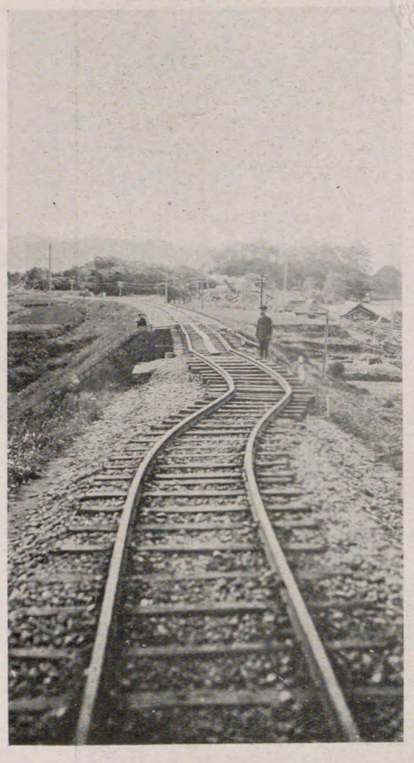
寫眞第二百十九

國有鐵道　北條線安房勝山驛乘降場の沈下

寫眞第二百二十

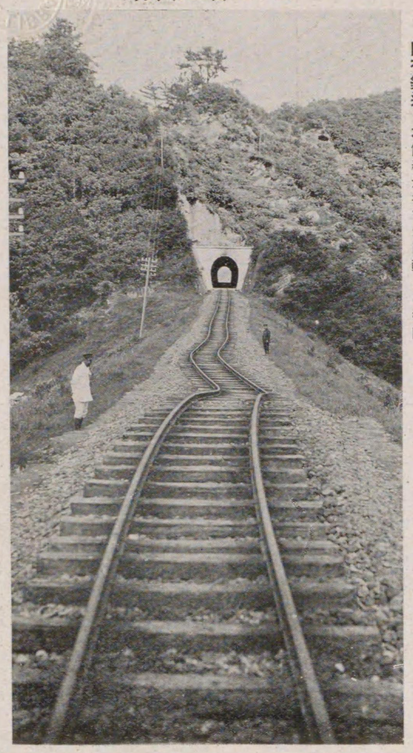
國有鐵道　北條線岩井驛本屋及び官舍の全潰

寫眞第二百二十一



國有鐵道 北條線濱金谷保田間小磯川附近濱金谷方面より見たる軌道の彎曲

寫眞第二百二十二

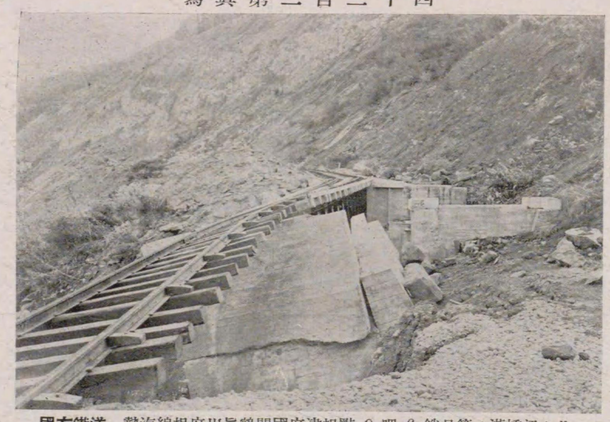


國有鐵道 北條線岩井富浦間軌道の彎曲

寫眞第二百二十三

國有鐵道 北條線那古船形安房北條間葦我邑點 51 哩 41 鎖附近線路の彎曲

寫眞第二百二十四



國有鐵道 熱海線根府川眞鶴間國府津起點 9 哩 6 鎖晶籤ノ瀧橋梁より切取の崩壞を望む（長坂山方面に向て撮影）

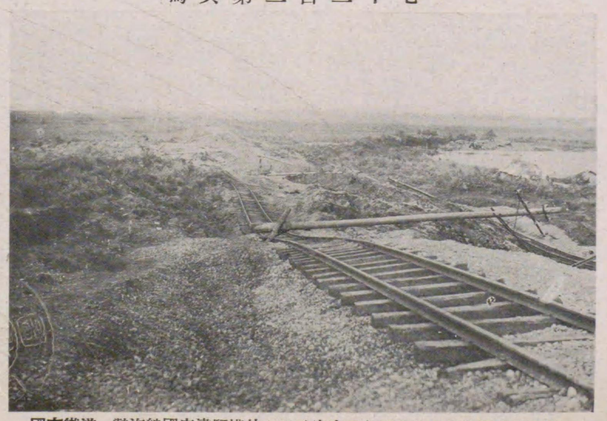
寫眞第二百二十五

國有鐵道 熱海線根府川眞鶴間江ノ浦山隧道附近山上より切取崩壞を望む（長坂山方面に向て撮影）

寫眞第二百二十六

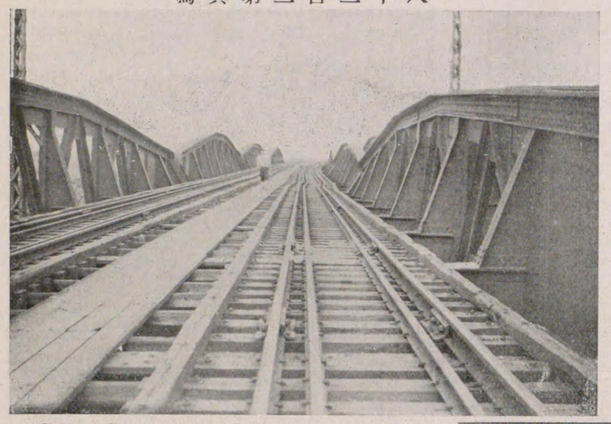
國有鐵道 熱海線國府津驛構内終端より鴨宮方面を望みたる線路築堤の陷落

寫眞第二百二十七



國有鐵道 熱海線國府津驛構外より鴨宮方面を望みたる線路築堤の陷落

寫眞第二百二十八

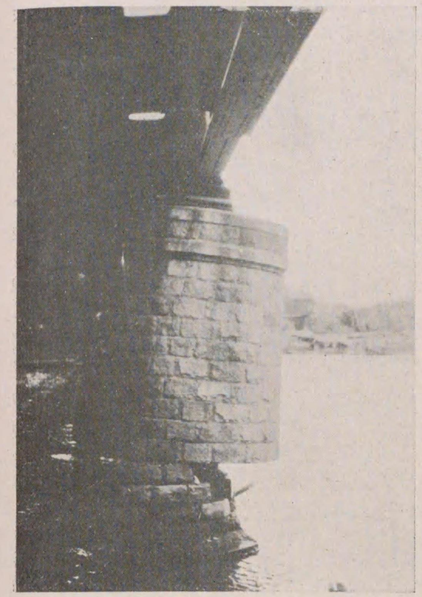


國有鐵道　東海道本線六鄕川橋梁電車線路の彎曲を示す（東京方へ向て撮影）

寫眞第二百二十九

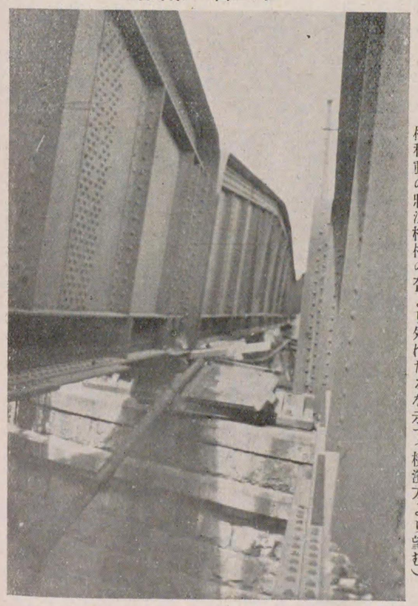
國有鐵道　東海道本線六鄕川橋梁第二十四號架道橋脚汽車線下部に於ける軀體の龜裂（横濱方より望む）

寫眞第二百三十



國有鐵道　東海道本線六鄕川橋梁第二十六號川上方（電車線用）圓形橋脚の切斷（東京方より望む）

寫眞第二百三十一



國有鐵道　東海道本線六鄕川橋梁第二十六號中央楕圓形橋脚に於ける橋桁移動の狀況橋桁の沓より外れたるを示す（横濱方より望む）

寫眞第二百三十二

國有鐵道　東海道本線六鄕川橋梁第二十六號川下方橋脚用井筒破損の狀態（其二）

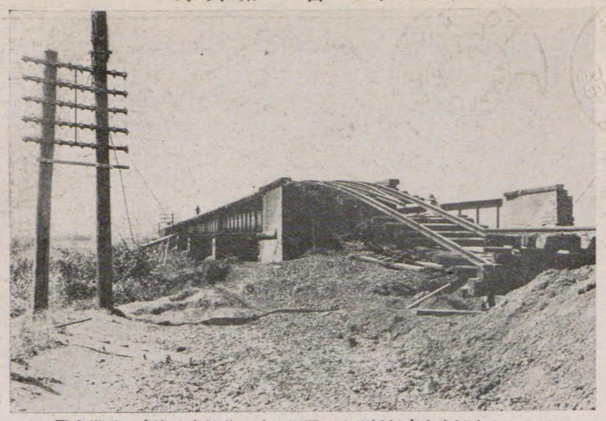
寫眞第二百三十三

國有鐵道　東海道本線六鄕川橋梁第二十六號川下方橋脚用井筒破損の狀態（其一）

寫眞第二百三十四

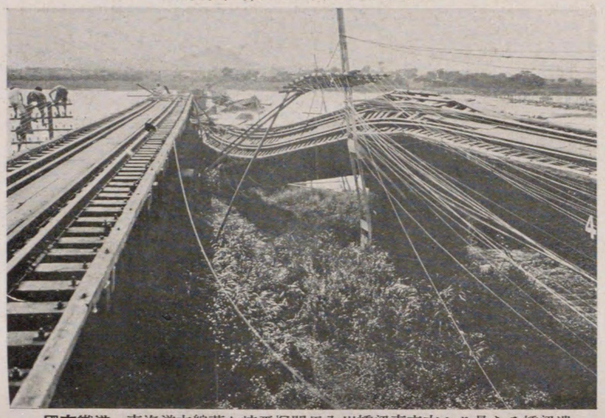
國有鐵道　東海道本線六鄕川橋梁第二十六號川下方橋脚用井筒破損の狀態（其三）

寫眞第二百三十五



國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁東京方橋臺裏の沈下

寫眞第二百三十六

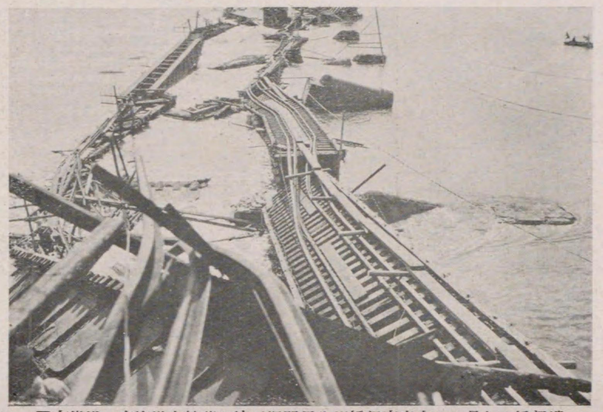


國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁東京方より見たる橋梁潰滅の狀況（其一）

寫眞第二百三十七

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁東京方より見たる橋梁潰滅の狀況（其二）

寫眞第二百三十八



國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁東京方より見たる橋梁潰滅の狀況（其三）

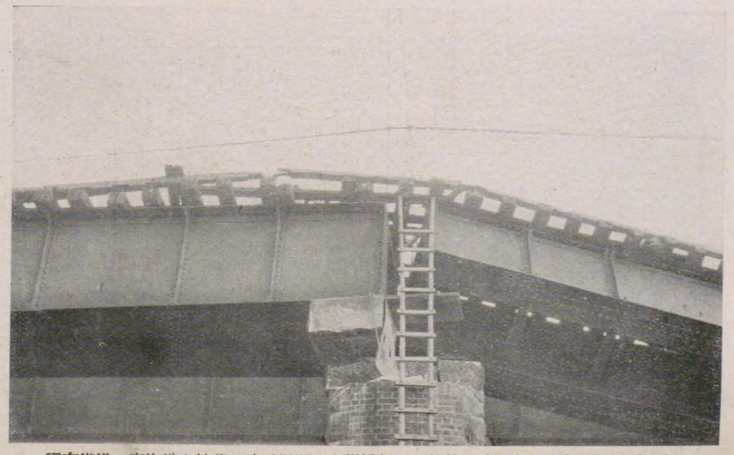
寫眞第二百三十九

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁東京方川下より見たる橋梁潰滅の狀況

寫眞第二百四十

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁上り線第四號橋脚の被害（其一）（東京方より沼津方を望む）

寫眞第二百四十一



國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁上り線第四號橋脚の被害（其二）（川上より川下を望む）

寫眞第二百四十二

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁上り線第十三號橋脚の倒壞（沼津方より東京方を望む）

寫眞第二百四十三

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁上り線第二十號橋脚の倒壞（沼津方より東京方を望む）

寫眞第二百四十四

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁上り線第二十一號橋脚（沼津方より東京方を望む）

寫眞第二百四十五

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁下り線第十號橋脚の殘存せるを示す（東京方より沼津方を望む）

寫眞第二百四十六

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁下り線第十三號橋脚の倒壞（沼津方より東京方を望む）

寫眞第二百四十七

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁下り線第二十號橋脚，脚上に床鈑附着せるまゝ倒壞せるを示す

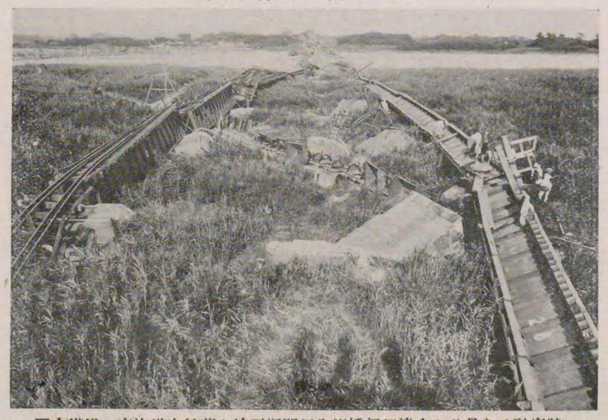
寫眞第二百四十八

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁下り線第二十三號橋脚床鈑橋桁に附着せるを示す（川上より川下を望む）

寫眞第二百四十九

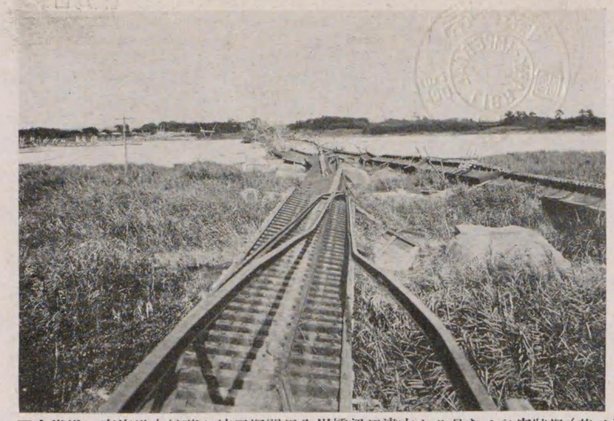
國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁橋脚折損倒潰の一例

寫眞第二百五十



國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁沼津方より見たる被害狀況（其一）

寫眞第二百五十一

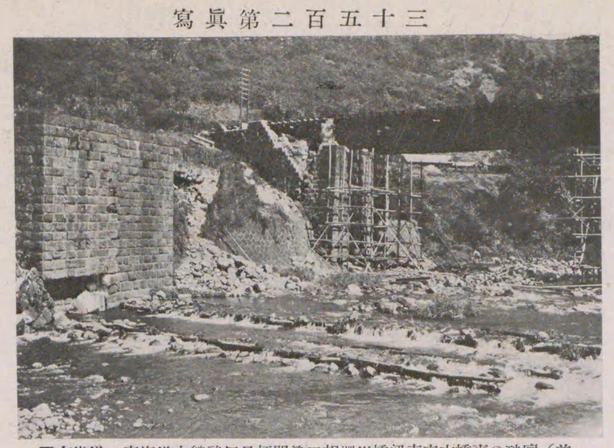


國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁沼津方より見たる被害狀況（其二）

寫眞第二百五十二

國有鐵道　東海道本線茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁下り線應急工事竣工の狀況（東京方より望む）

寫眞第二百五十三



國有鐵道　東海道本線駿河足柄間第五相澤川橋梁東京方橋臺の破壞（前面のものは舊線跡の廢橋臺）

寫眞第二百五十四

國有鐵道　東海道本線駿河足柄間第五相澤川橋梁沼津方橋臺破壞ヶ鈑桁墜落の狀（上り線鈑桁を枕木枠を以て扛上し終りたるを示す）

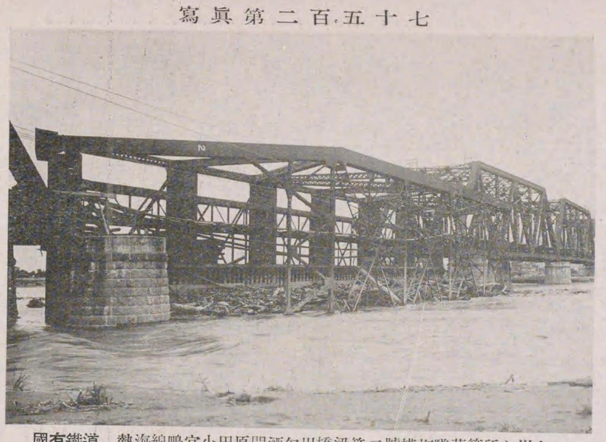
寫眞第二百五十五

國有鐵道　東海道本線駿河足柄間第五相澤川橋梁沼津方橋臺より見たる橋梁破害狀況

寫眞第二百五十六

國有鐵道　熱海線鴨宮小田原間酒匂川橋梁第一號構桁（徑間 150呎）下より見たる第二構桁の墜落（小田原方に向て撮影）

寫眞第二百五十七

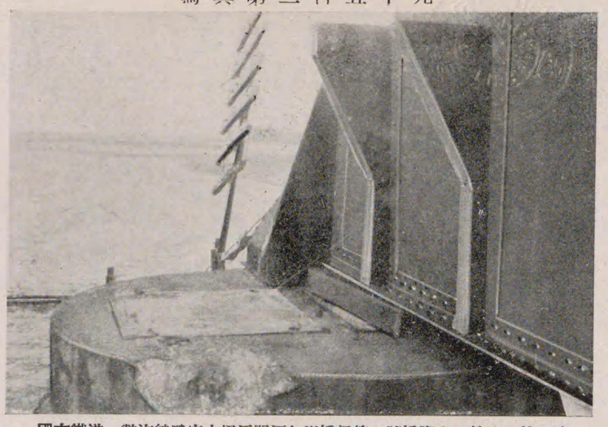


國有鐵道　熱海線鴨宮小田原間酒匂川橋梁第二號構桁墜落箇所を川上より望む

寫眞第二百五十八

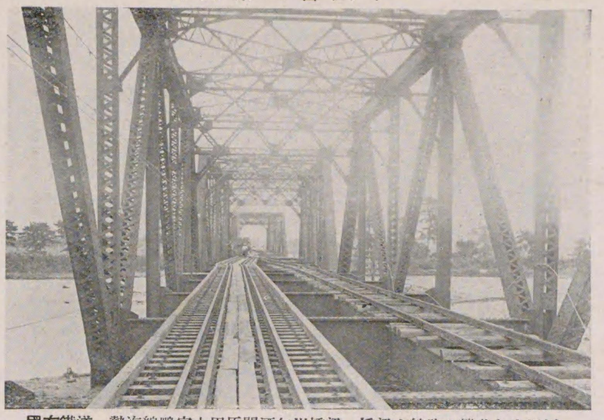
國有鐵道　熱海線鴨宮小田原間酒匂川橋梁第三號構桁上より見たる第一號第二號構桁移動、墜落の狀況（鴨宮方に向て撮影）

寫眞第二百五十九



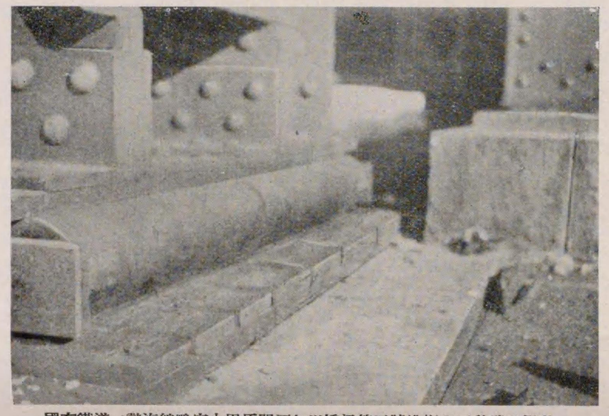
國有鐵道　熱海線鴨宮小田原間酒匂川橋梁第六號橋脚上に於ける第三號構桁固定端の移動狀況（川上より川下に向て撮影）

寫眞第二百六十一



國有鐵道　熱海線鴨宮小田原間酒匂川橋梁，橋梁上線路の彎曲を小田原方より望む

寫眞第二百六十



國有鐵道　熱海線鴨宮小田原間酒匂川橋梁第四號構桁の可動端の揚動

寫眞第二百六十二

國有鐵道　熱海線鴨宮小田原間酒匂川橋梁第八號構桁（150 呎）と 60呎鈑桁との架違箇所に於ける軌條の切斷（小田原方に向て撮影）

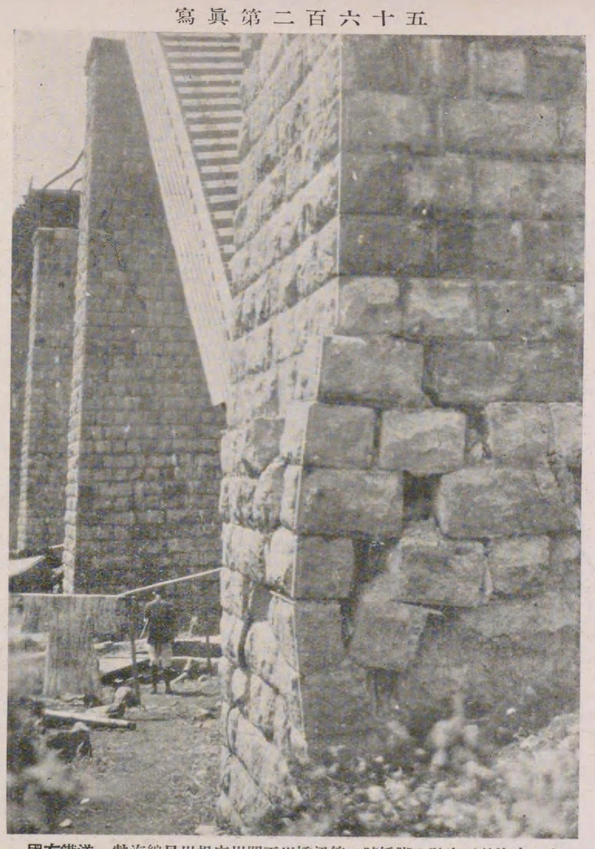
寫眞第二百六十三

國有鐵道　熱海線國府津起點5哩 72 鎖附近より玉川橋梁及び佐奈田山隧道國府津方坑門を望む（熱海方に向て撮影）

寫眞第二百六十四

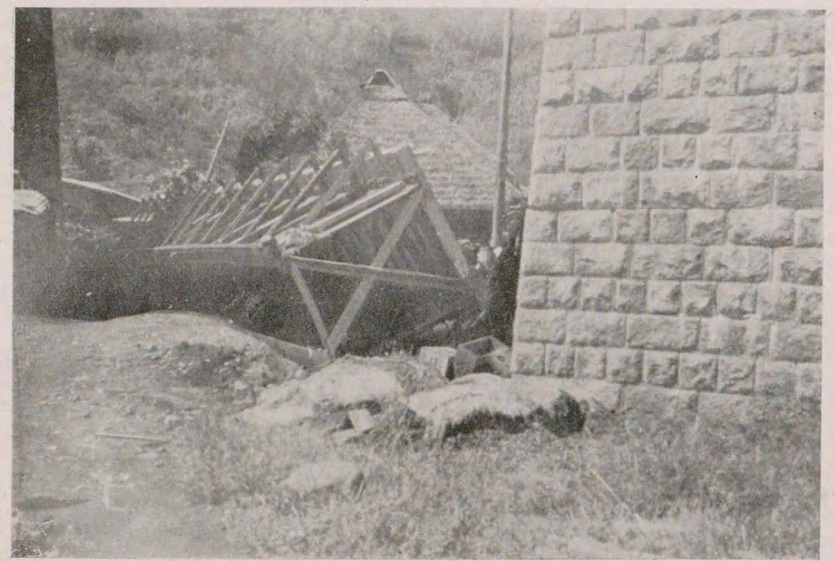
國有鐵道　熱海線早川根府川間玉川橋梁第一號橋脚（40 呎鈑桁及び 60呎鈑桁架違橋脚）桁座の罅裂（熱海方に向て撮影）

寫眞第二百六十五



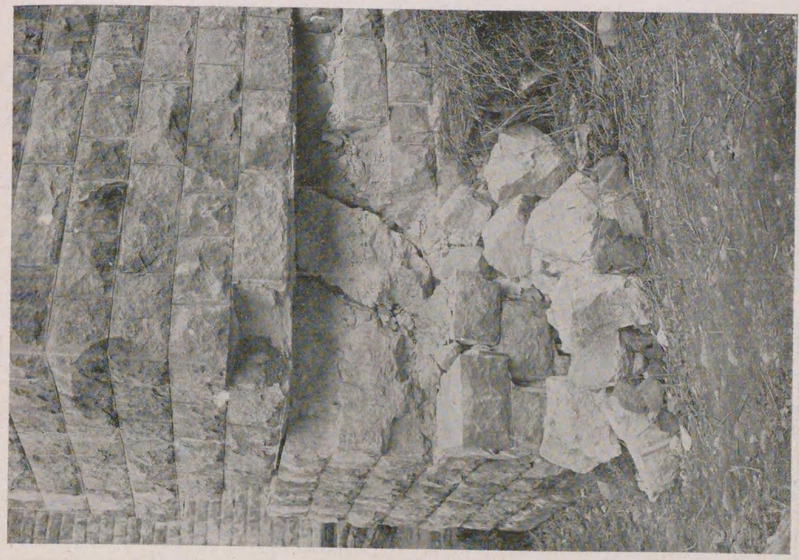
國有鐵道　熱海線早川根府川間玉川橋梁第二號橋脚の被害（熱海方に向て撮影）

寫眞第二百六十六



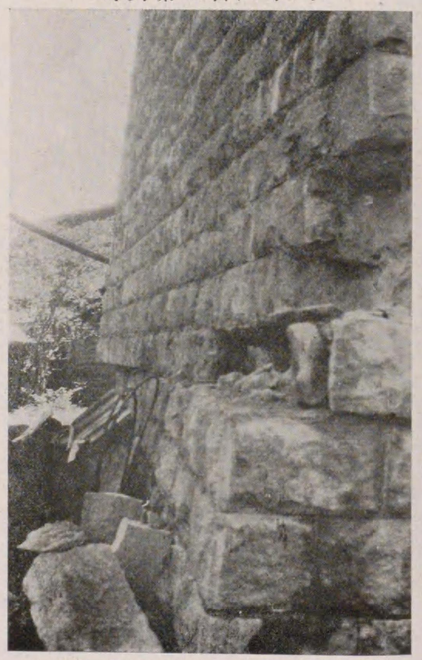
國有鐵道　熱海線早川根府川間玉川橋梁第四徑間下り線 60 呎鈑桁の墜落

寫眞第二百六十七



國有鐵道　熱海線早川根府川間玉川橋梁第七號橋脚の切斷揩動（國府津方に向て撮影）

寫眞第二百六十八

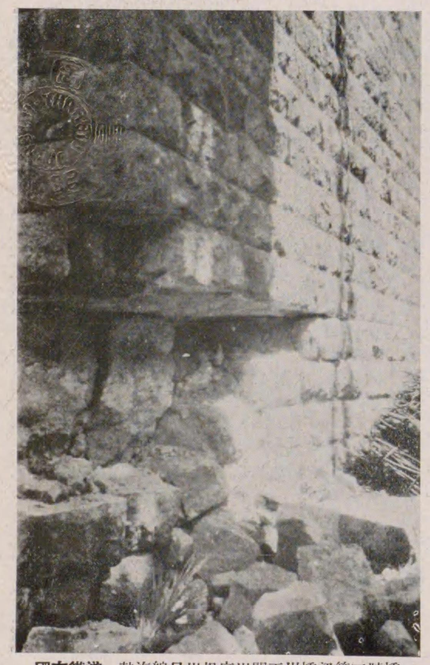


國有鐵道　熱海線早川根府川間玉川橋梁第六號橋脚下部の切斷揩動（山側より望む）

寫眞第二百六十九

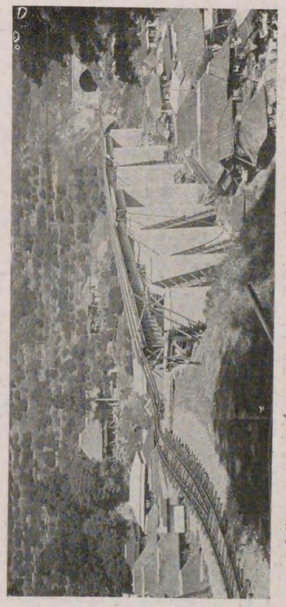
國有鐵道　熱海線早川根府川間玉川橋梁第七號橋脚の切斷揩動（熱海方に向て撮影）

寫眞第二百六十七



國有鐵道　熱海線早川根府川間玉川橋梁第五號橋脚の切斷揩動（海側より望む）

寫眞第二百七十一



國有鐵道　熱海線國府津起點6哩4鎖附近より玉川橋梁及び石橋山隧道熱海方坑門を望む（國府津方に向て撮影）

寫眞第二百七十二

國有鐵道　熱海線國府津起點7哩75鎖附近より墜落したる白糸川橋梁及び根府川驛を望む

寫眞第二百七十三

國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間白糸川橋梁國府津方橋臺，第一號及び第二號橋脚，第一號及び第二號鈑桁並に第一號構桁の破壞（川下より望む）

寫眞第二百七十四

國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間白糸川橋梁國府津方橋臺，第二號鈑桁及び第一號構桁の墜落を國府津方より望む

寫眞第二百七十五

國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間白糸川橋梁國府津方橋臺及び第一號橋脚の破壞（川下より望む）

寫眞第二百七十六

國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間白糸川橋梁國府津方橋臺第一號構桁の墜落して泥流に埋れたるを熱海方より望む

寫眞第二百七十七

國有鐵道　熱海線寒ノ目山隧道下より泥流のため白糸川橋梁の掃蕩されたる跡を望む（中央に見ゆるは第五號橋脚の殘存部なり）

寫眞第二百七十八

國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間白糸川橋梁海岸に打上げられたる鈑桁支持用鉄橋脚の一部

寫眞第二百八十一

國有鐵道　東北本線荒川橋梁第三十五號橋脚の沈下及び傾斜（上野方より望む）

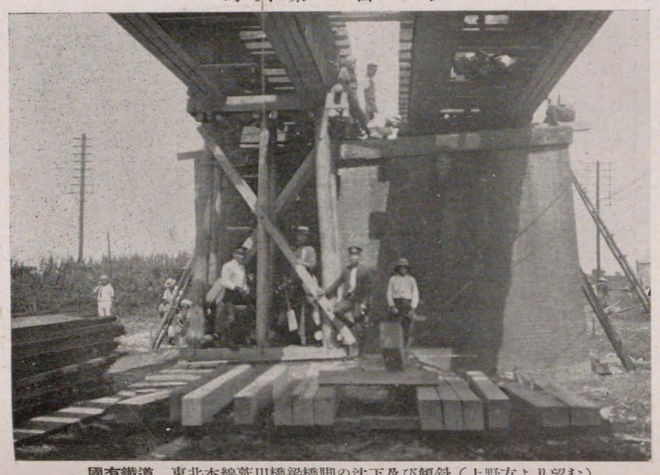
寫眞第二百八十二

國有鐵道　東北本線荒川橋梁第三十九號橋脚川上方井筒上部附近の破損（上野方より望む）角材及び鐵材は應急工事用のものなり

寫眞第二百八十三

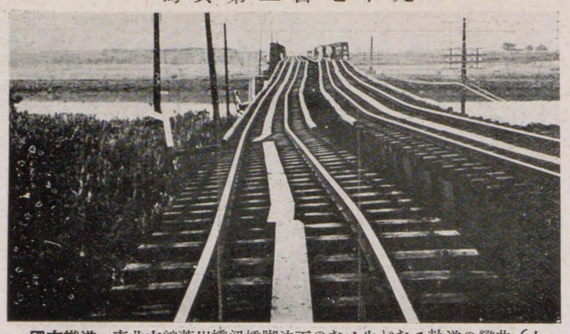
國有鐵道　東北本線荒川橋梁第三十九號橋脚川上方井筒上部附近の破損（大宮方より望む）角材及び鐵材は應急工事用のものなり

寫眞第二百八十



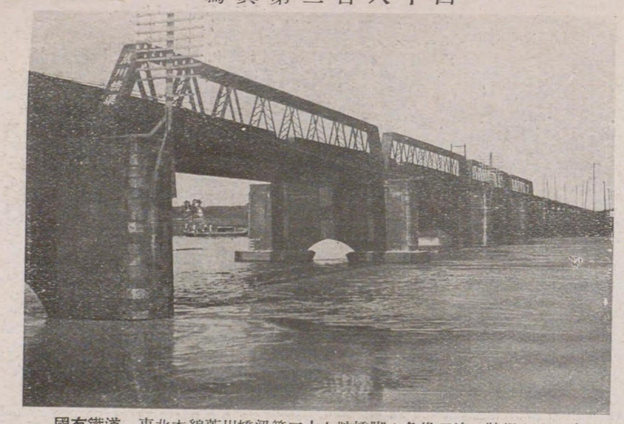
國有鐵道　東北本線荒川橋梁橋脚の沈下及び傾斜（上野方より望む）

寫眞第二百八十一



國有鐵道　東北本線荒川橋梁橋脚沈下のため生じたる軌道の彎曲（上野方より望む）

寫眞第二百八十四



國有鐵道　東北本線荒川橋梁第三十九號橋脚應急修理後の狀況を上野方より望む

寫眞第二百八十五

國有鐵道　常磐線隅田川橋梁第三號橋脚の龜裂（上野方より望む）

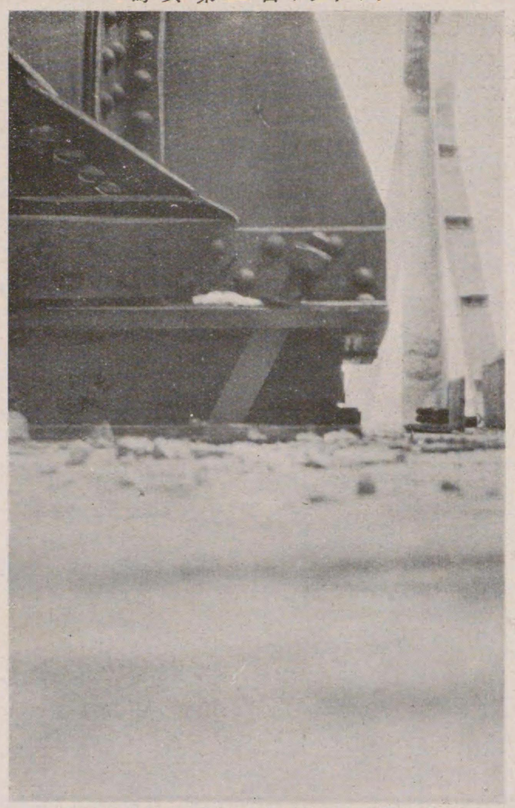
寫眞第二百八十六

國有鐵道　常磐線利根川橋梁上り線第十八號橋脚の破損（水戸方より望む）

寫眞第二百八十七

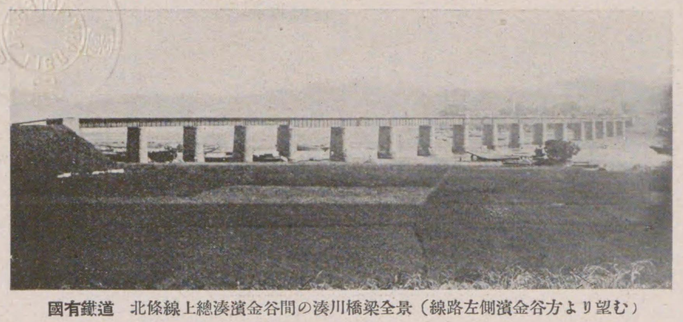
國有鐵道　常磐線利根川橋梁上り線第十八號橋脚の龜裂（上野方より望む）

寫眞第二百八十八



國有鐵道　常磐線利根川橋梁上り線第十七號橋脚上及び上り線第四號構桁可動端に於けるアンカー・ボールトの傾斜及び桁座附近 混凝土の破壞（川下方に向て撮影）

寫眞第二百八十九



國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間の湊川橋梁全景（線路左側濱金谷方より望む）

寫眞第二百九十

國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間湊川橋梁上總湊方より見たる橋梁上線路の屈曲

寫眞第二百九十一

國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間湊川橋梁千葉方より見たる第六號假橋脚施行中の狀況

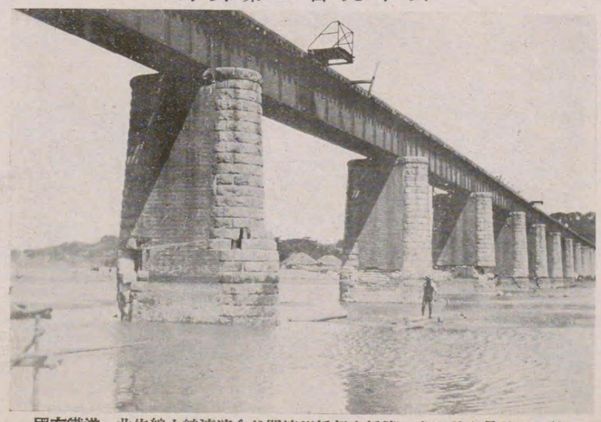
寫眞第二百九十二

國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間湊川橋梁千葉方川上より見たる第九號橋脚より江見方各橋脚の龜裂移動

寫眞第二百九十三

國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間湊川橋梁北條方川下よりた見る第十號橋脚より千葉方各橋脚の龜裂移動

寫眞第二百九十四

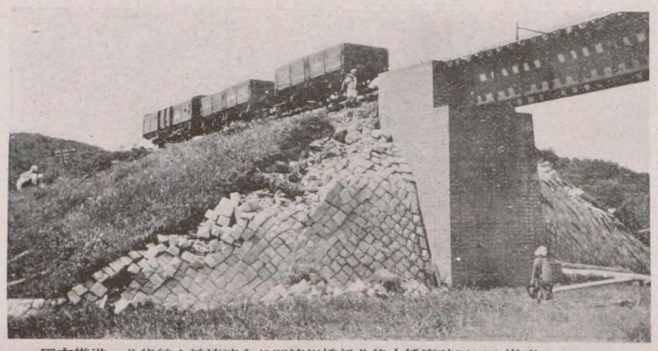


國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間湊川橋梁各橋脚の龜裂移動最前端は第十三號橋脚（北條方川上より望む）

寫眞第二百九十五

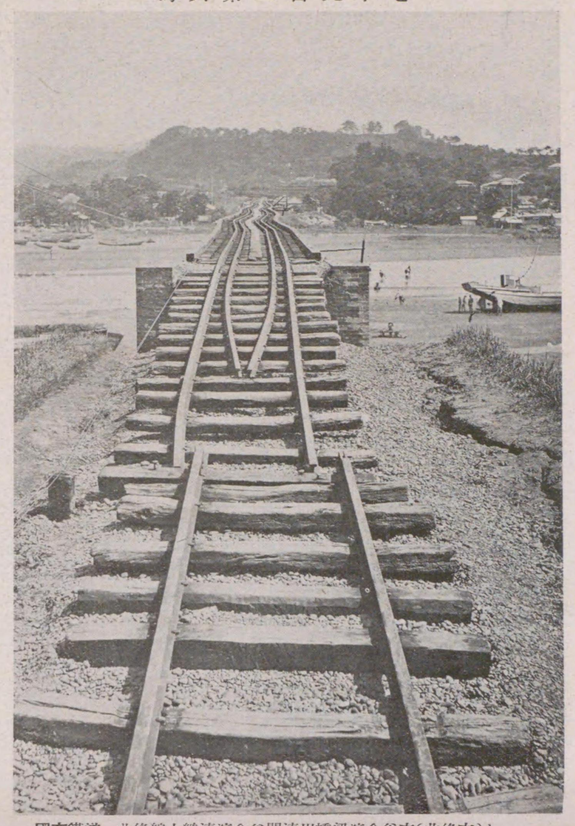
國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間湊川橋梁第十六號橋脚の大龜裂移動（千葉方より望む）

寫眞第二百九十六



國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間湊川橋梁北條方橋臺軸石垣の崩壞

寫眞第二百九十七



國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間湊川橋梁濱金谷方（北條方）より見たる橋梁上軌道の蛇行及び橋臺裏築堤の沈下

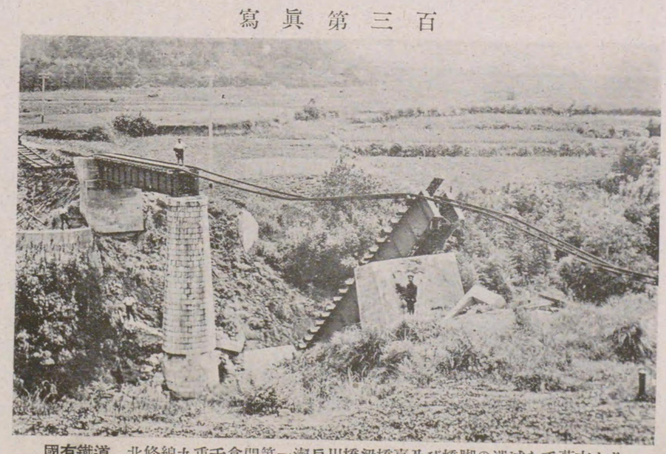
寫眞第二百九十八

國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間湊川橋梁第十一號橋脚の應急工事假支保工（北條方川上より望む）

寫眞第二百九十九

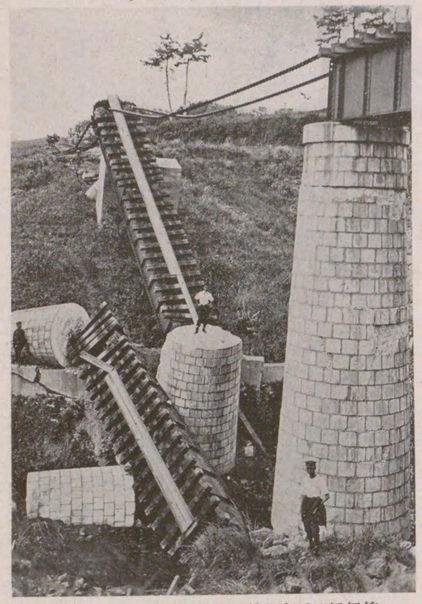
國有鐵道　北條線上總湊濱金谷間湊川橋梁第十三號橋脚の應急工事假支保工

寫眞第三百



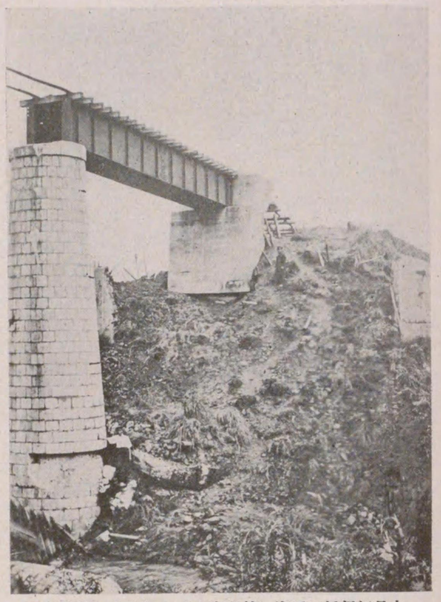
國有鐵道　北條線九重千倉間第一瀨戸川橋梁橋臺及び橋脚の潰滅を千葉方より望む

寫眞第三百一



國有鐵道　北條線九重千倉間第一瀬戸川橋梁第一號橋脚の切斷顚倒を江見方より望む

寫眞第三百二



國有鐵道　北條線九重千倉間第一瀬戸川橋梁江見方橋臺及び第二號橋脚の被害（千葉方より望む）

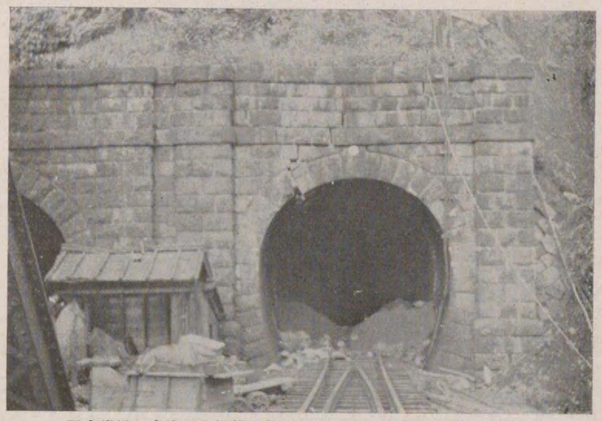
寫眞第三百三

國有鐵道　北條線九重千倉間第一瀬戸川橋梁江見方橋臺裏築堤の沈下を線路左側より望む

寫眞第三百四

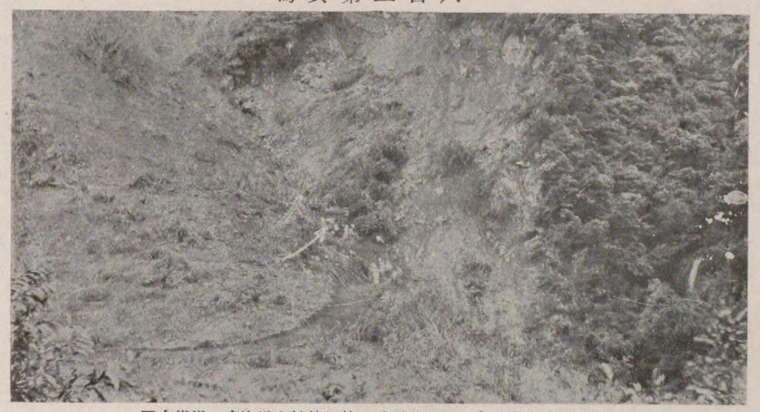
國有鐵道　北條線九重千倉間第一瀬戸川橋梁應急工事（線路右側より望む）

寫眞第三百五



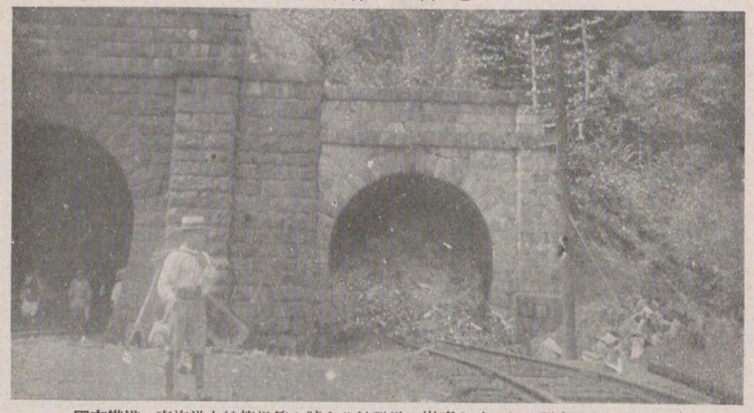
國有鐵道　東海道本線箱根第三號隧道上り線東京方坑門の被害

寫眞第三百六



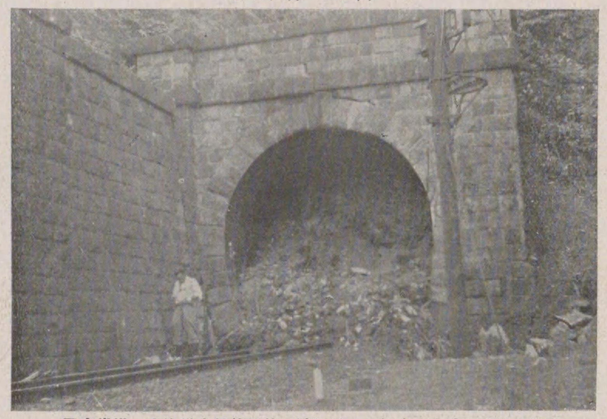
國有鐵道　東海道本線箱根第四號隧道下り線東京方坑門の埋沒

寫眞第三百七



國有鐵道　東海道本線箱根第七號上り線隧道の崩壞土砂のため閉塞せられたる狀況（東京方坑門より望む）

寫眞第三百八

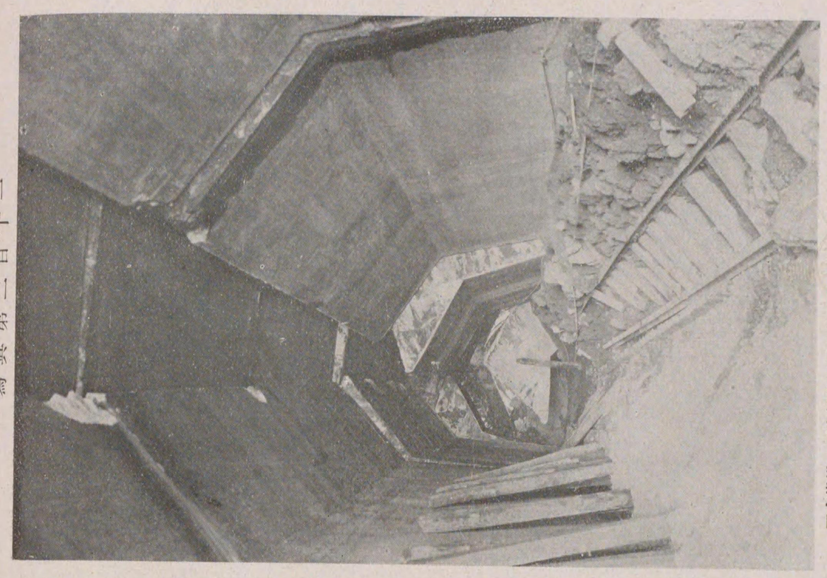


國有鐵道　東海道本線箱根第七號隧道上り線東京方坑門附近の被害

寫眞第三百九

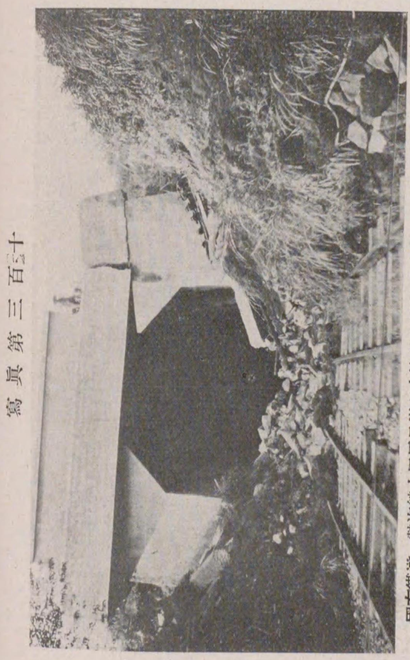
國有鐵道　東海道本線箱根第七號隧道沼津方坑門附近の山崩

寫眞第三百十一



國有鐵道　熱海線小田原早川間小峰隧道東津方坑門より坑內を望む

寫眞第三百十

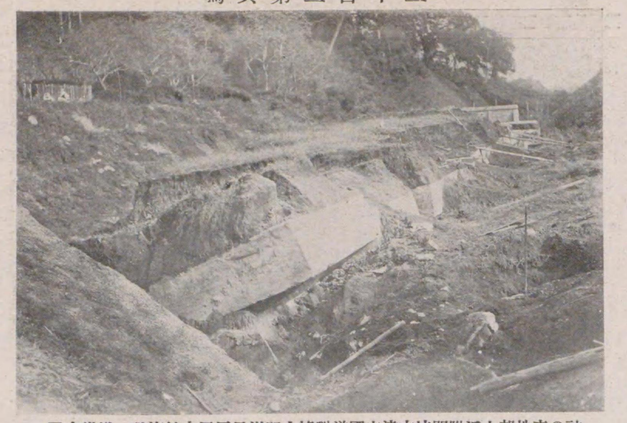


國有鐵道　熱海線小田原早川間小峰隧道（國府津起點 4哩 25 鎖 80 節）國府津方坑門の破壞

寫眞第三百十二

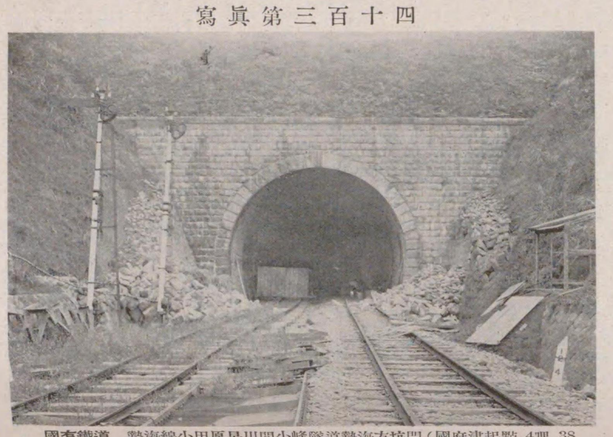
國有鐵道　熱海線小田原早川間小峰隧道坑內より國府津方坑門附近の鐵筋混凝土蓋の傾斜を望む

寫眞第三百十三



國有鐵道　熱海線小田原早川間小峰隧道國府津方坑門附近上部地表の被害(國府津に向て撮影)傾斜せるは坑門鐵筋混凝土蓋なり

寫眞第三百十四



國有鐵道　熱海線小田原早川間小峰隧道熱海方坑門(國府津起點 4哩 38鎖 75 節)の無事なりしを示す

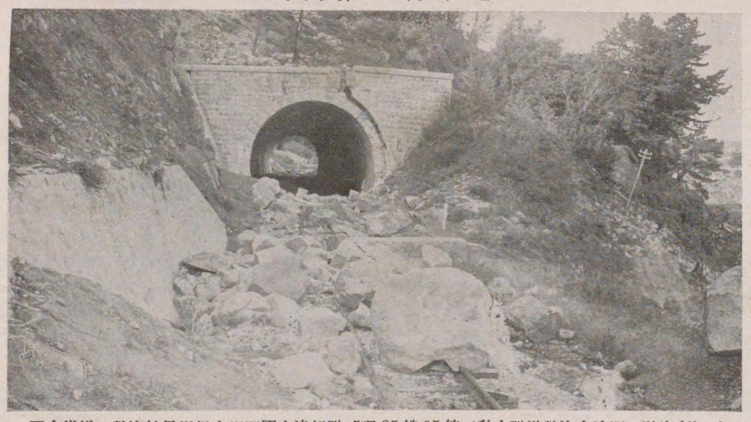
寫眞第三百十五

國有鐵道　熱海線小田原早川間小峰隧道(國府津起點 4哩 25鎖 80節)應急工事後の狀況(國府津方の一部分を切開きとなせるを示す)

寫眞第三百十六

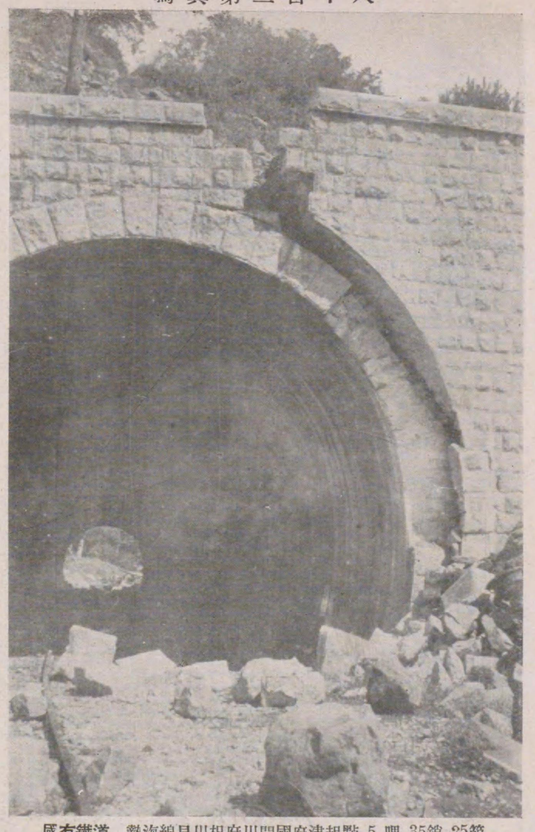
國有鐵道　熱海線早川根府川間國府津起點 5哩 35鎖 25節不動山隧道國府津方坑門の龜裂

寫眞第三百十七



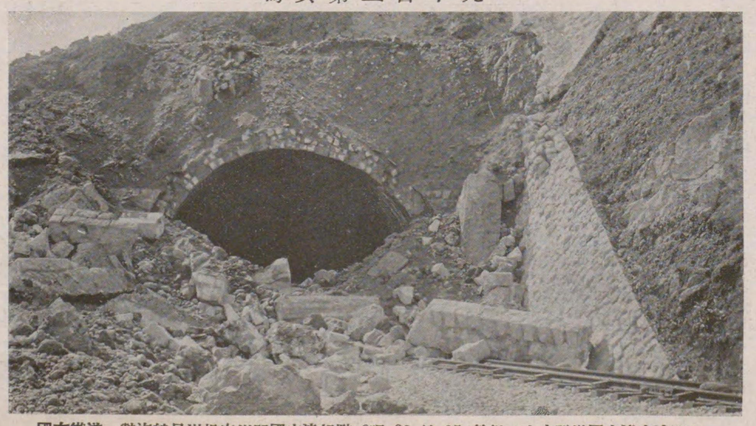
國有鐵道　熱海線早川根府川間國府津起點 5哩 35 鎖 25 節不動山隧道熱海方坑門の破害(其一)

寫眞第三百十八



國有鐵道　熱海線早川根府川間國府津起點 5 哩 35鎖 25節不動山隧道熱海方坑門の破害(其二)

寫眞第三百十九

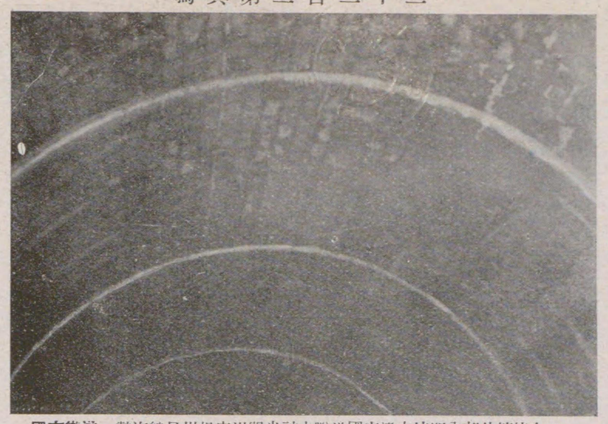


國有鐵道　熱海線早川根府川間國府津起點 6哩 32 鎖 25 節根ノ上山隧道國府津方坑門の崩壞

寫眞第三百二十

國有鐵道　熱海線早川根府川間國府津起點 6哩 32 鎖 25節根ノ上山隧道坑内拱の崩壊

寫眞第三百二十二

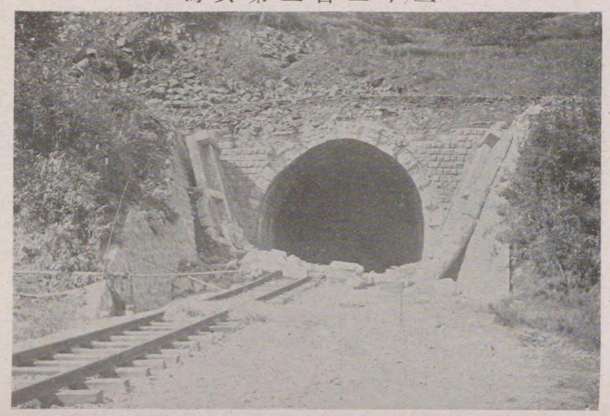


國有鐵道　熱海線早川根府川間来神山隧道國府津方坑門内部伸縮接合の開口を示す

寫眞第三百二十一

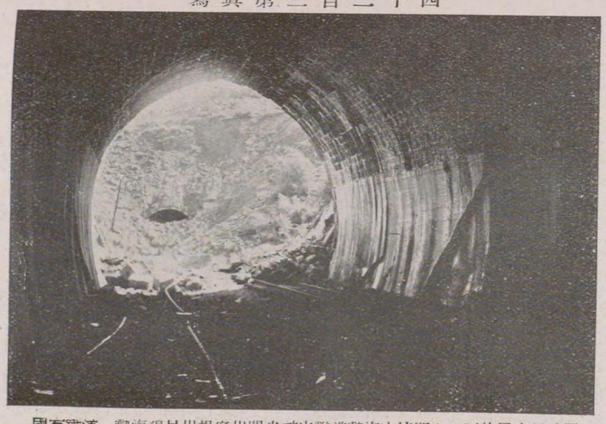
國有鐵道　熱海線國府津起點 6哩 55 鎖附近より来神山隧道國府津方坑門を望む

寫眞第三百二十三



國有鐵道　熱海線早川根府川間来神山隧道熱海方坑門（國府津起點 7 哩 4 鎖 35 節）の崩壊

寫眞第三百二十四



國有鐵道　熱海線早川根府川間来神山隧道熱海方坑門より下牧屋山隧道國府津方坑門を望む

寫眞第三百二十六（其一）

國有鐵道　熱海線早川根府川間國府津起點 7哩 20 鎖附近右方縣道より下牧屋山隧道熱海方坑門附近の山崩を望む

寫眞第三百二十五

國有鐵道　熱海線早川根府川間下牧屋山隧道國府津方坑門の崩壊

寫眞第三百二十六（其二）

國有鐵道　熱海線早川根府川間國府津起點 7哩 20 鎖附近右方縣道より下牧屋隧道熱海方坑門附近の山崩を望む

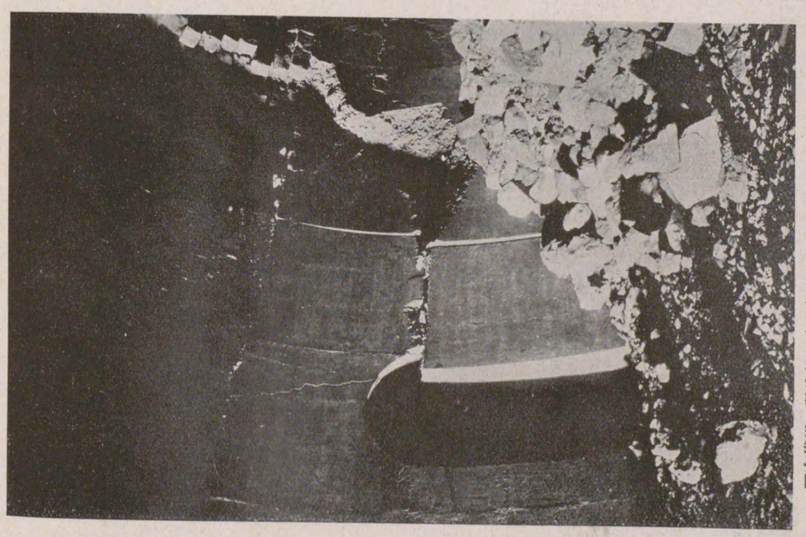
寫眞第三百二十一

國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點9哩55鎖0節長坂山隧道熱海方坑門より約300呎附近に於て壓落せし穹拱石積

寫眞第三百二十二

國有鐵道　中央本線鳥澤上野原間與瀬隧道南落部掘鑿工事の狀況（八王子方より望む）

寫眞第三百二十三

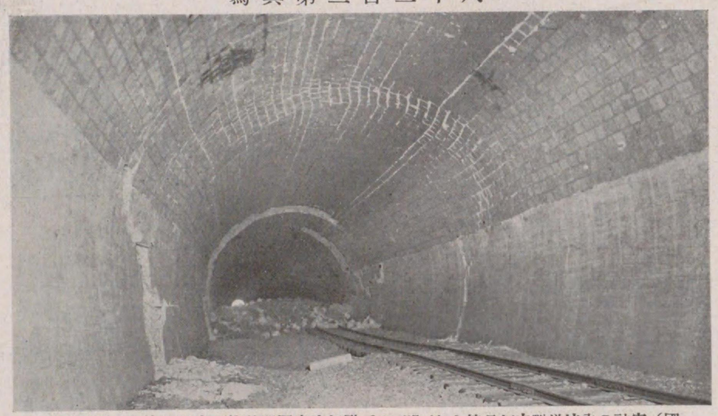


國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點9哩55鎖0節長坂山隧道熱海方坑門より約300呎に於ける右側（山側）加壁混凝土の龜裂

寫眞第三百二十七

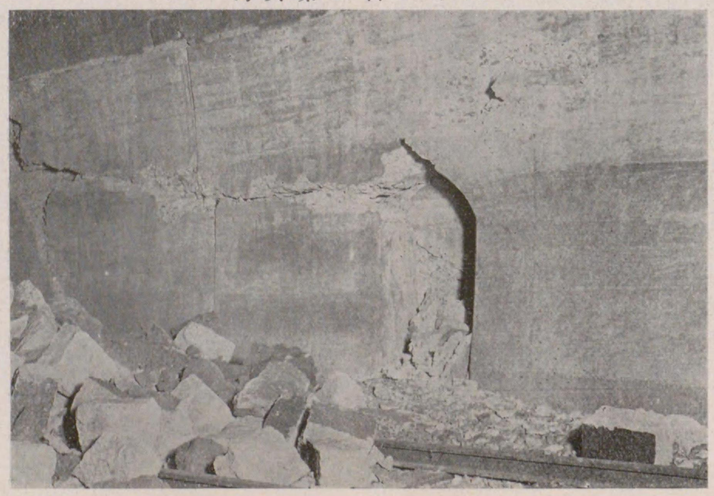
國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點9哩42鎖50節八本松隧道の埋沒せるを示す（熱海方に向て撮影）

寫眞第三百二十八



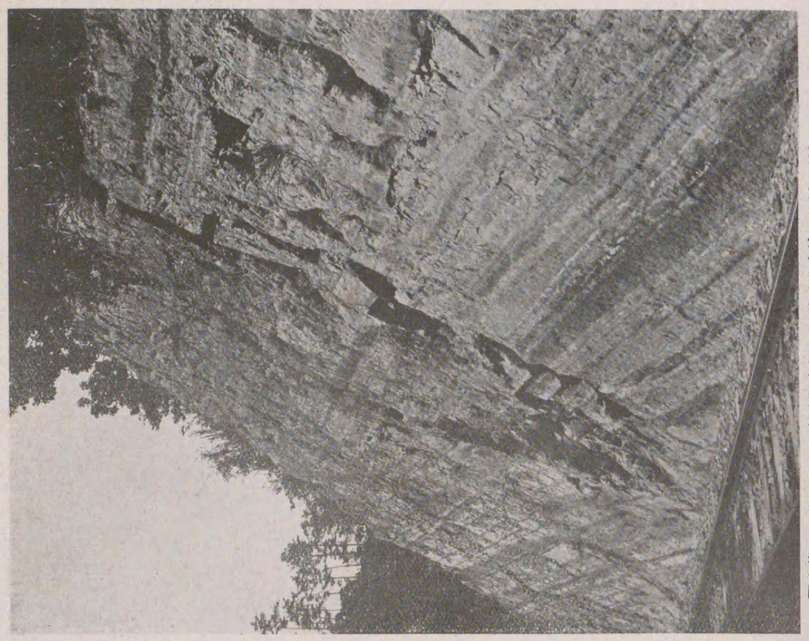
國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點9哩55鎖0節長坂山隧道坑内の被害（國府津方を望む）

寫眞第三百二十九



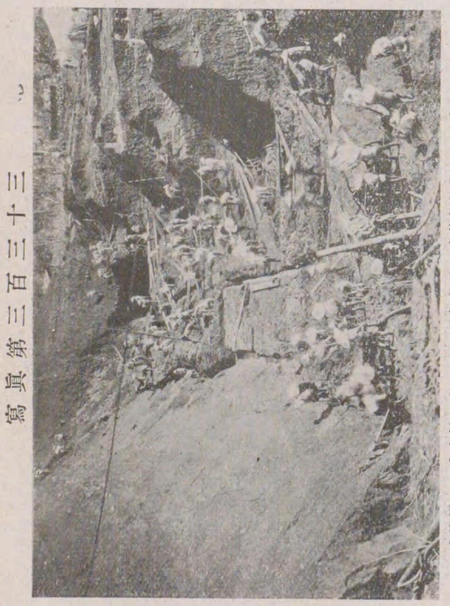
國有鐵道　熱海線根府川眞鶴間國府津起點9哩55鎖0節長坂山隧道熱海方坑門より約300呎に於ける左側（海側）側壁混凝土の龜裂

寫眞第三百三十五



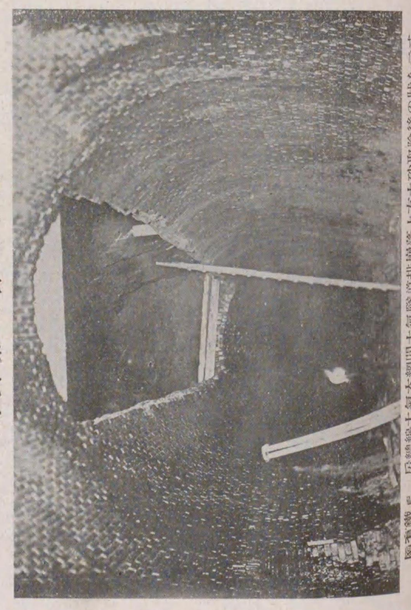
國有鐵道　北條線岩井富浦間南無谷隧道千葉方坑門附近の地層

寫眞第三百三十三



國有鐵道　中央本線奥川上野原間奥瀬隧道落部掘鑿工事の狀況（甲府方より望む）

寫眞第三百三十四



國有鐵道　北條線岩井富浦間南無谷隧道拱脚部上半土砂取除後の狀況を示す

寫眞第三百三十六

國有鐵道　北條線岩井富浦間南無谷隧道千葉方坑門の龜裂

寫眞第三百三十七

國有鐵道　北條線岩井富浦間南無谷隧道拱崩壞土砂の溢出

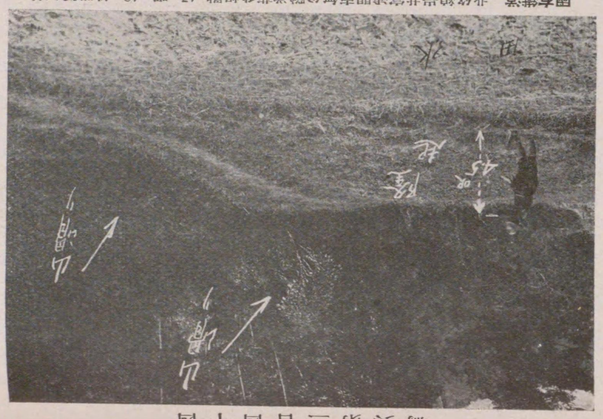
寫眞第三百三十八

國有鐵道　北條線岩井富浦間南無谷隧道拱及側壁の大龜裂

寫眞第三百四十二

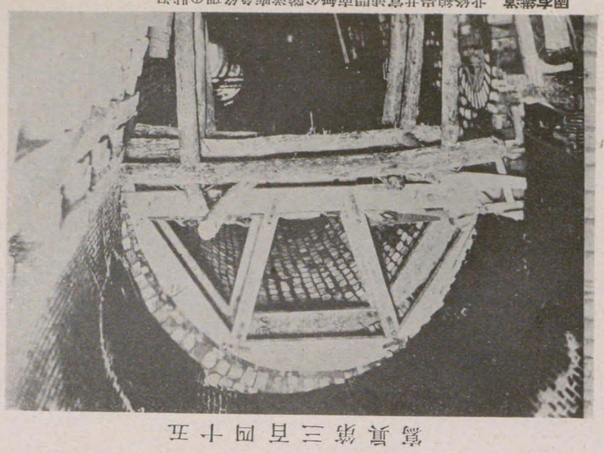
國有鐵道 北條線岩井富浦間青無谷隧道蔵衣側壁 47.哩44鎖 82 鉄砲式
隧道中心線ｌ部施表の階落箇所

寫眞第三百四十四



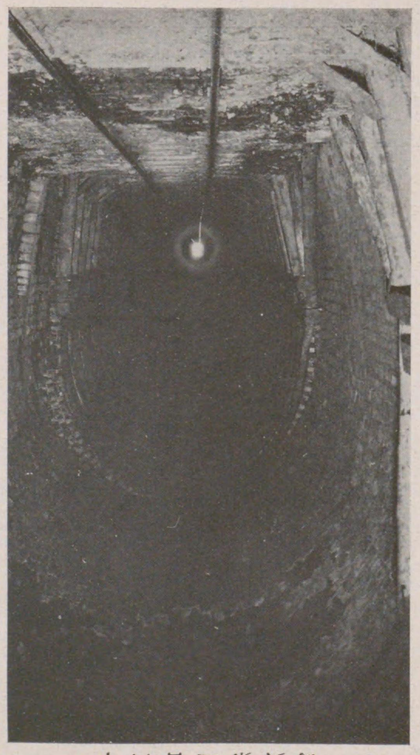
國有鐵道 北條線岩井富浦間青無谷隧道蔵衣側壁 47 哩 42 鎖砲近田地
の陥没（47 哩 44 鎖砲近の大規模大落出のため 田地陥没 4.5
尺に達す）

寫眞第三百四十五



國有鐵道 北條線岩井富浦間青無谷隧道蔵衣側壁 47 哩 44 鎖砲近の大
崩壊箇所（47 哩 40 鎖砲近より望む）

寫眞第三百四十一

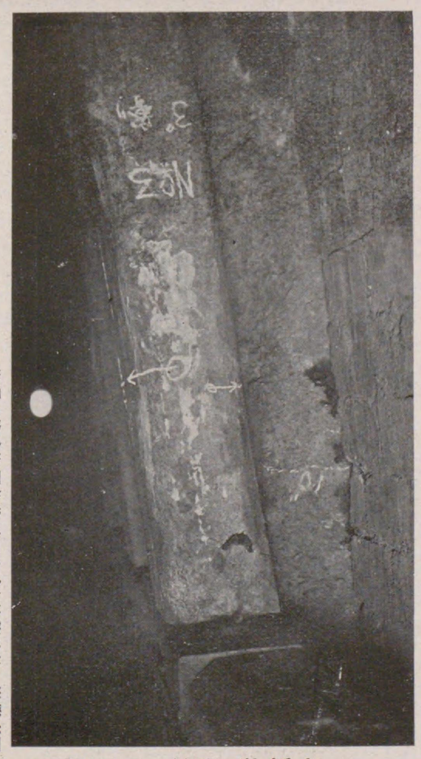


國有鐵道 北條線岩井富浦間青無谷隧道蔵衣の陽壁及び側壁の龜裂

寫眞第三百四十

國有鐵道 北條線岩井富浦間青無谷隧道北條方山側坑部の崩壊

寫眞第三百三十九



國有鐵道 北條線岩井富浦間青無谷隧道側壁の破壊

寫眞第三百四十六

國有鐵道　矢口發電所モンド瓦斯發生爐上に倒壞せる貯炭槽

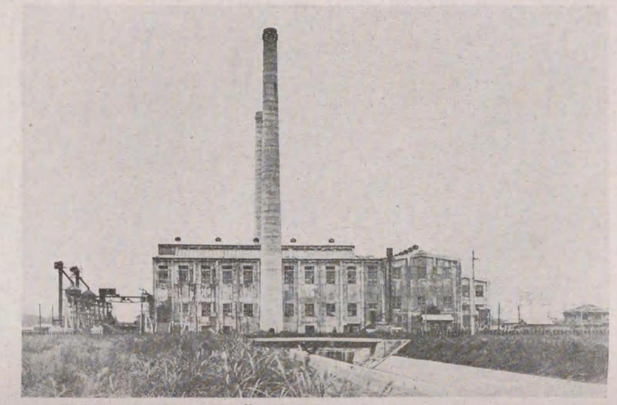
寫眞第三百四十七

國有鐵道　矢口發電所補助機用汽罐室上に倒壞せる煙突

寫眞第三百四十八

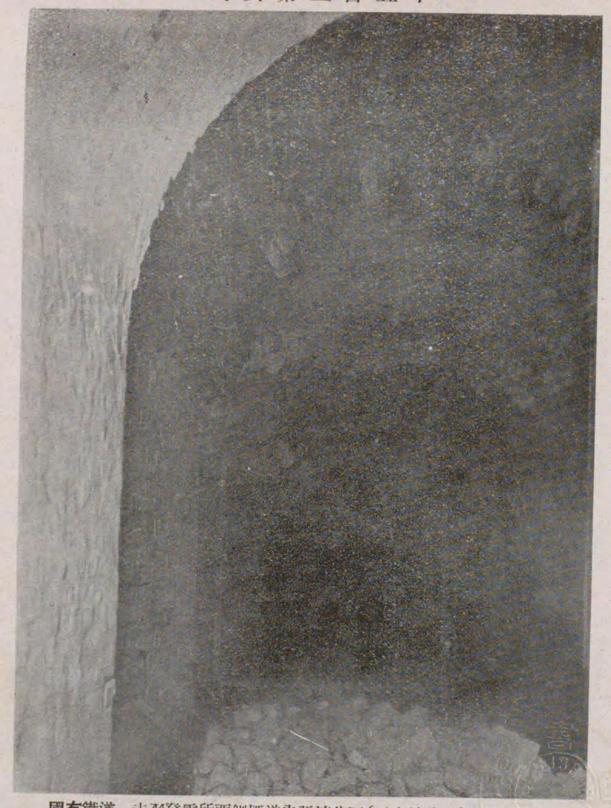
國有鐵道　矢口發電所硫酸アムモニヤ捿集室の破壞

寫眞第三百四十九



國有鐵道　赤羽發電所全景荒川方面より望む

寫眞第三百五十

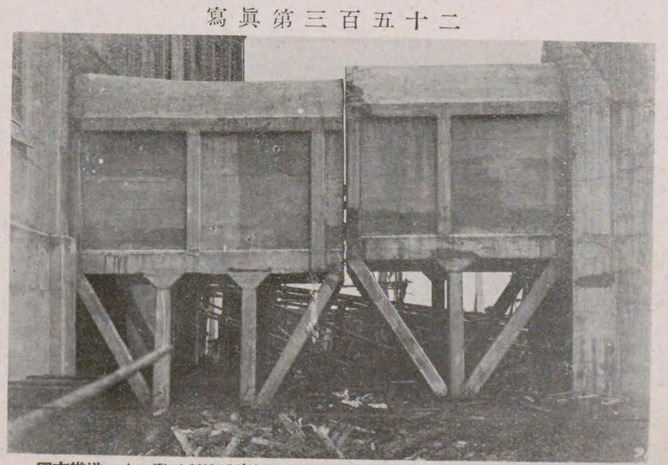


國有鐵道　赤羽發電所西側煙道內張煉化石(耐火煉化石)の脫落

寫眞第三百五十一

國有鐵道　赤羽發電所汽罐室側と東側煙突側との煙道喰違（赤羽方に向ひ撮影）

寫眞第三百五十二



國有鐵道　赤羽發電所汽罐室側と西側煙突側との煙道の喰違（赤羽方より望む）

寫眞第三百五十三

國有鐵道　赤羽發電所凝汽器の冷却用水路の損傷

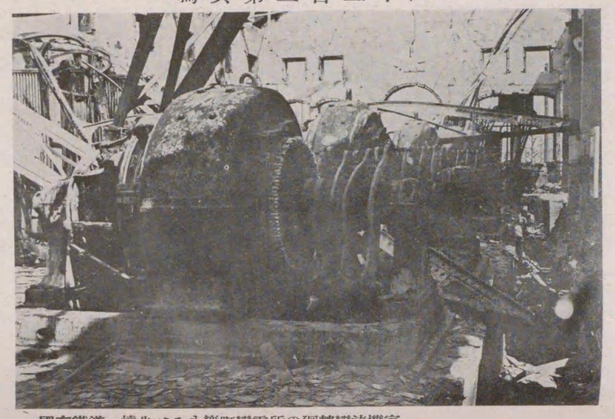
寫眞第三百五十四

國有鐵道　燒失せる永樂町變電所の外部

寫眞第三百五十五

國有鐵道　燒失せる永樂町變電所の內部

寫眞第三百五十六

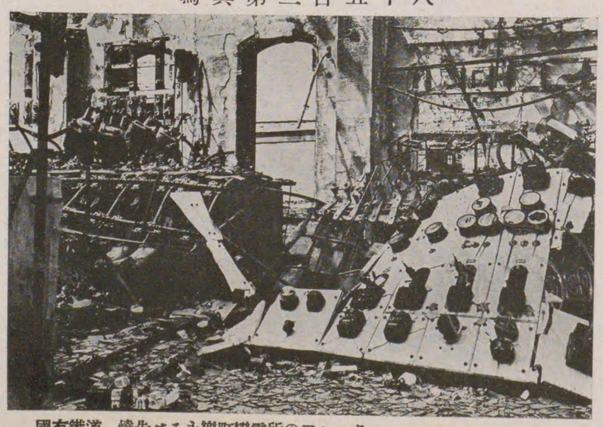


國有鐵道　燒失せる永樂町變電所の廻轉變流機室

寫眞第三百五十七

國有鐵道　燒失せる永樂町變電所の配電盤室

寫眞第三百五十八

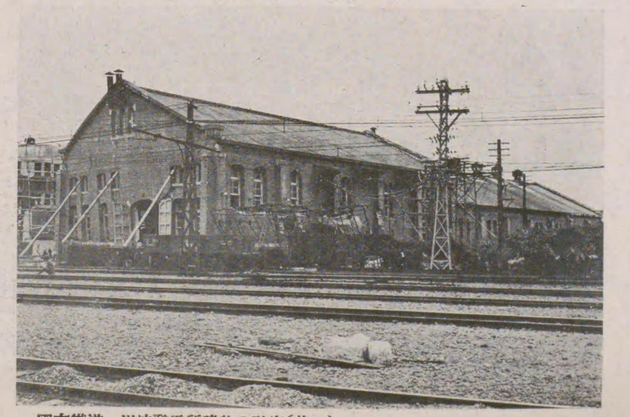


國有鐵道　燒失せる永樂町變電所のアレスター

寫眞第三百五十九

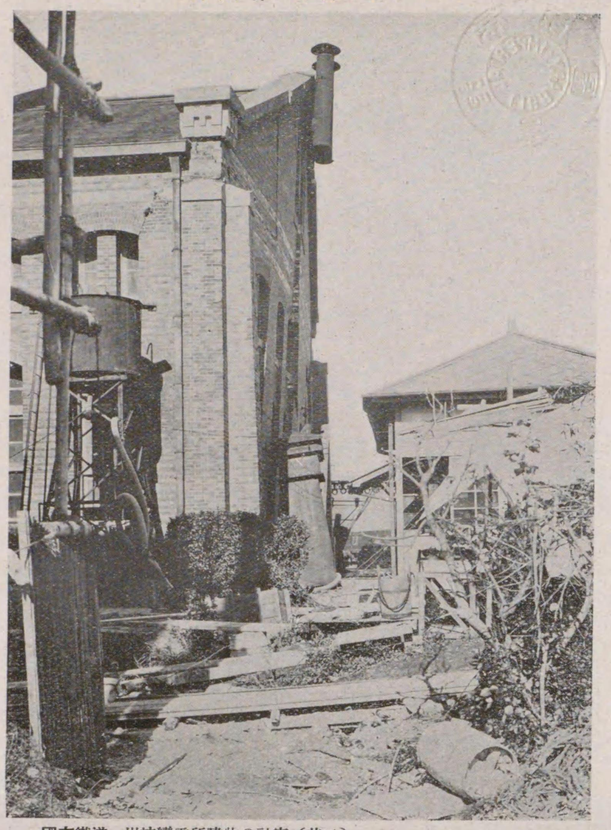
國有鐵道　燒失せる永樂町變電所の變壓器

寫眞第三百六十



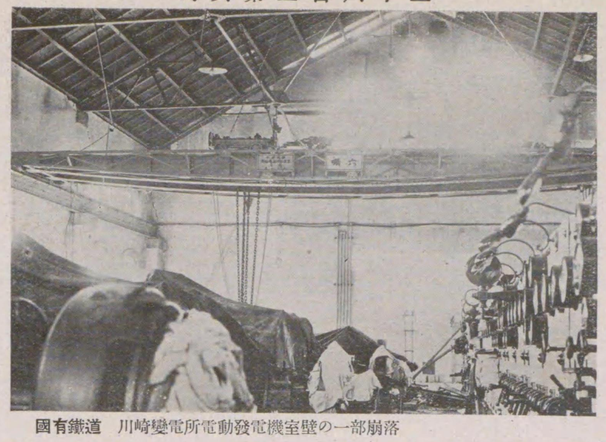
國有鐵道　川崎發電所建物の被害(其一)

寫眞第三百六十一



國有鐵道　川崎變電所建物の被害（其二）

寫眞第三百六十二

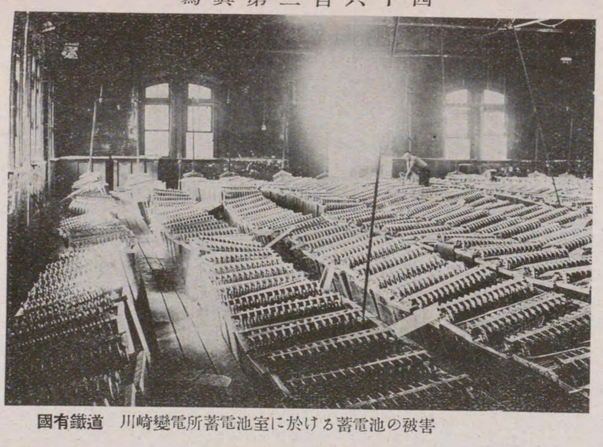


國有鐵道　川崎變電所電動發電機室壁の一部崩落

寫眞第三百六十三

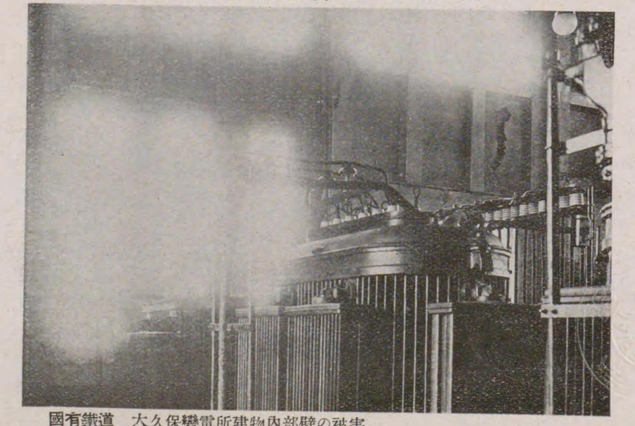
國有鐵道　川崎變電所屋外變壓器の傾斜（結構は變壓器に索かれて傾斜す）

寫眞第三百六十四



國有鐵道　川崎變電所蓄電池室に於ける蓄電池の被害

寫眞第三百六十五



國有鐵道　大久保變電所建物内部壁の被害

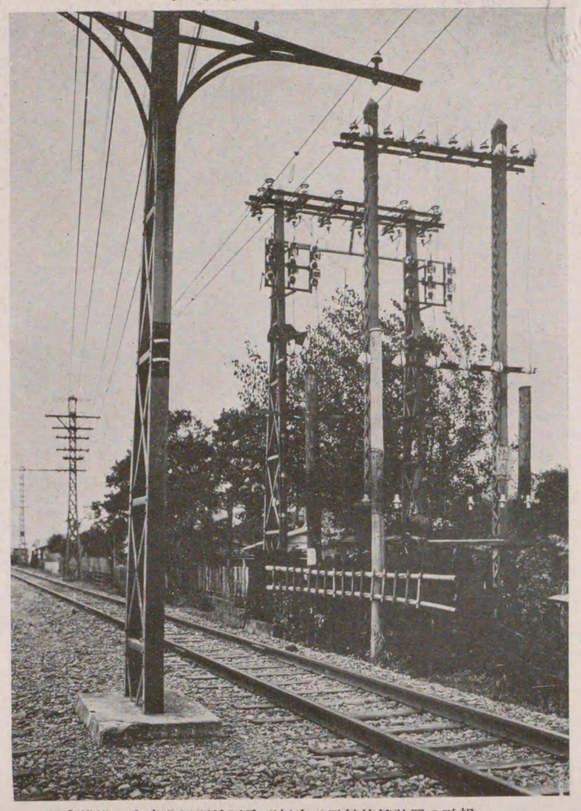
寫眞第三百六十六

國有鐵道　有樂町驛附近高架線上に於ける送電電纜の燒損

寫眞第三百六十七

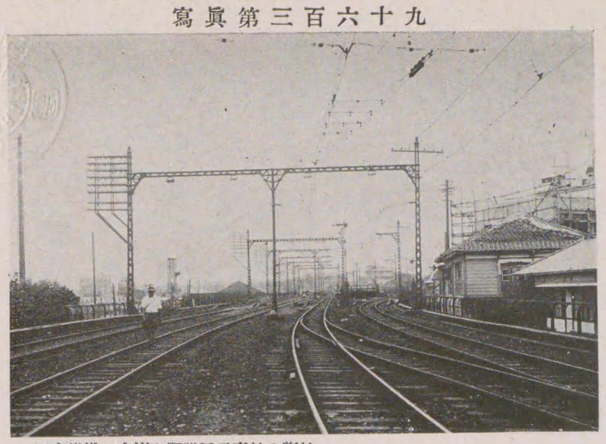
國有鐵道　有樂町新橋間高架線上に於ける送電電纜の燒損

寫眞第三百六十八



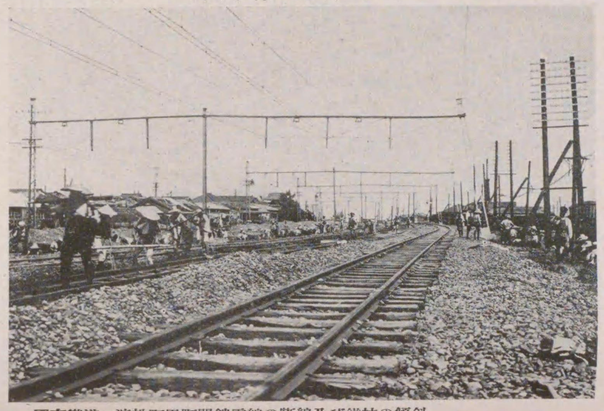
國有鐵道　大森蒲田間地下及び地上架空送電線接續裝置の破損

寫眞第三百六十九



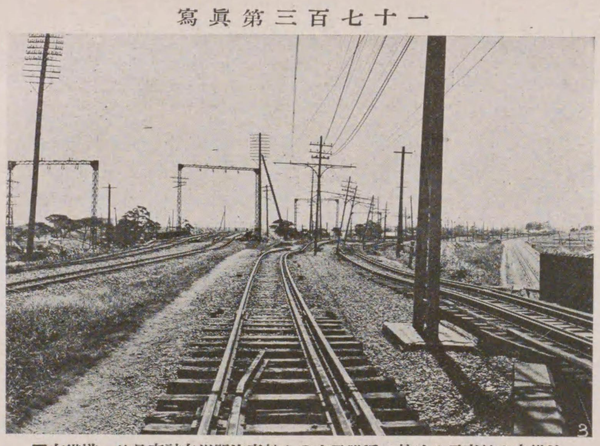
國有鐵道　有樂町驛附近電車線の斷線

寫眞第三百七十



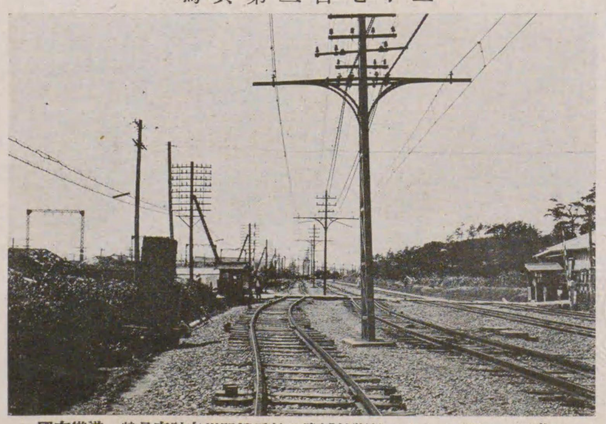
國有鐵道　濱松町田町間饋電線の斷線及び鐵柱の傾斜

寫眞第三百七十一



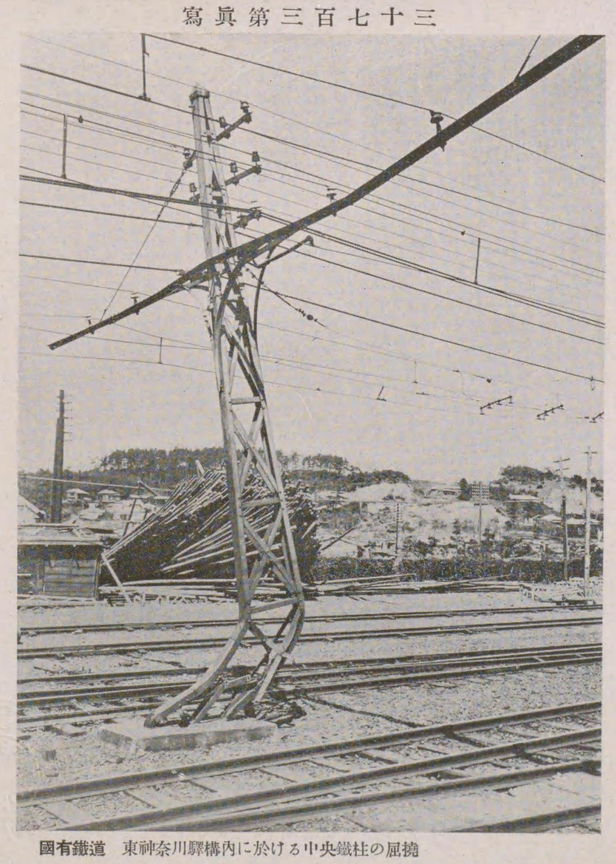
國有鐵道　鶴見東神奈川間汽車線との交叉附近に於ける電車線中央鐵柱の傾斜（横濱方面より望む）

寫眞第三百七十二



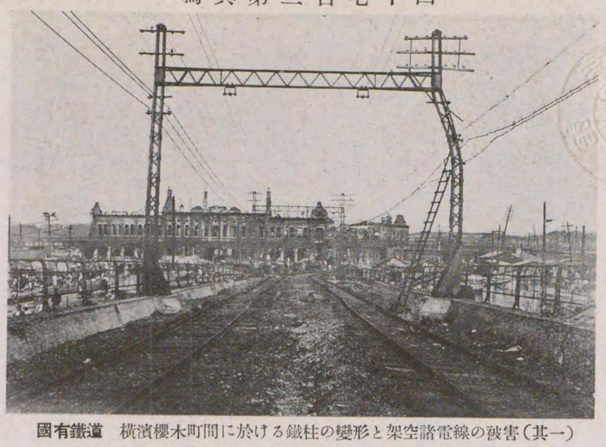
國有鐵道　鶴見東神奈川間饋電線の脚縛線斷線せるため碍子より脫落せる狀

寫眞第三百七十三



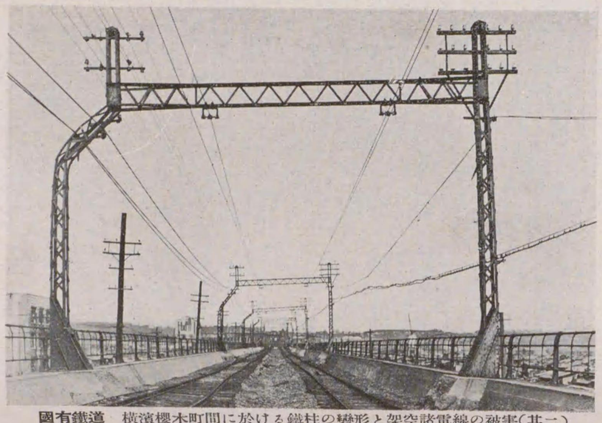
國有鐵道　東神奈川驛構內に於ける中央鐵柱の屈撓

寫眞第三百七十四



國有鐵道　横濱櫻木町間に於ける鐵柱の變形と架空諸電線の被害（其一）

寫眞第三百七十五

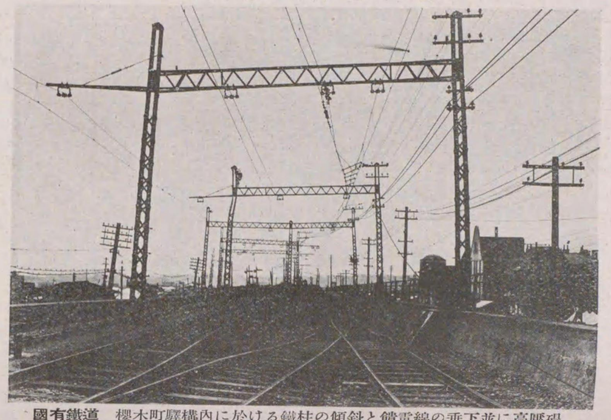


國有鐵道　横濱櫻木町間に於ける鐵柱の變形と架空諸電線の被害（其二）

寫眞第三百七十六

國有鐵道　横濱櫻木町間に於ける鐵柱の變形と架空諸電線の被害（其三）

寫眞第三百七十七



國有鐵道　櫻木町驛構内に於ける鐵柱の傾斜と饋電線の垂下並に高壓碍子の破壞（前方に見ゆるは燒失電車の殘骸）

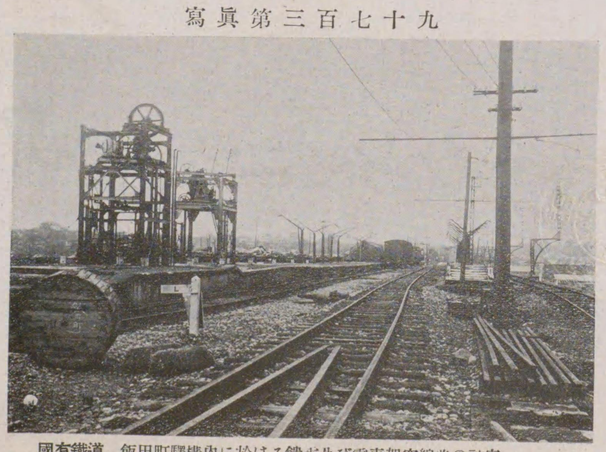
寫眞第三百七十八

國有鐵道　御茶ノ水水道橋間に於ける電車架空線路の燒失

寫眞第三百八十

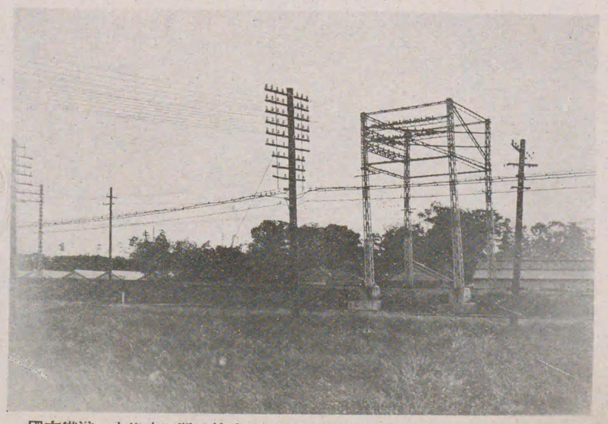
國有鐵道　十條赤羽間に於ける鐵柱の傾斜並饋電線の垂下

寫眞第三百七十九



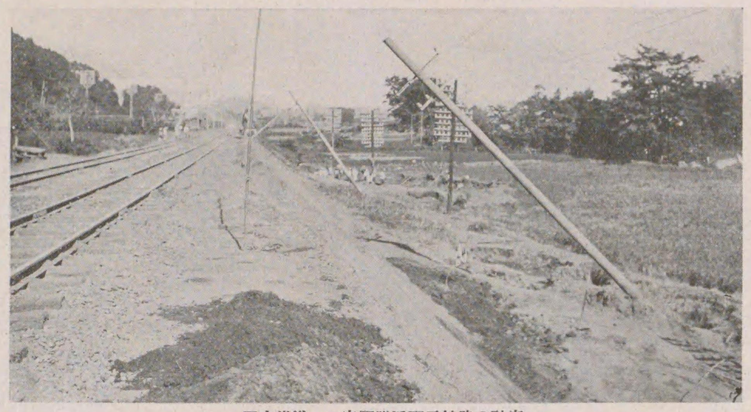
國有鐵道　飯田町驛構内に於ける饋電線及び電車架空線路の被害

寫眞第三百八十一



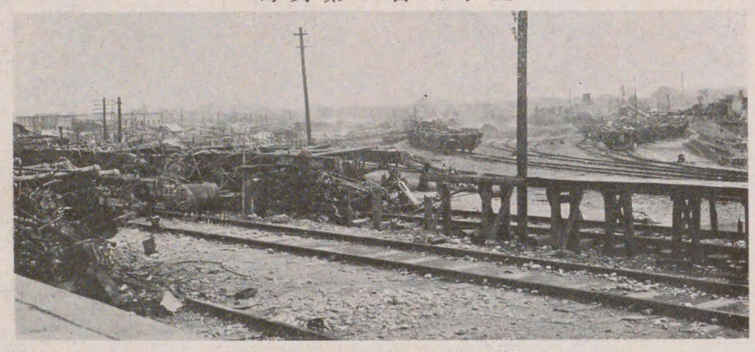
國有鐵道　十條赤羽間に於ける四脚巖構の傾斜

寫眞第三百八十二



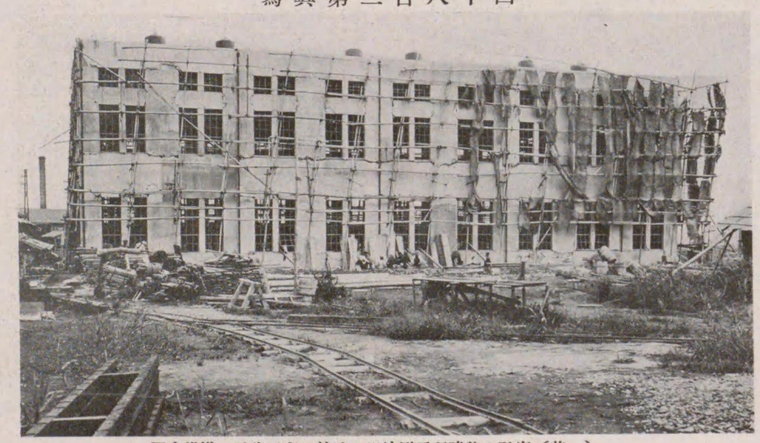
國有鐵道　二宮驛附近配電線路の被害

寫眞第三百八十三



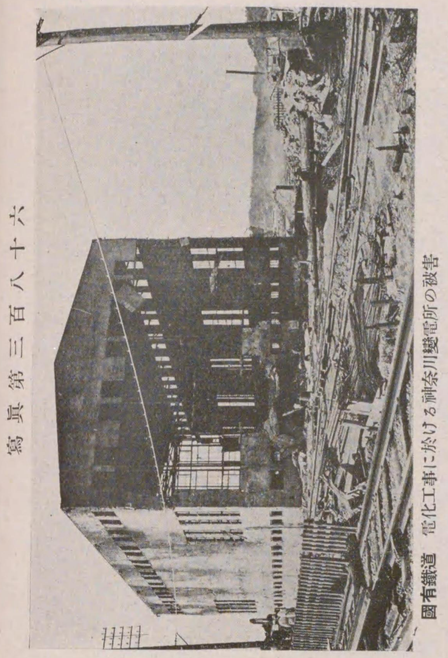
國有鐵道　飯田町驛構內配電線路の燒失

寫眞第三百八十四



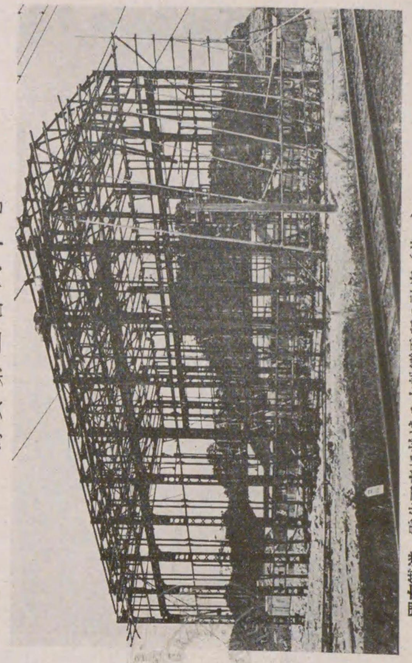
國有鐵道　電化工事に於ける川崎變電所建物の被害（其一）

寫眞第三百八十六



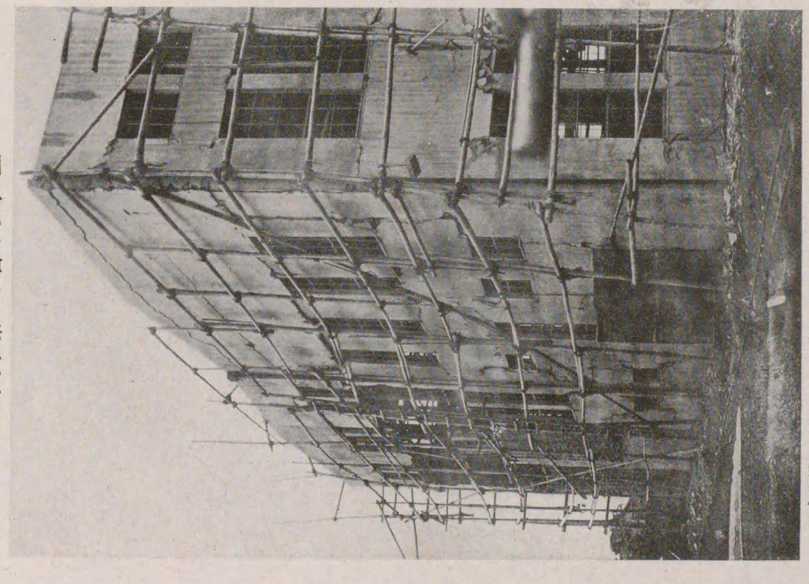
國有鐵道　電化工事に於ける神奈川變電所の被害

寫眞第三百八十七



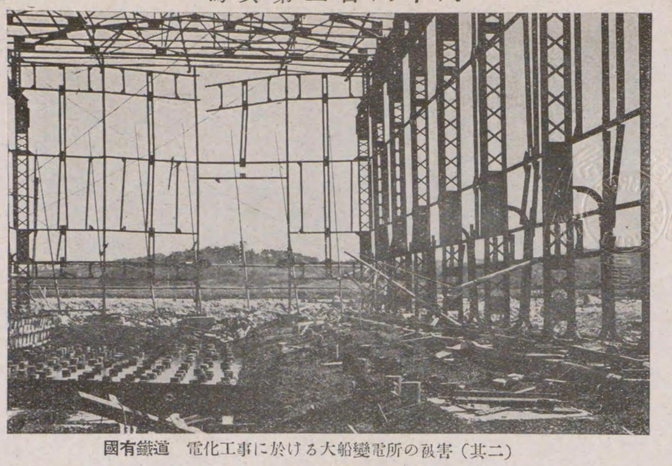
國有鐵道　電化工事に於ける大船變電所の被害（其一）

寫眞第三百八十五



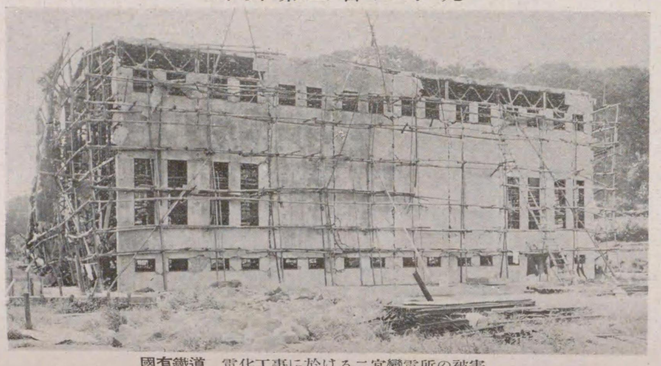
國有鐵道　電化工事に於ける川崎變電所の建物（其二）

寫眞第三百八十八



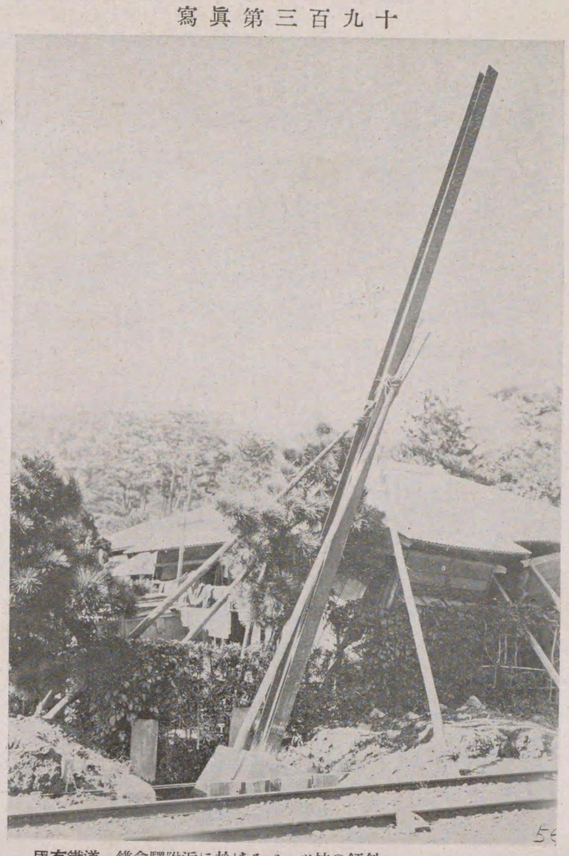
國有鐵道　電化工事に於ける大船變電所の被害（其二）

寫眞第三百八十九



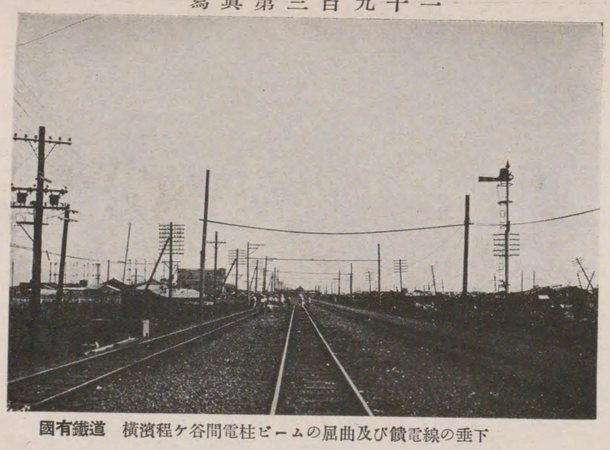
國有鐵道　電化工事に於ける二宮變電所の被害

寫眞第三百九十



國有鐵道　鎌倉驛附近に於けるペーツ柱の傾斜

寫眞第三百九十一

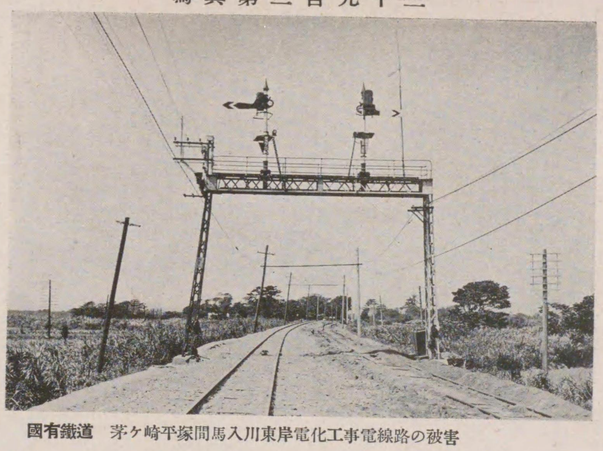


國有鐵道　横濱程ケ谷間電柱柱ビームの屈曲及饋電線の垂下

寫眞第三百九十二

國有鐵道　横濱程ケ谷間電柱の沈下と送電々線の碍子よりの脱出（ステーの弛緩せるを見よ）

寫眞第三百九十三

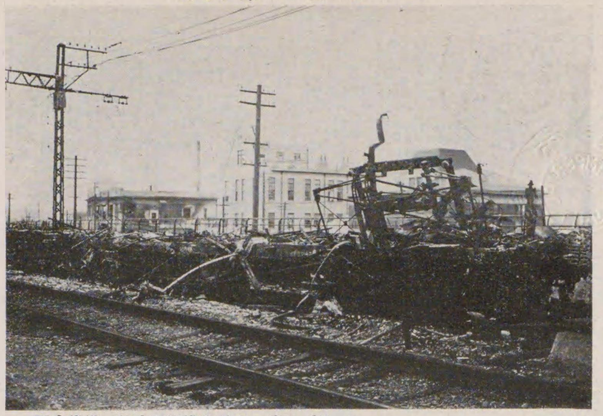


國有鐵道　茅ケ崎平塚間馬入川東岸電化工事電線路の被害

寫眞第三百九十四

國有鐵道　辻堂驛構内電化工事電線路の被害

寫眞第三百九十五

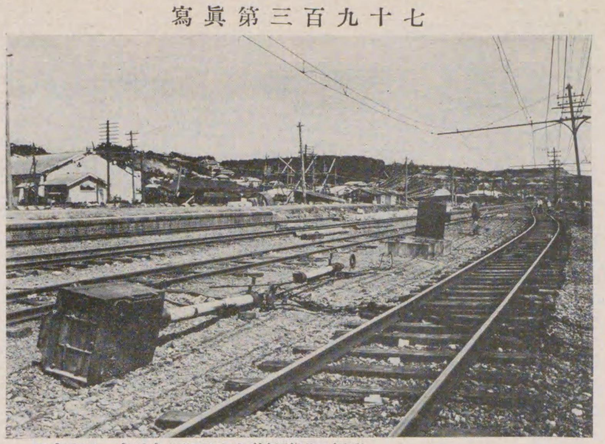


國有鐵道　櫻木町驛構內電車の燒失（其一）

寫眞第三百九十六

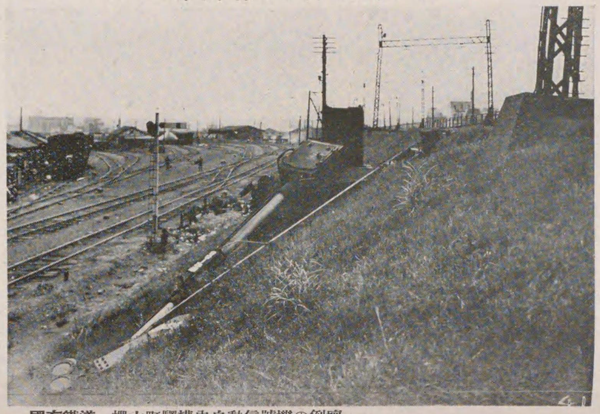
國有鐵道　櫻木町驛構內電車の燒失（其二）

寫眞第三百九十七



國有鐵道　東神奈川驛構內自動信號機の倒壞

寫眞第三百九十八

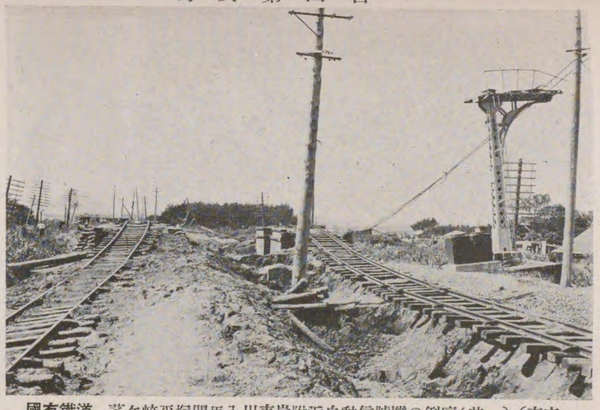


國有鐵道　櫻木町驛構內自動信號機の倒壞

寫眞第三百九十九

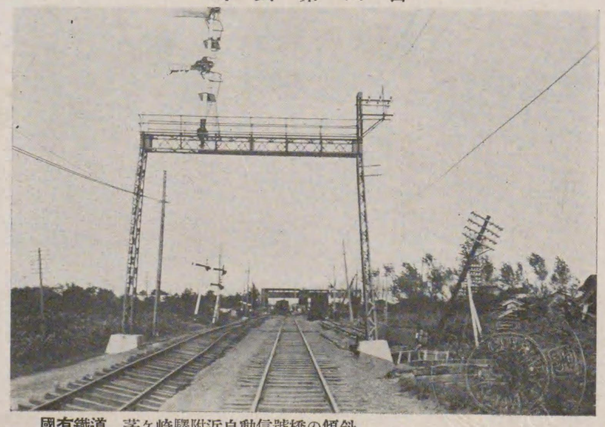
國有鐵道　程ヶ谷戸塚間自動信號機の倒壞

寫眞第四百一



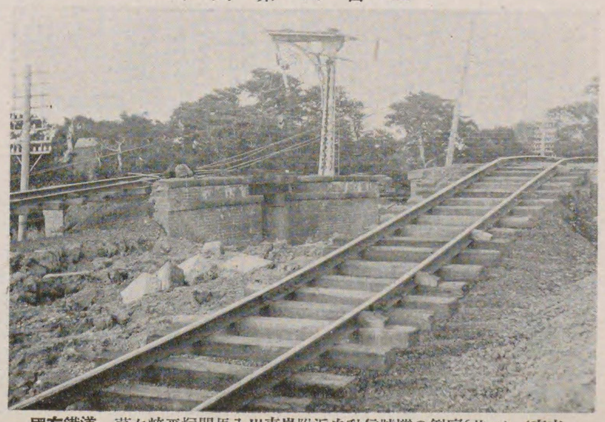
國有鐵道　茅ヶ崎平塚間馬入川東岸附近自動信號機の倒壞（其一）（東京方より撮影）

寫眞第四百



國有鐵道　茅ヶ崎驛附近自動信號橋の傾斜

寫眞第四百二

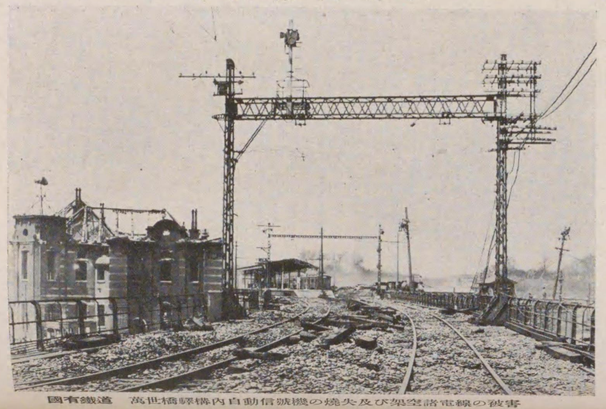


國有鐵道　茅ヶ崎平塚間馬入川東岸附近自動信號機の倒壞（其二）（東京方に向て撮影）

寫眞第四百三

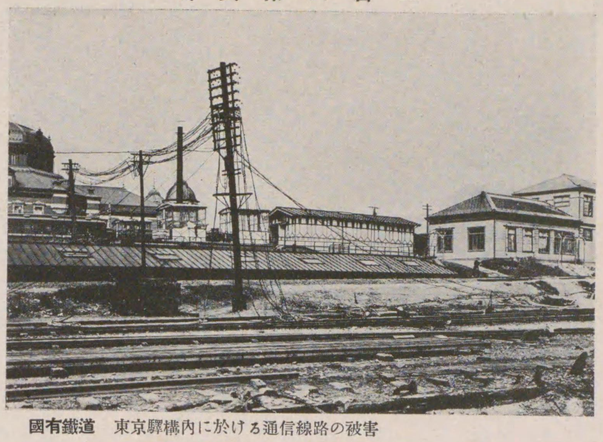
國有鐵道　神田驛構內自動信號機の燒失及び架空諸電線の被害

寫眞第四百四



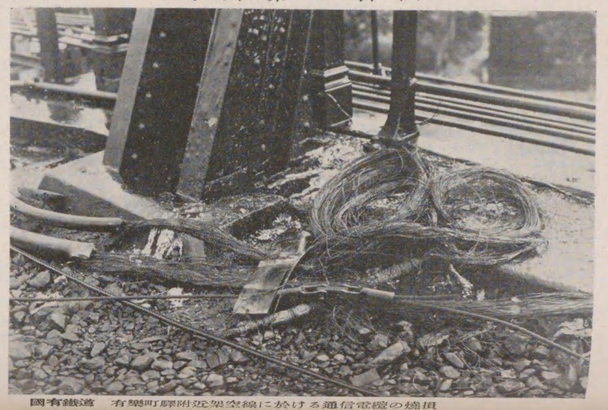
國有鐵道　萬世橋驛構內自動信號機の燒失及び架空諸電線の被害

寫眞第四百五



國有鐵道　東京驛構內に於ける通信線路の被害

寫眞第四百六



國有鐵道　有樂町驛附近架空線に於ける通信電線の燒損

寫眞第四百七

國有鐵道　横濱程ヶ谷間に於ける通信木柱の傾斜

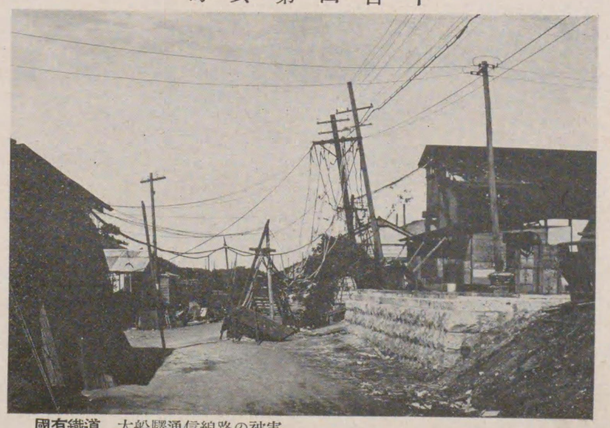
寫眞第四百八

國有鐵道　横濱程ヶ谷間に於ける通信電纜の墜落

寫眞第四百九

國有鐵道　程ヶ谷驛構內に於ける通信電纜の經絡

寫眞第四百十



國有鐵道　大船驛通信線路の被害

寫眞第四百十一

國有鐵道　鎌倉驛附近に於ける通信柱の傾斜

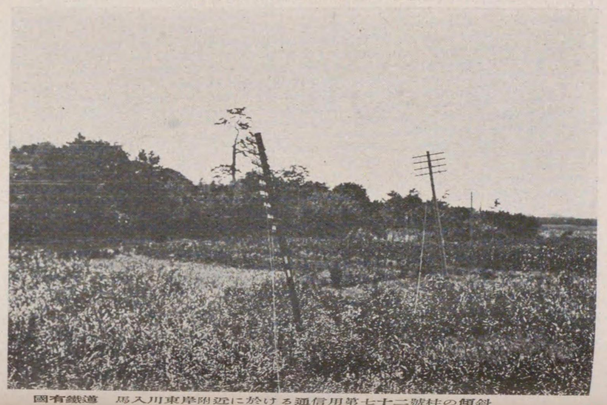
寫眞第四百十二

國有鐵道　寄タ崎驛附近に於ける通信柱の傾斜

寫眞第四百十三

國有鐵道　鳥井戸川馬入川間に於ける通信柱の傾斜

寫眞第四百十四

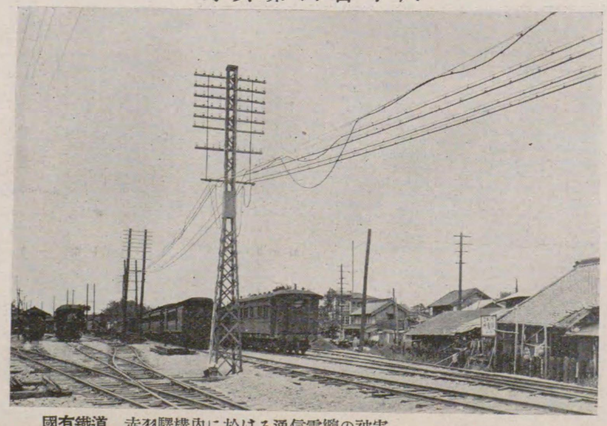


國有鐵道　馬入川東岸附近に於ける通信用第七十七號柱の傾斜

寫眞第四百十五

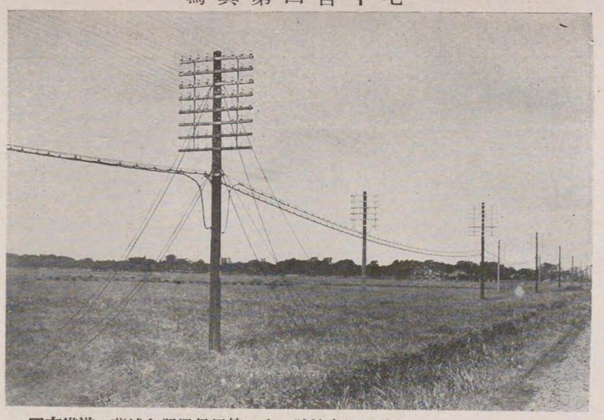
國有鐵道　上野鷲谷間第二十二號柱附近通信線路の被害

寫眞第四百十六



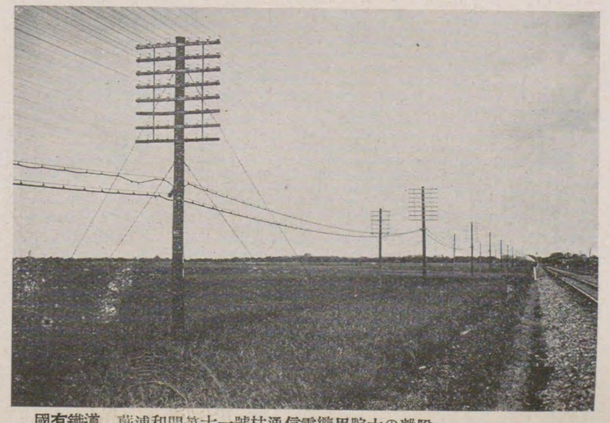
國有鐵道　赤羽驛構内に於ける通信電纜の被害

寫眞第四百十七



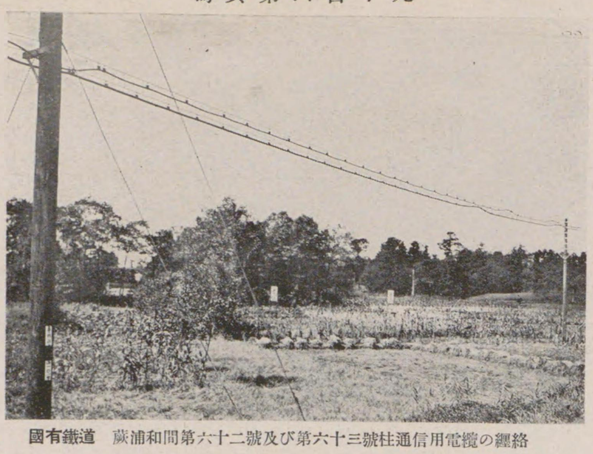
國有鐵道　蘇浦和間通信用第三十八號柱支線の弛緩

寫眞第四百十八



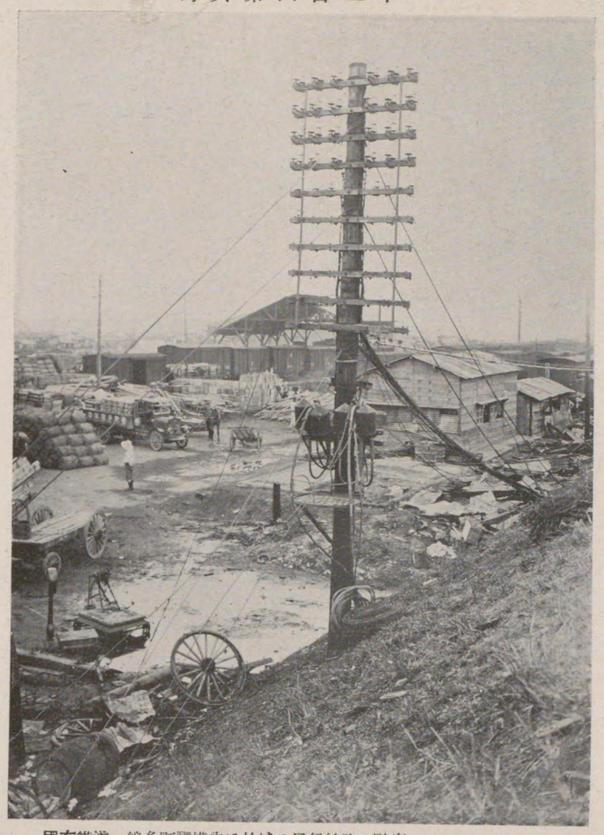
國有鐵道　蘇浦和間第十一號柱通信電纜用腕木の離脫

寫眞第四百十九



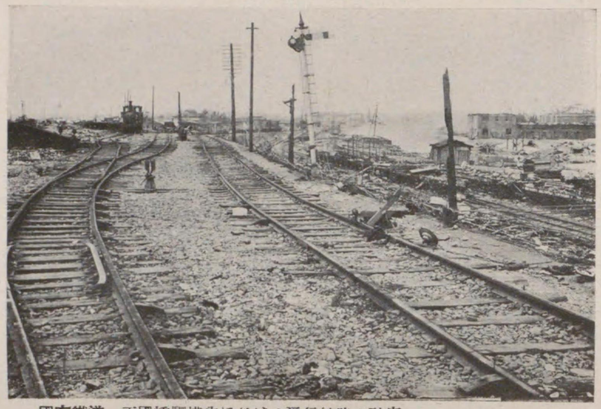
國有鐵道　蕨浦和間第六十二號及第三十六號柱通信用電纜の纜絡

寫眞第四百十一



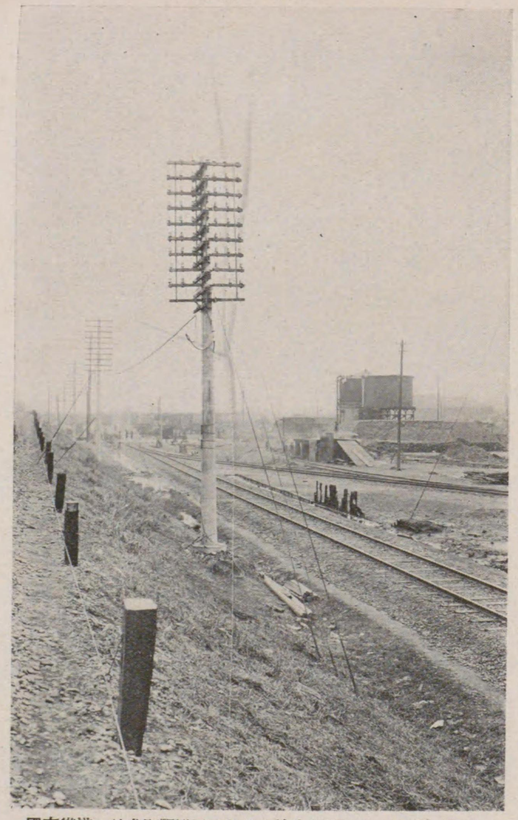
國有鐵道　錦糸町驛構內に於ける通信線路の被害

寫眞第四百十二



國有鐵道　兩國橋驛構內に於ける通信線路の被害

寫眞第四百二十二

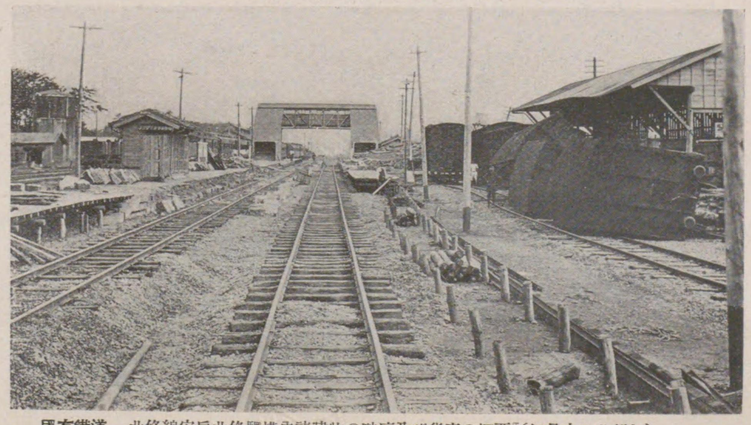


國有鐵道　錦糸町驛附近に於ける燒失を免れたる混凝土通信柱電線路

寫眞第四百二十三

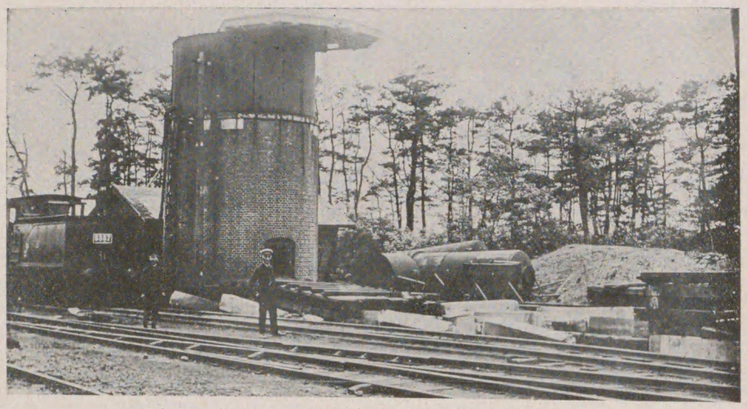
國有鐵道　北條線安房北條驛本屋其他構內諸建物の倒壞（江見方より望む）

寫眞第四百二十四



國有鐵道　北條線安房北條驛構內諸建物の破壞及び貨車の顚覆（江見方より望む）

寫眞第四百二十五

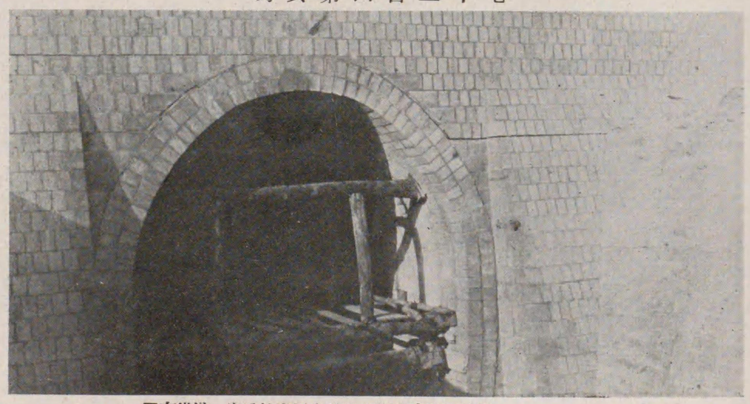


國有鐵道　北條線安房北條驛給水槽蓋の移動（千葉方より望む）

寫眞第四百二十六

國有鐵道　北條線安房北條驛機關車庫の傾斜並に機關車の顚覆

寫眞第四百二十七

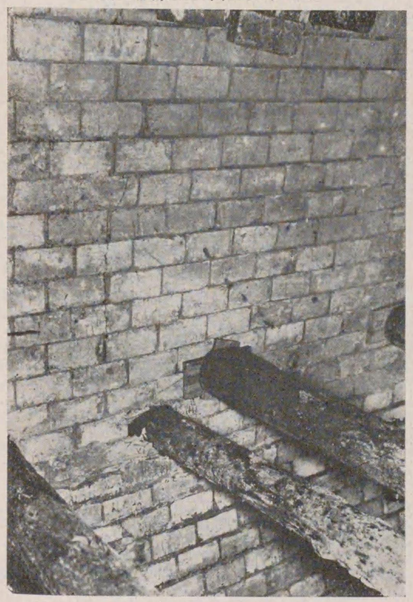


國有鐵道　安房線嶺岡山隧道北條方坑門の龜裂

寫眞第四百二十九

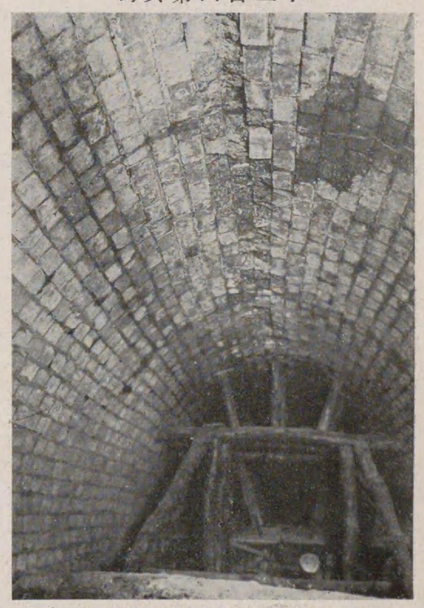
國有鐵道　安房線嶺岡山隧道蘇我起點 72 哩 58 鎖附近に於ける穹拱の被害

寫眞第四百二十八



國有鐵道　安房線嶺岡山隧道蘇我起點 72 哩 58 鎖附近に於ける側壁の被害（支保工が側壁に喰ひ込める有樣を示す）

寫眞第四百三十

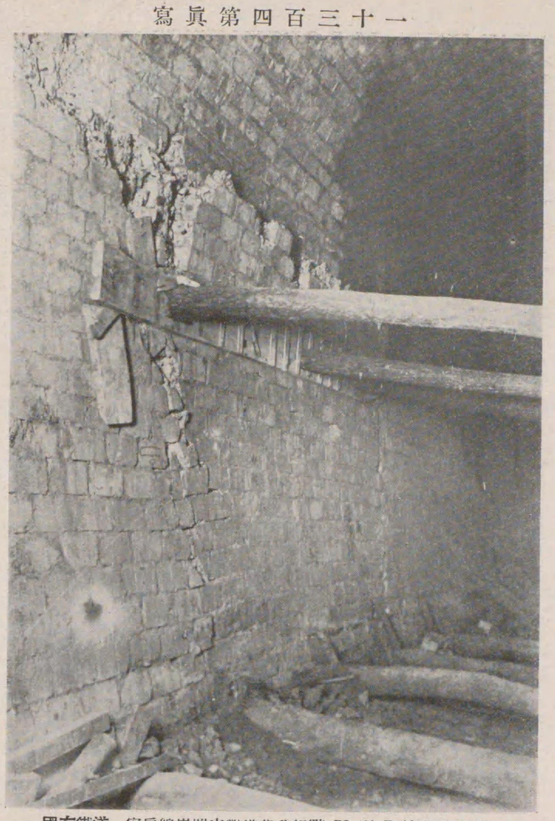


國有鐵道　安房線嶺岡山隧道蘇我起點 72 哩 58 鎖附近に於ける穹拱の被害

寫眞第四百三十二

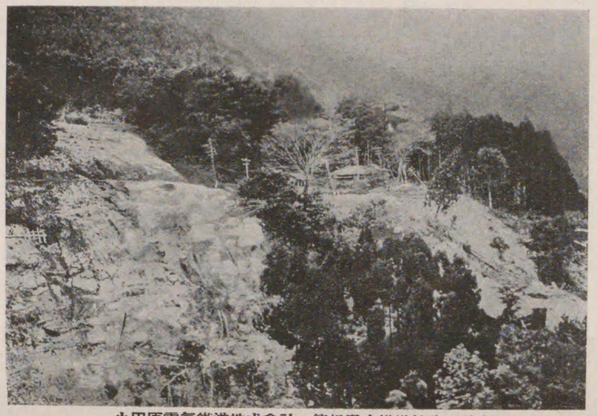
小田原電氣鐵道株式會社　湯本停車場を破壞せし大石の墜落せる狀

寫眞第四百三十一



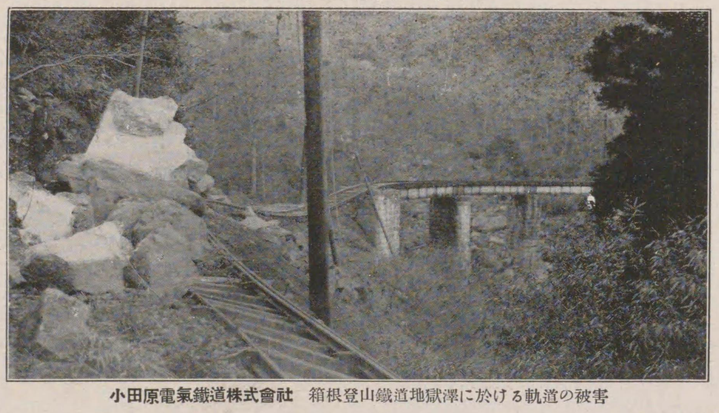
國有鐵道　安房線嶺岡山隧道蘇我起點 73 哩 7 鎖附近に於ける覆工の被害

寫眞第四百三十三



小田原電氣鐵道株式會社　箱根登山鐵道線路の被害

寫眞第四百三十四

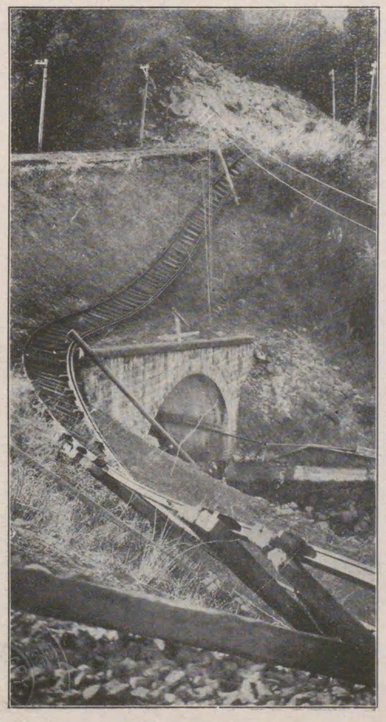


小田原電氣鐵道株式會社　箱根登山鐵道地獄澤に於ける軌道の被害

寫眞第四百三十五

小田原電氣鐵道株式會社　箱根登山鐵道蛇骨川附近に於ける軌道の被害

寫眞第四百三十六



小田原電氣鐵道株式會社　箱根登山鐵道の蛇骨川拱橋附近の軌道の被害

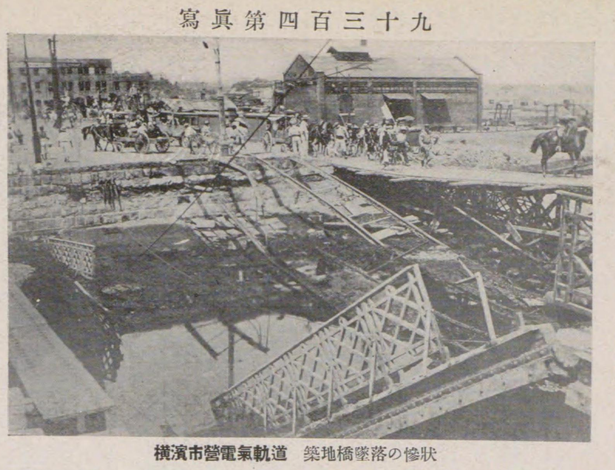
寫眞第四百三十七

小田原電氣鐵道株式會社　箱根登山鐵道橋梁の被害

寫眞第四百三十八

小田原電氣鐵道株式會社　箱根登山鐵道隧道の被害

寫眞第四百三十九

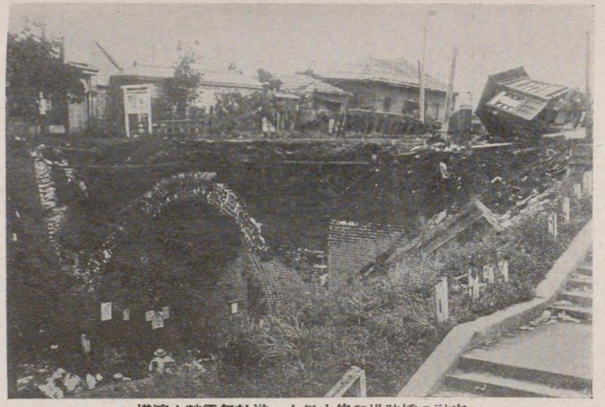


横濱市營電氣軌道　築地橋墜落の慘狀

寫眞第四百四十

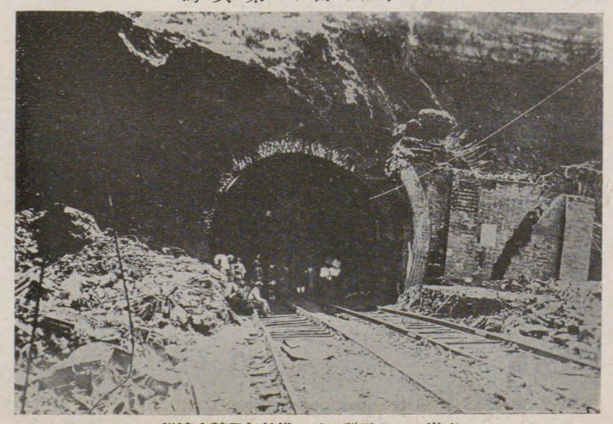
横濱市營電氣軌道　久保山停留場附近に於ける切取箇所の崩壞

寫眞第四百四十一



横濱市營電氣軌道　久保山停留場陸橋の被害

寫眞第四百四十二

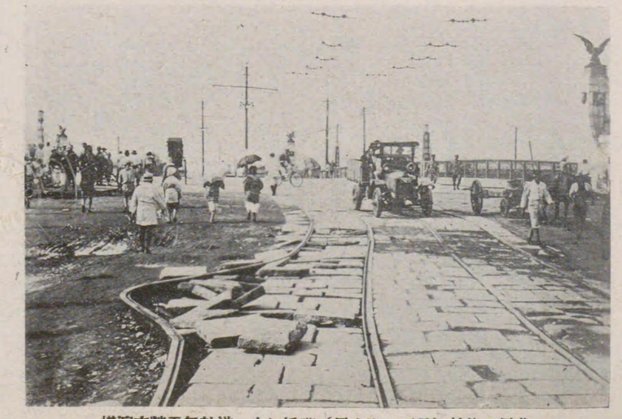


横濱市營電氣軌道　元町隧道北口の崩壞

寫眞第四百四十三

横濱市營電氣軌道　櫻木町停留場附近の被害

寫眞第四百四十四



横濱市營電氣軌道　大江橋際（尾上町六丁目）軌條の屈曲

寫眞第四百四十五

橫濱市營電氣軌道　馬車道電車交叉點附近の燒跡（垂下せる電線の下にあるは燒失電車の殘骸なり）

寫眞第四百四十六

橫濱市營電氣軌道　馬車道停留場附近に於ける軌條の破損

寫眞第四百四十七

橫濱市營電氣軌道　長島橋附近に於ける軌道の被害

寫眞第四百四十八

橫濱市營電氣軌道　住吉町一丁目に於ける軌條の屈曲（前方の樹林は横濱公園なり）

寫眞第四百四十九

橫濱市營電氣軌道　住吉町一丁目に於ける Y カーブ軌條の破壞

寫眞第四百五十一

橫濱市營電氣軌道　元町貨物電車停留場荷揚場附近に於ける護岸の破損

寫眞第四百五十

橫濱市營電氣軌道　元町電車專用橋附近に於ける軌道の破損

寫眞第四百五十二

橫濱市營電氣軌道　本牧箕輪下停留場附近の被害